

ひきこもりの実態および
ピアサポーター養成・派遣に関する
アンケート調査報告書

特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）

2015 年 3 月

目 次

はじめに	1
第一部 本人調査	3
1. 目的	
2. 調査方法	
3. 結果	
第二部 家族調査	24
1. 目的	
2. 調査方法	
3. 結果	
第三部 兄弟姉妹調査	57
1. 目的	
2. 調査方法	
3. 結果	
第四部 全体のまとめ	84
おわりに	90
参考・引用文献	92

資料

図表一覧

第一部 本人調査

表 1	本人回答者が住んでいる場所
図 1－1	本人回答者の年齢
図 1－2	本人回答者の性別
図 1－3	ひきこもりの程度
図 1－4	本人回答者と親の同・別居
図 1－5	本人回答者と親の別居期間
図 1－6	ひきこもり初発年齢
図 1－7	ひきこもり期間
図 1－8	家庭の経済状況の困難
図 1－9	家計状況の幸福感
図 1－10	父親との関係の幸福感
図 1－11	母親との関係の幸福感
図 1－12	対人関係の幸福感
図 1－13	全体的幸福感
図 1－14	ひきこもり経験者から支援を受けた経験
図 1－15	ひきこもり経験者から受けたことのある支援
図 1－16	ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験
図 1－17	ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援

第二部 家族調査

表 2	家族回答者が住んでいる場所
図 2－1	家族回答者の続柄
図 2－2	家族回答者の年齢
図 2－3	ひきこもり本人の性別
図 2－4	ひきこもり本人の年齢
図 2－5	兄弟姉妹の有無
図 2－6	兄弟姉妹の人数
図 2－7	兄弟姉妹の続柄

図 2－8	兄弟姉妹と家族回答者の同・別居
図 2－9	兄弟姉妹とご本人の同・別居
図 2－10	ひきこもり本人と家族回答者の同・別居
図 2－11	ひきこもり本人と家族回答者の別居期間
図 2－12	ひきこもり初発年齢
図 2－13	ひきこもり期間
図 2－14	支部への所属
図 2－15	ひきこもりの程度
図 2－16	ひきこもり本人の支援・医療機関の利用
図 2－17	利用機関数（本人）
図 2－18	家族回答者の支援・医療機関の利用
図 2－19	利用機関数（家族）
図 2－20	家庭の経済状況の困難
図 2－21	家計状況の幸福感
図 2－22	ひきこもり本人との関係の幸福感
図 2－23	家族関係の幸福感
図 2－24	全体的幸福感
図 2－25	世帯主
図 2－26	世帯収入
図 2－27	ひきこもり本人にかかる費用（月）
図 2－28	費用の内訳
図 2－29	ひきこもり経験者から支援を受けた経験
図 2－30	ひきこもり経験者から受けたことのある支援
図 2－31	ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験
図 2－32	ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援

第三部 兄弟姉妹調査

表 3	兄弟姉妹回答者が住んでいる場所
図 3－1	兄弟姉妹回答者の続柄
図 3－2	兄弟姉妹回答者の年齢
図 3－3	ひきこもり本人の性別
図 3－4	ひきこもり本人の年齢
図 3－5	父親の年齢
図 3－6	母親の年齢
図 3－7	ひきこもり本人と家族回答者の同・別居

図 3－8	ひきこもり本人と兄弟姉妹回答者の同・別居
図 3－9	ひきこもり初発年齢
図 3－10	ひきこもり期間
図 3－11	支部への所属
図 3－12	ひきこもりの程度
図 3－13	兄弟姉妹回答者の支援・医療機関の利用
図 3－14	ひきこもり本人の支援・医療機関の利用
図 3－15	家庭の経済状況の困難
図 3－16	家計状況の幸福感
図 3－17	ひきこもり本人との関係の幸福感
図 3－18	両親との関係の幸福感
図 3－19	全体的幸福感
図 3－20	ひきこもり本人の家庭の世帯主
図 3－21	兄弟姉妹回答者の家庭の世帯主
図 3－22	世帯収入
図 3－23	ひきこもり経験者から支援を受けた経験
図 3－24	ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験

はじめに

本報告書の目的は、当会の支部に参加されている家族や引きこもり本人が、ひきこもりピアサポーターから支援を受けた経験がどの程度あるかを明らかにすることでした。そのために、現在、ご本人やご家族が受けているピアサポートについて調査を行いました。また、10年以上にわたり実施している、引きこもりの実態に関する調査を継続して行いました。

本報告書によって示された知見が、今後のひきこもりサポーター養成研修・派遣活動の一つの指針になり、ピアサポーター活動の発展につながればと考えております。

本年度の調査では、家族310名、ひきこもり経験者58名の協力が得られました。また、本年度初めて、兄弟姉妹の方を対象とした調査を行い、兄弟姉妹7名からご回答いただきました。当会では、多くの家族・ひきこもり経験者、兄弟姉妹のご協力をいただき、このような全国規模の調査を12年間に渡って実施しており、他にはない貴重な知見を提供し続けています。

最後に、本調査の実施にご協力くださった全国引きこもりKHJ親の会の各支部の会員の皆様、各支部の代表の方々に心より感謝を申し上げます。ご協力くださった皆様のご厚意を無駄にしないよう、本調査の結果を広く普及、活用していく所存です。

なお、本調査は、厚生労働省の平成26年度社会福祉推進事業「全国各地の親の会における、ひきこもりピアサポーター養成研修派遣に関する調査研究事業」の助成を受けて実施することができました。ここに記して御礼申し上げます。

平成27年3月吉日

特定非営利活動法人全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）

代表理事 池田佳世

第一部 本人調査

1. 目的

本調査においては、ひきこもりの実態およびピアサポーターに求める支援について調査を実施しました。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

NPO 法人全国引きこもり親の会（以下、「親の会」とする）の支部が平成 26 年 9 月～平成 26 年 12 月に開催した月例会において調査を実施しました。月例会参加者のうち、調査協力の得られた 58 名の回答が分析に用いられました。

(2) 調査内容（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください）

①基礎情報 本人調査に回答した方（以下、本人回答者）及び、ひきこもり状態にある人（以下、ひきこもり本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・現在住んでいる都道府県
- ・年齢
- ・性別
- ・現在のひきこもりの程度
- ・家族との同・別居
- ・ひきこもりの期間
- ・経済状況の困難度
- ・家族や対人関係の幸福感

②ひきこもりピアサポーターについて

- ・ひきこもり経験者から支援を受けた経験
- ・ひきこもり経験者から受けたことのある支援
- ・ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験
- ・ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援

(3) 調査手続き

調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方がのみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰ってもらいました。

回答者には、月例会において調査用紙と返信用封筒を配布し、返信用封筒に入れて郵送にて回収をしました。

3. 結果

(1) 本人回答者が住んでいる場所

表1 本人回答者が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
北海道・東北地方	北海道	0	近畿地方	三重県	0
	青森県	0		滋賀県	0
	岩手県	0		京都府	5
	宮城県	0		大阪府	1
	秋田県	0		兵庫県	0
	山形県	0		奈良県	0
関東地方	福島県	0	中国地方	和歌山県	0
	茨城県	0		鳥取県	0
	栃木県	4		島根県	0
	群馬県	0		岡山県	1
	埼玉県	2		広島県	1
	千葉県	17		山口県	0
中部地方	東京都	1	四国地方	香川県	3
	神奈川県	0		愛媛県	2
	山梨県	0		徳島県	0
	長野県	0		高知県	2
	新潟県	0	九州地方	福岡県	0
	富山県	0		佐賀県	0
	石川県	0		長崎県	0
	福井県	0		熊本県	0
	静岡県	4		大分県	1
	愛知県	5		宮崎県	0
	岐阜県	0		鹿児島県	0
				沖縄県	0
			不明		1
			記入なし		8
			合計		58

表1に示したとおり、本人回答者が住んでいる場所は14都府県に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が0%、関東地方が49.0%、中部地方が18.4%、近畿地方が12.2%、中国地方が4.1%、四国地方が14.3%、九州地方が2.0%となっています。千葉県は回答者が特に多いことが分かります。この県では、親の会が運営している居場所に本人回答者が多く参加しているものと考えられます。

(2) 本人回答者の年齢

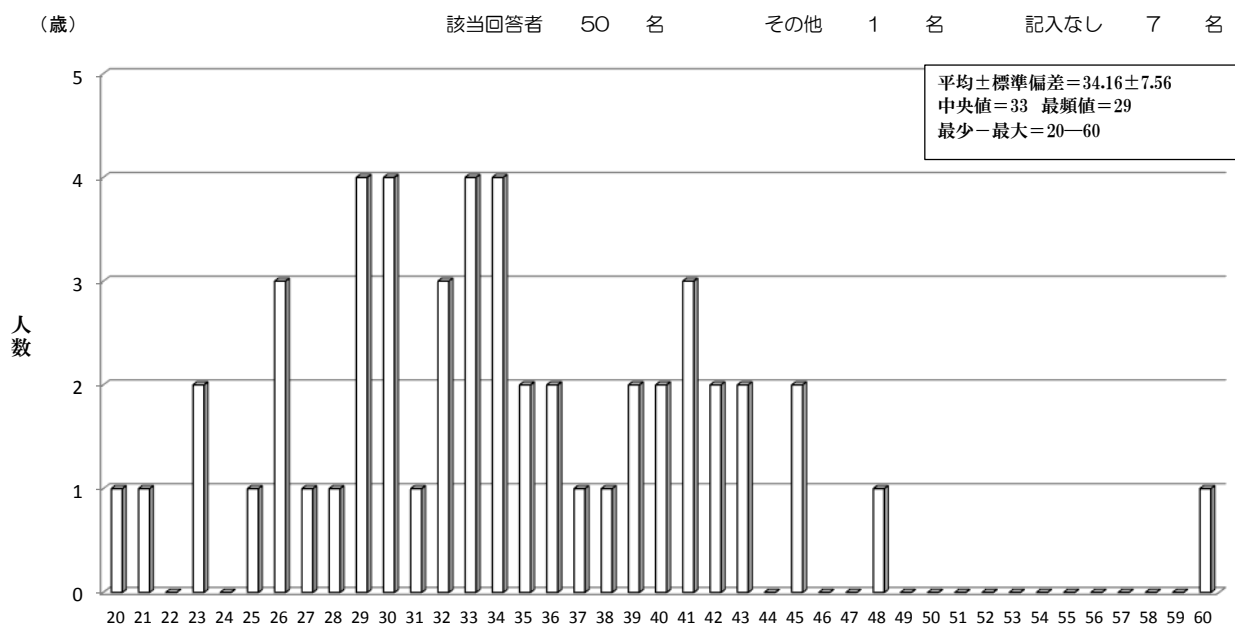


図1-1 本人回答者の年齢

本人回答者の平均年齢は 34.16 歳±7.56 歳であり，最年少が 20 歳，最年長が 60 歳でした。男性においては平均年齢が 34.67 歳，女性においては 31.71 歳でした。親の会に参加しているひきこもり経験者の 7 割以上の方が 30 歳を超えていることが分かります。また，家族調査のひきこもり本人の平均年齢よりも高い値となっています。昨年度の当会の全国調査では，本人回答者の平均年齢が 34.02 歳でしたので，ほぼ同様の結果でした。

（３）本人回答者の性別

本人回答者の性別は男性が 86.0%，女性が 14.0%でした。家族調査の結果よりもやや男性の割合が多いことが分かります。昨年度の当会の全国調査では，男性の割合が 75.7%でしたが，今回の調査では男性の割合が増加しています。

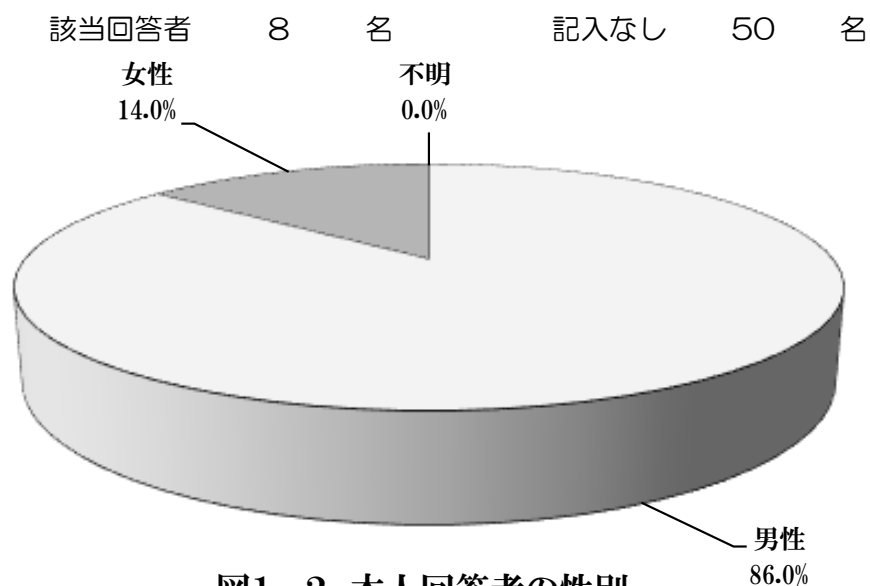


図1-2 本人回答者の性別

(4) ひきこもりの程度

ひきこもりの程度については、図1－3から家庭内では自由に行動でき、外出も自由にできている人が多いと言えます。親の会に参加している本人回答者の方は、ひきこもりから回復してきている人が多いことが分かります。

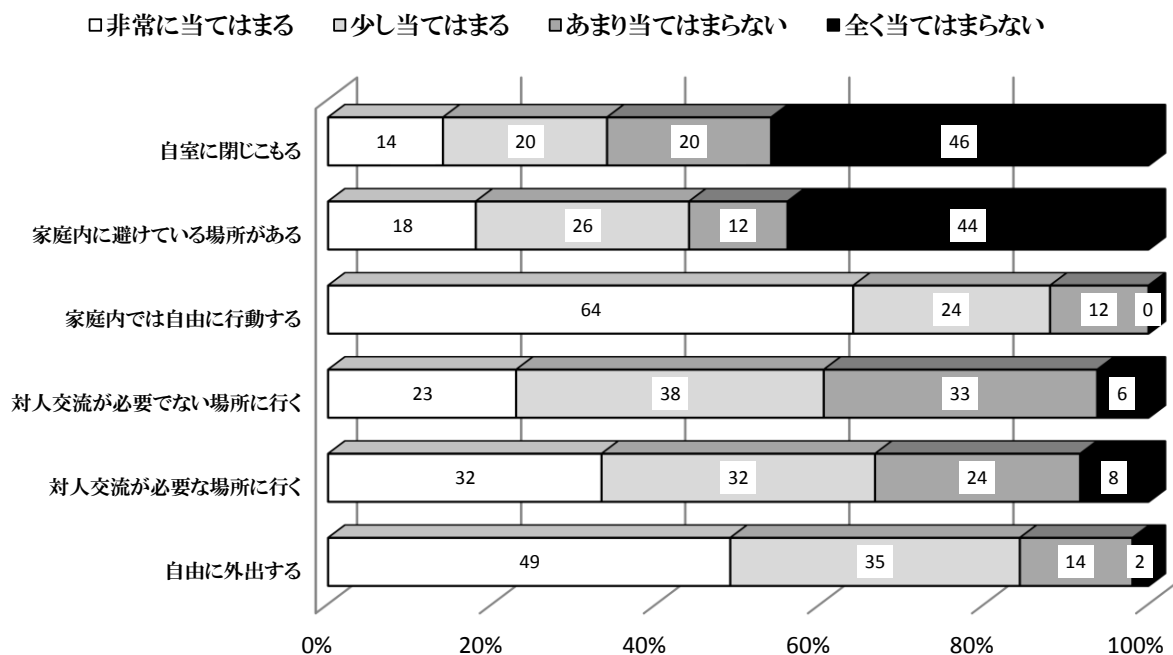


図1－3 ひきこもりの程度

(5) 本人回答者と家族の同別居

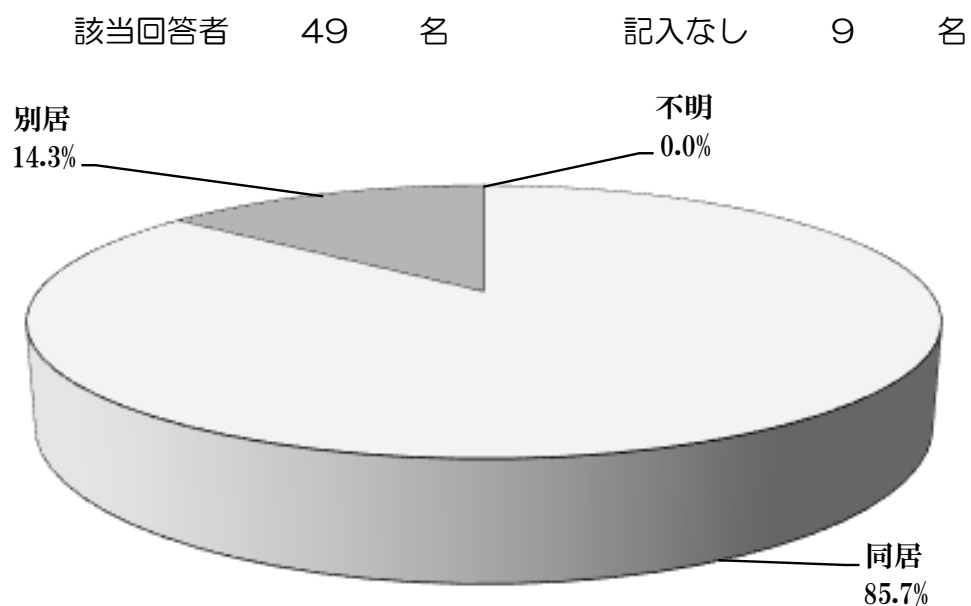


図1-4 本人回答者と親の同・別居

図1-4に示すように、本人回答者と家族の同別居に関しては、同居している人が85.7%であり、別居している人は14.3%です。家族調査の86.6%と同程度の割合であることが分かります。昨年度の全国調査では、本人調査における同居している人は74.3%でしたので、今回の調査では同居している人が増加しています。

また、図1-5のように、別居している人は別居期間が1年未満から10年まで多岐にわたっています。

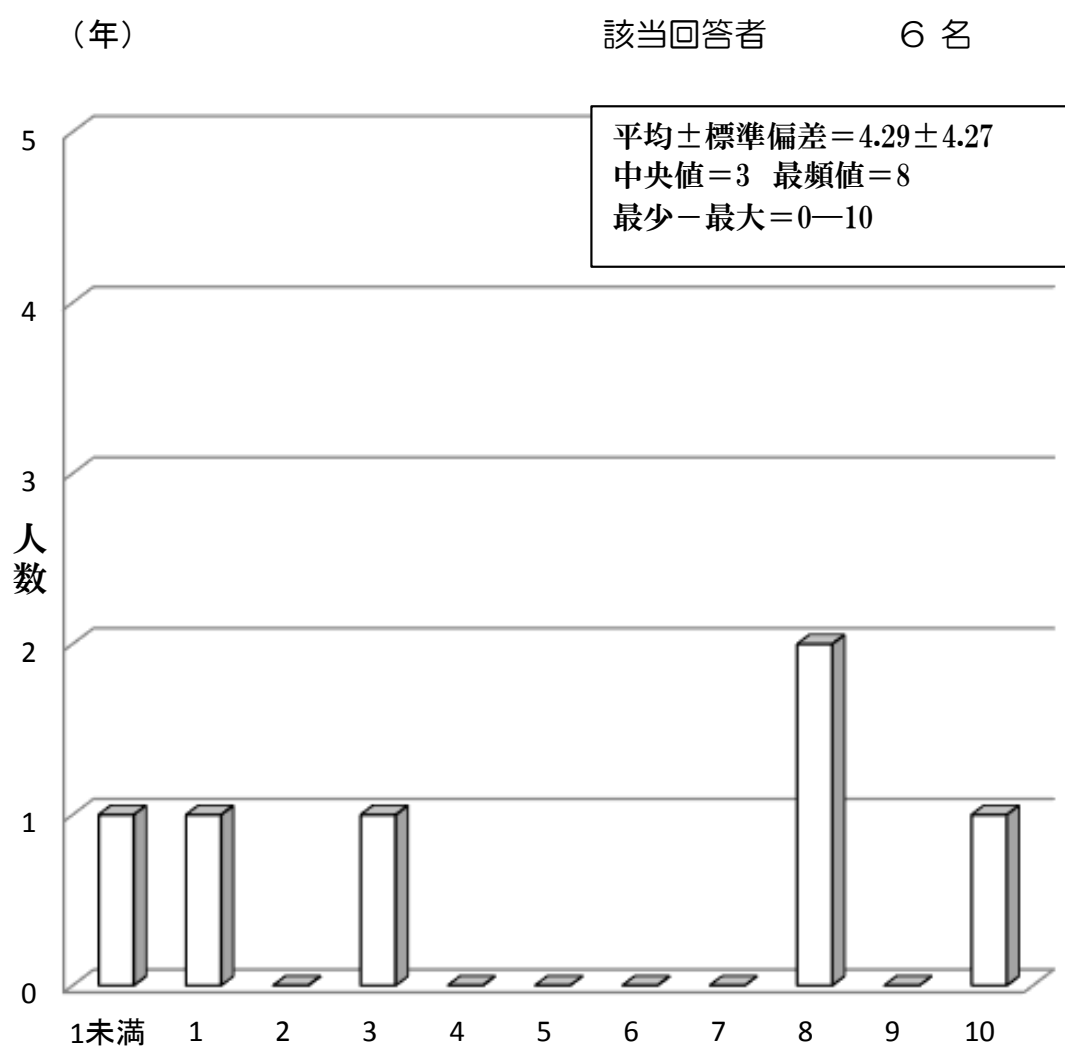


図1-5 本人回答者と親の別居期間(年)

(6) ひきこもりの初発年齢

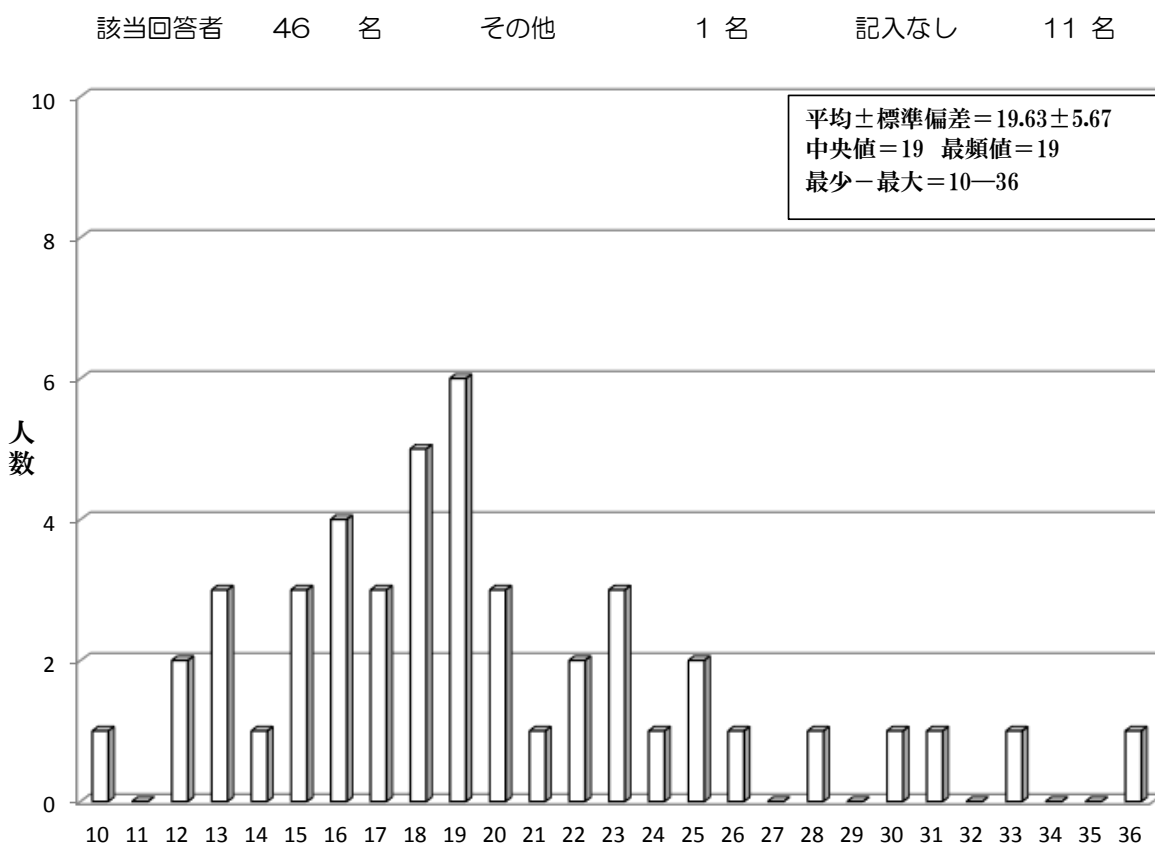


図1-6 ひきこもり初発年齢

ひきこもりが始まった時期については、図1-6に示すとおり、平均年齢は19.63歳、最年少が10歳、最年長が36歳でした。昨年度の調査では、平均年齢が18.92歳でしたので、0.7年程度始まった時期が遅くなっています。

(7) ひきこもり期間

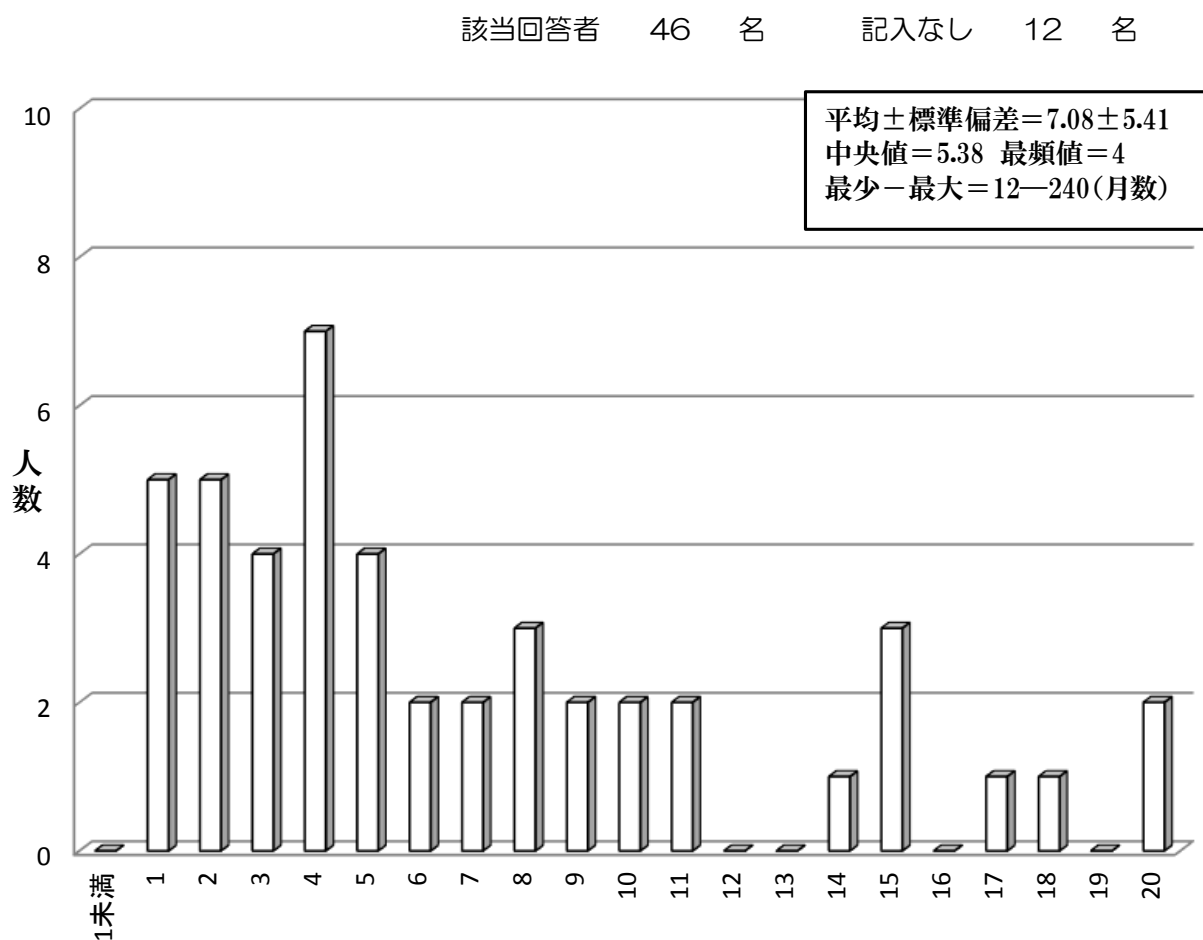


図1-7 ひきこもり期間(年)

ひきこもり期間は、図1-7に示すとおり、平均7.08年、最少が12ヶ月、最大は240ヶ月でした。昨年度の調査では、平均ひきこもり期間が7.41年でしたので、わずかに短くなっていることが分かります。

（８）家庭の経済状況の困難

家庭の経済状況の困難度は、0～100のうち、本人回答者では12.2%の方が80以上と回答していることが分かりました。この結果は、家族回答者の回答よりも困難度が高いことを示しており、本人回答者の方が困難を感じている現状が伺えます。また、前回の調査では、平均値が48.12でしたので、ほぼ同程度の困難を示していることがわかります。

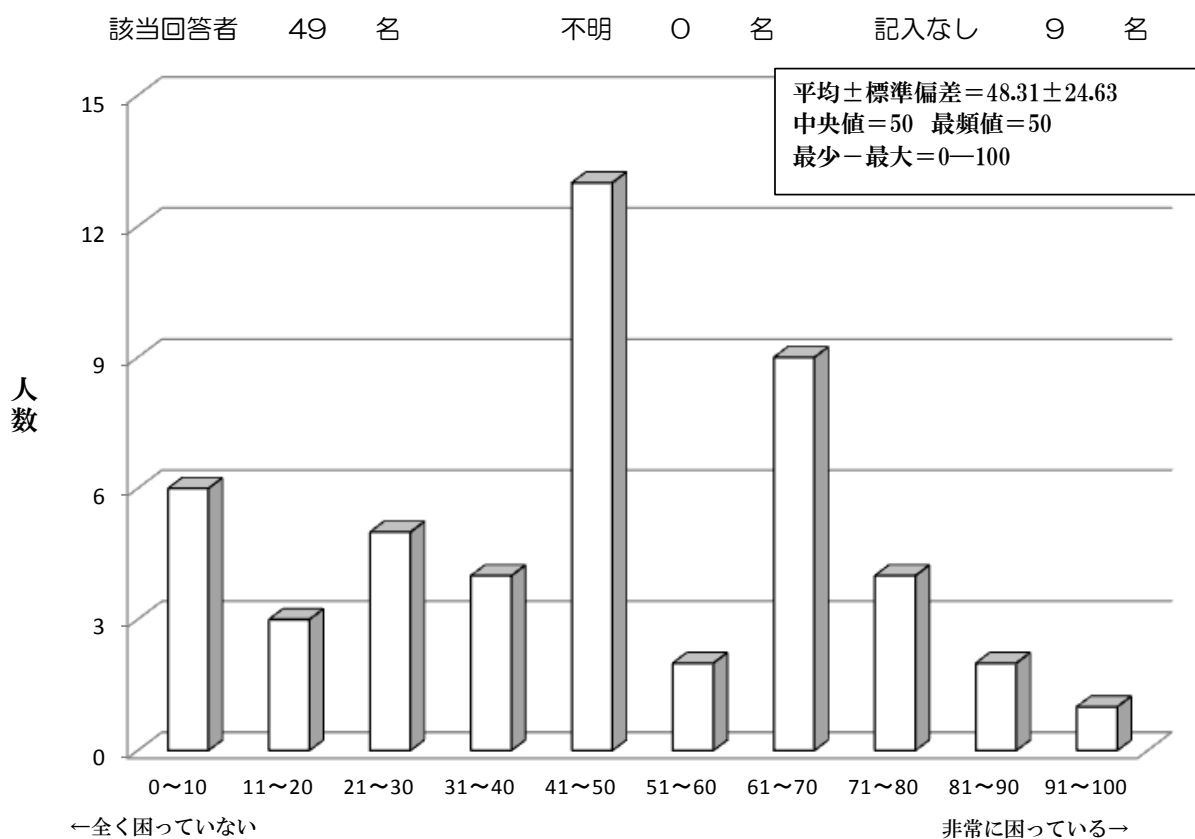
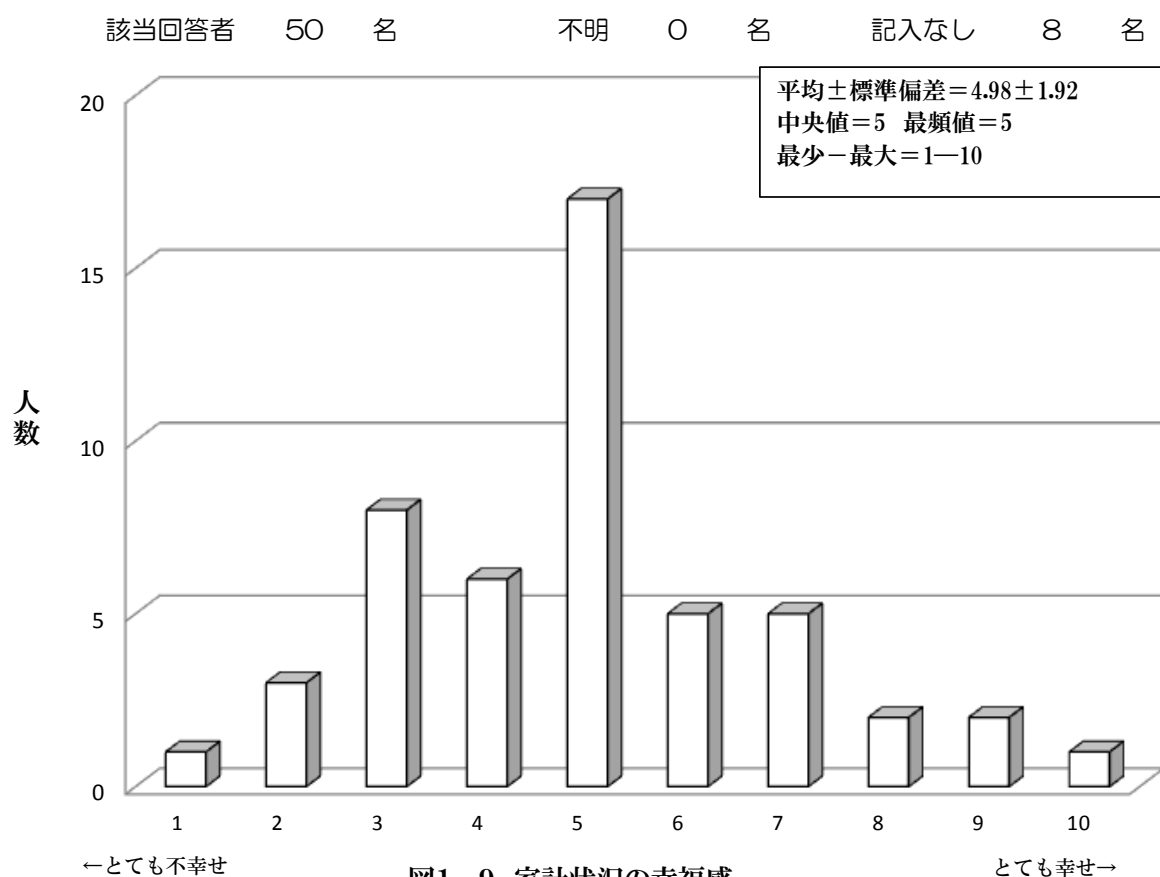


図1-8 家庭の経済状況の困難

(9) 家計状況の幸福感

家計状況の幸福感は、本人回答では24%の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました。これらの方は、家計について幸福感が低いことが予想されます。その一方で、多くの人は5と回答しており、家計状況の幸福感に関してどちらともいえない状況にあることが分かります。



(10) 父親との関係

父親との関係についての幸福感は、本人回答では約31%の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました。これらの方は、父親との関係について幸福感が低いことが予想されます。その一方で、多くの人は5と回答しており、父親との関係についての幸福感に関してどちらともいえない状況にあることが分かります。

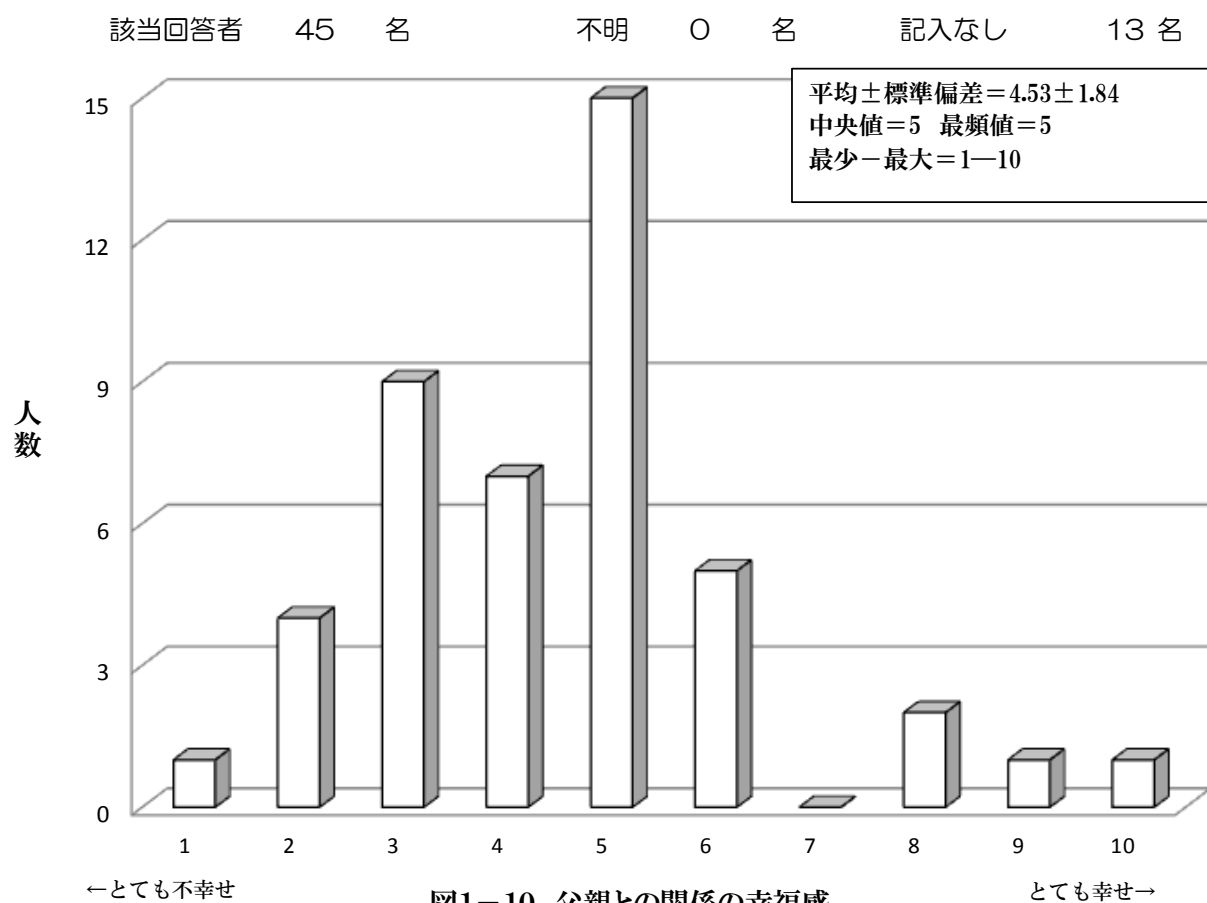


図1-10 父親との関係の幸福感

(11) 母親との関係

母親との関係についての幸福感は、本人回答では約13%の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました。これらの方は、母親との関係について幸福感が低いことが予想されます。父親との関係と比べると、母親との関係の方が幸福感が高いと回答した人が多いことが分かります。

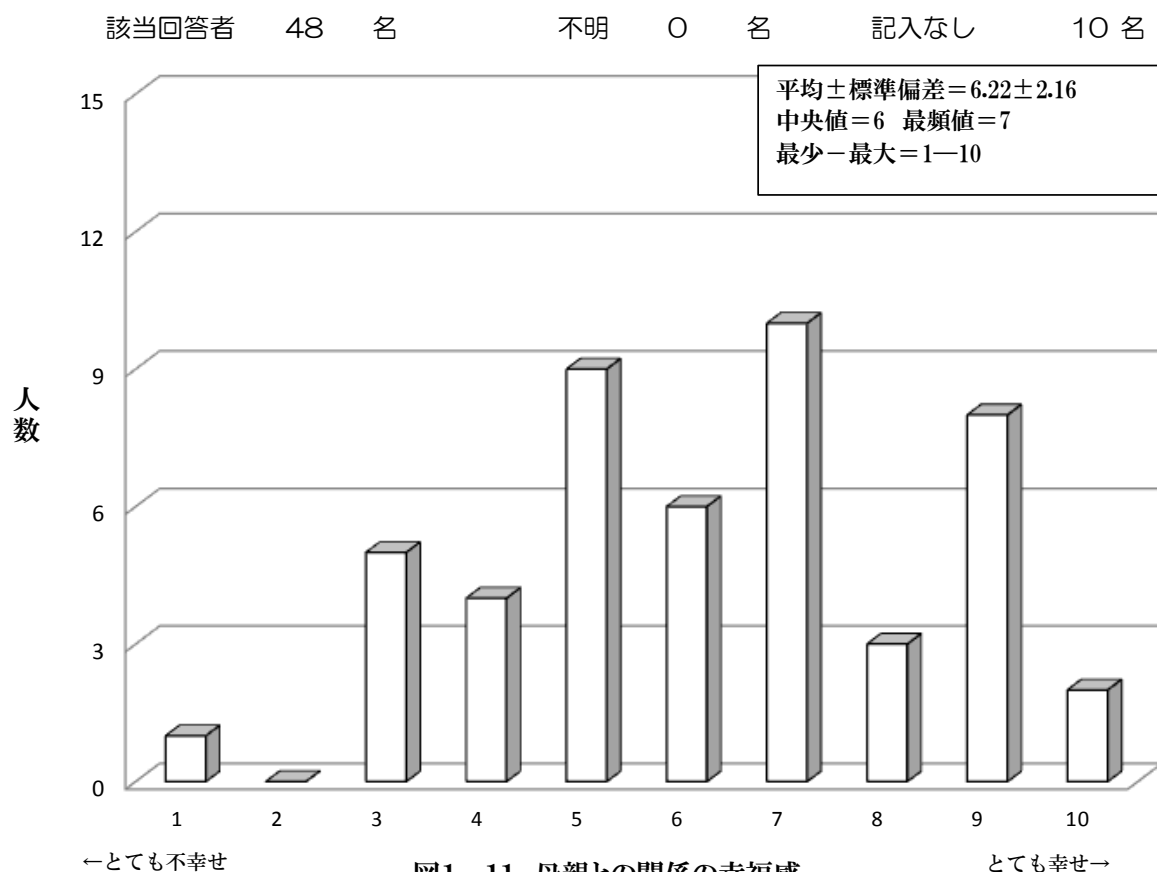


図1-11 母親との関係の幸福感

（１２）対人関係の幸福感

対人関係の幸福感は、本人回答では 32%の方が 10 段階で 3 以下と回答していることが分かりました。これらの方は、対人関係の幸福感が低いことが予想されます。対人関係の幸福感は、父親との関係の幸福感と同程度であることが分かります。

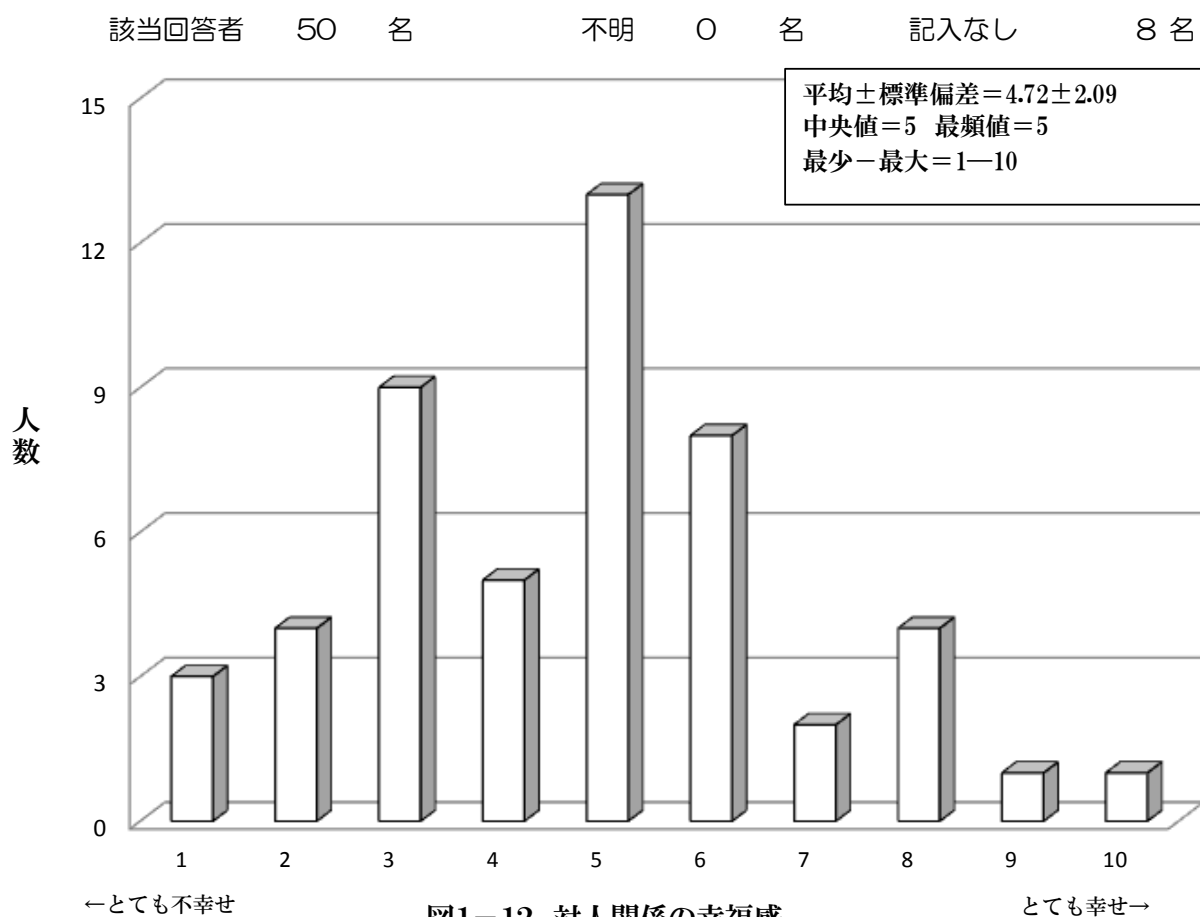


図1-12 対人関係の幸福感

(13) 全体的幸福感

全体的な幸福感は、本人回答では38%の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました。これらの方は、全体的な幸福感が低いことが予想されます。また、父親との関係や対人関係の幸福感と同程度に幸福感が低いことがわかります。

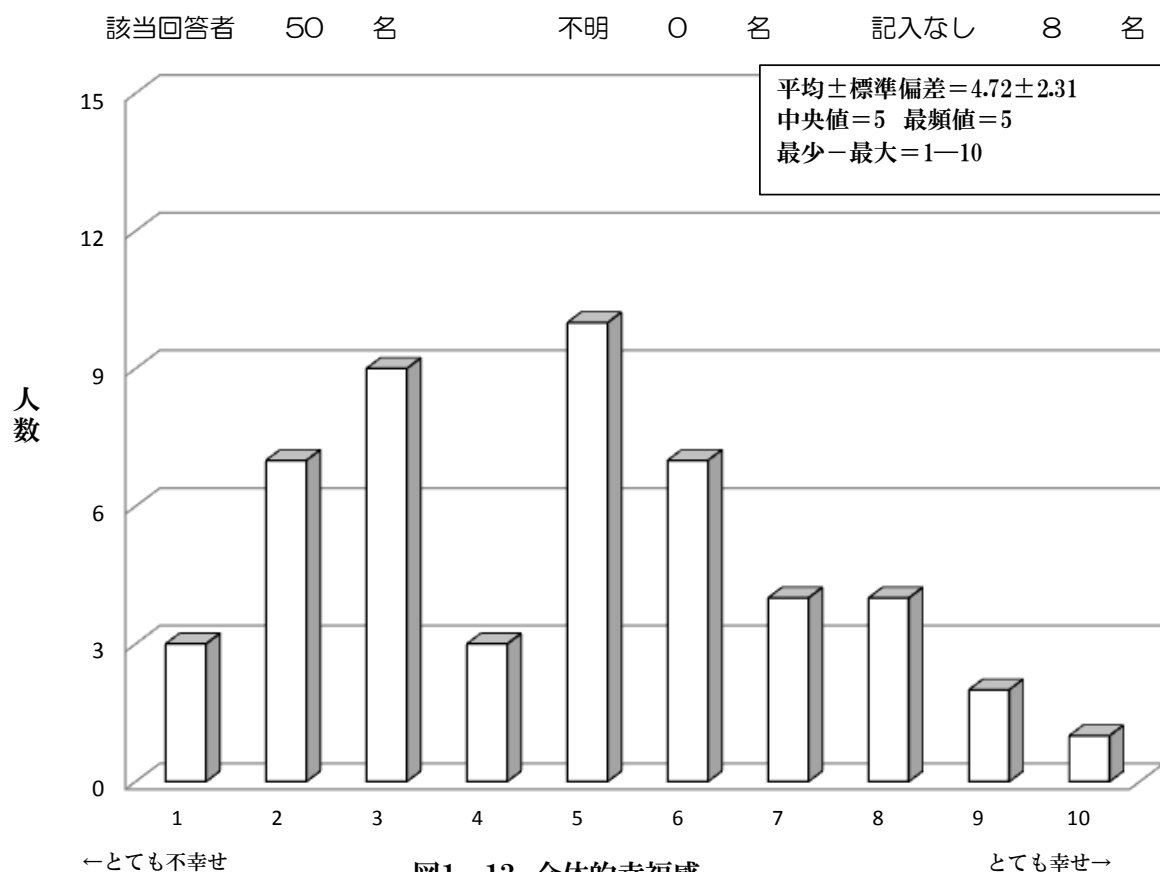


図1-13 全体的幸福感

(14) ひきこもり経験者から支援を受けた経験

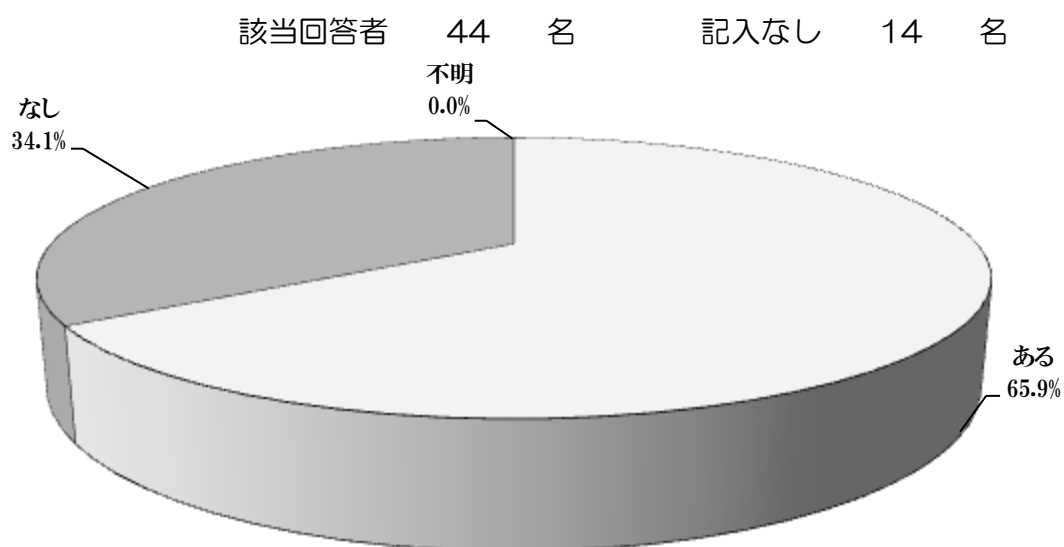


図1-14 ひきこもり経験者から支援を受けた経験

本人回答者の65.9%は、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがあると回答しました。昨年度の調査では、55.8%でしたので、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがある人の割合が昨年度より約10%高いことが分かります。

(15) ひきこもり経験者から受けたことのある支援

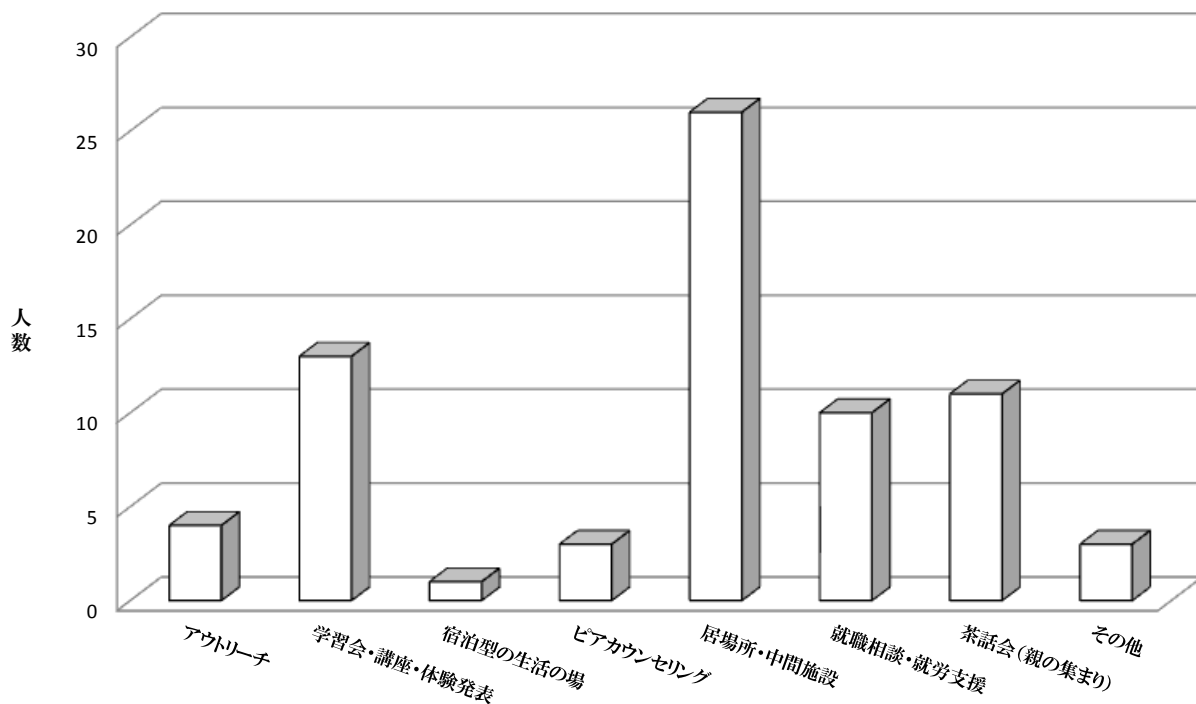


図1-15 ひきこもり経験者から受けたことのある支援

受けたことのある支援内容については居場所・中間施設がもっとも多く、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがある本人回答者のうち、約37%は居場所・中間施設に関する支援を受けたことがあると回答しました。

(16) ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験

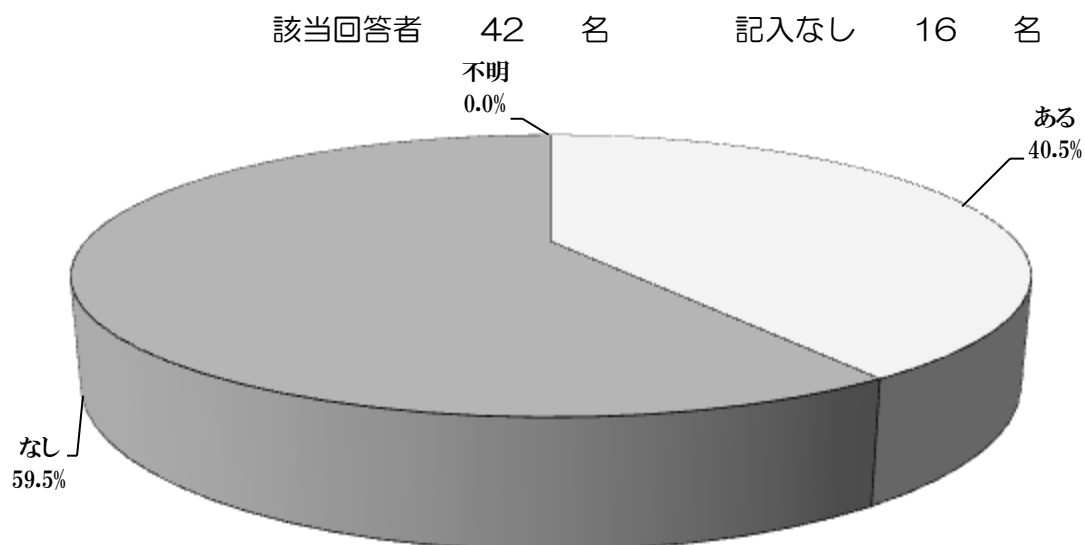


図1-16 ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験

本人回答者の40.5%は、ひきこもり経験者の家族からの支援を受けたことがあると回答しました。昨年度の調査では、34.5%でしたので、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがある人の割合が昨年度より約6%高いことが分かります。一方で、ひきこもり経験者から支援を受けた経験の割合よりも低いことがわかりました。

（１７）ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援

受けたことのある支援内容については居場所・中間施設がもっとも多く、ひきこもり経験者の家族からの支援を受けたことがある本人回答者のうち、約 38%は居場所・中間施設に関する支援を受けたことがあると回答しました。この割合は、ひきこもり経験者から受けたことのある支援の割合と同程度でした。

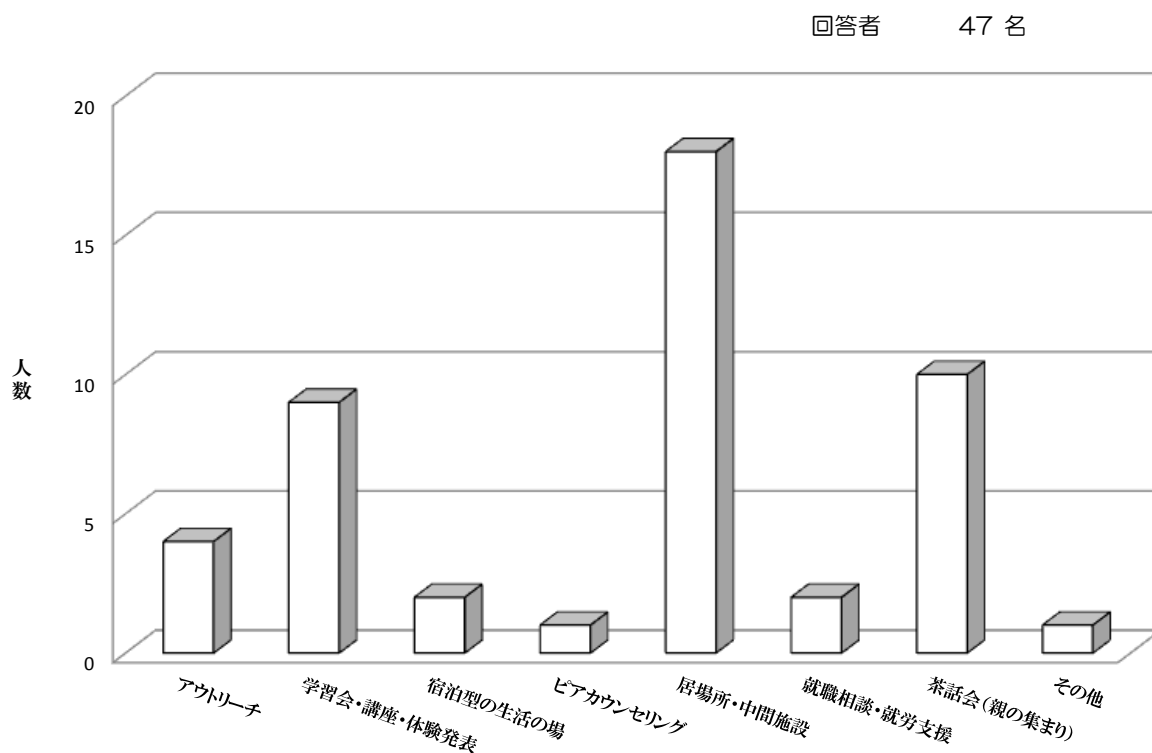


図1-17 ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援

第二部 家族調査

1. 目的

本調査においては、ひきこもりの実態およびピアサポーターに求める支援について調査を実施しました。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

NPO 法人全国引きこもり親の会（以下、「親の会」とする）の支部が平成 26 年 9 月～平成 26 年 12 月に開催した月例会において調査を実施しました。月例会参加者のうち、調査協力の得られた 310 名の回答が分析に用いられました。

(2) 調査内容（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください）

①基礎情報 家族調査に回答した方（以下、家族回答者）及び、ひきこもり状態にある人（以下、ひきこもり本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・家族回答者が住んでいる都道府県
- ・家族回答者の続柄
- ・家族回答者の年齢
- ・ひきこもり本人の性別
- ・ひきこもり本人の年齢
- ・兄弟姉妹の有無
- ・家族回答者とひきこもり本人の同・別居
- ・ひきこもりの期間
- ・支部への所属
- ・ひきこもりの程度
- ・ひきこもり本人の支援・相談機関利用状況
- ・家族回答者の支援・相談機関利用状況
- ・経済の困難度
- ・ひきこもり本人との関係や家族関係の幸福感
- ・世帯主
- ・世帯年収
- ・ひきこもり本人にかかる費用

②ひきこもりピアサポーターについて

- ・ひきこもり経験者から支援を受けた経験
- ・ひきこもり経験者から受けたことのある支援
- ・ひきこもり経験者の家族から支援を受けた支援
- ・ひきこもり経験者かの家族から受けたことのある支援

(3) 調査手続き

調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方のみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰ってもらいました。

回答者には、月例会において調査用紙と返信用封筒を配布し、返信用封筒に入れて郵送にて回収をしました。

3. 結果

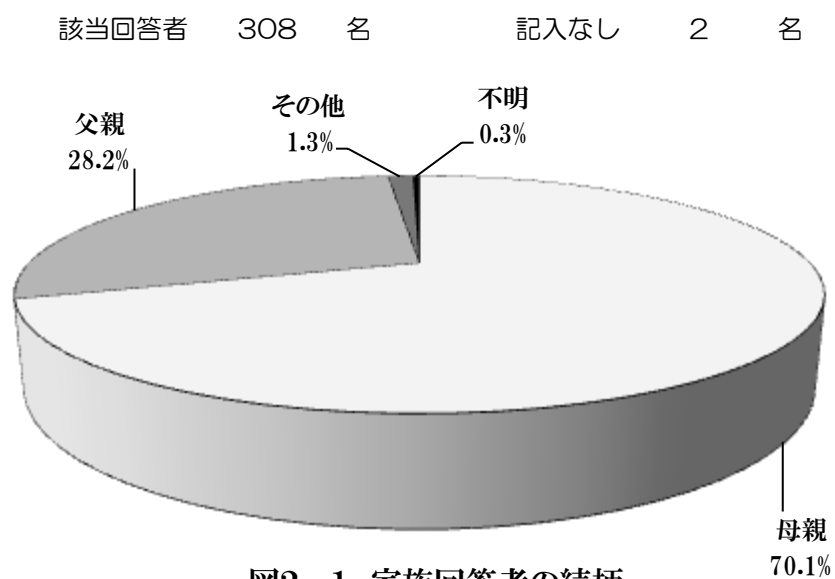
(1) 家族回答者が住んでいる場所

表2 家族回答者が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
北海道・東北地方	北海道	15	近畿地方	三重県	2
	青森県	0		滋賀県	0
	岩手県	0		京都府	0
	宮城県	5		大阪府	2
	秋田県	0		兵庫県	0
	山形県	0		奈良県	1
	福島県	0		和歌山県	0
関東地方	茨城県	0	中国地方	鳥取県	0
	栃木県	15		島根県	0
	群馬県	2		岡山県	4
	埼玉県	23		広島県	9
	千葉県	36		山口県	0
	東京都	24		香川県	21
	神奈川県	6		愛媛県	21
中部地方	山梨県	0	四国地方	徳島県	0
	長野県	0		高知県	8
	新潟県	11		福岡県	9
	富山県	5		佐賀県	1
	石川県	12		長崎県	0
	福井県	0		熊本県	0
	静岡県	26		大分県	3
	愛知県	35		宮崎県	3
	岐阜県	2		鹿児島県	2
				沖縄県	0
			不明		2
			記入なし		5
			合計		310

表2に示したとおり、家族回答者が住んでいる場所は27都道府県に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が6.6%、関東地方が35.0%、中部地方が30.0%、近畿地方が1.7%、中国地方が4.3%、四国地方が16.5%、九州地方が5.9%となっています。千葉県や愛知県は回答者が特に多いことが分かります。これらの県では、親の会に家族回答者が多く参加しているものと考えられます。

(2) ひきこもり本人と家族回答者の続柄



ひきこもり本人と家族回答者の続柄は、母親が70.1%、父親が28.2%、その他が1.3%、不明が0.3%でした。その他としては、兄などが見られました。

(3) 家族回答者の年齢

家族回答者の年齢を図2-2に示します。家族回答者の平均年齢は63.64歳であり、最年少が40歳、最年長が81歳でした。母親の年齢に関しては、平均61.96歳であり、最年少が45歳、最年長が80歳でした。父親の年齢については、平均67.76歳であり、最年少52歳、最年長82でした。昨年度の平均年齢は母親が61.7歳、父親が66.3歳であり、父親の年齢は昨年より約1.4歳高いことが示されました。

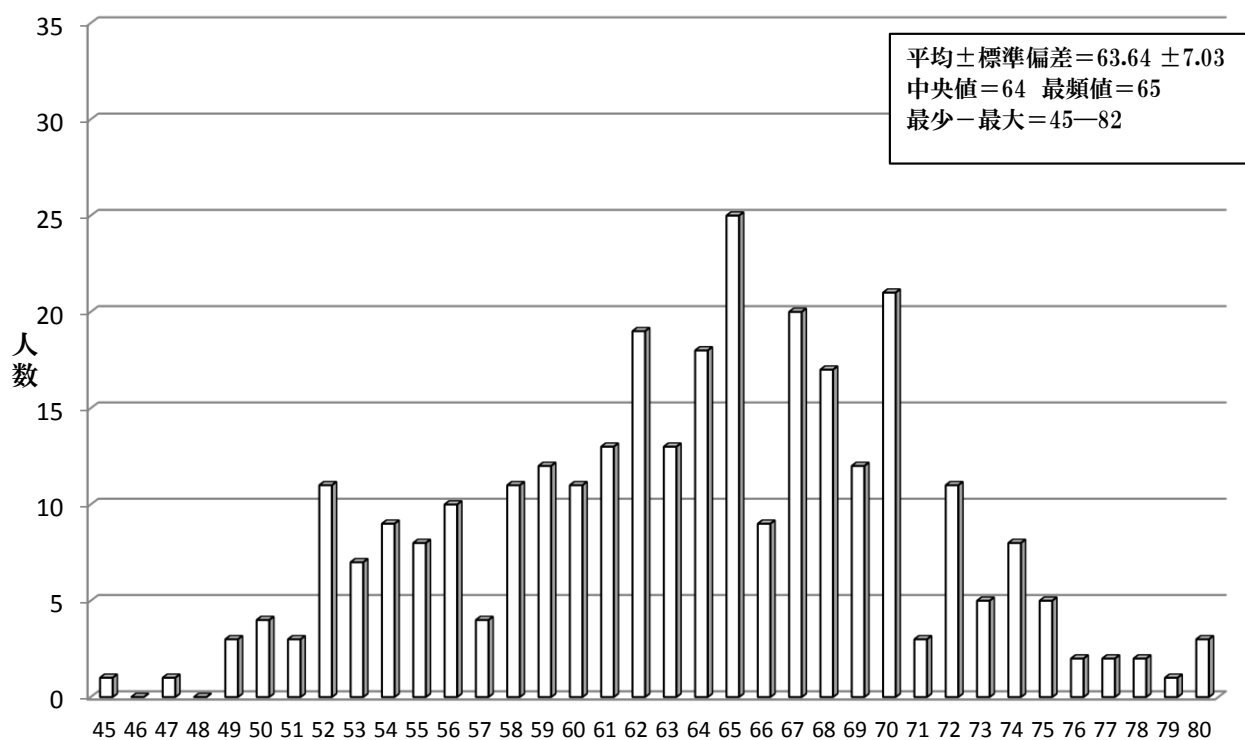


図2-2 家族回答者の年齢

(4) ひきこもり本人の性別

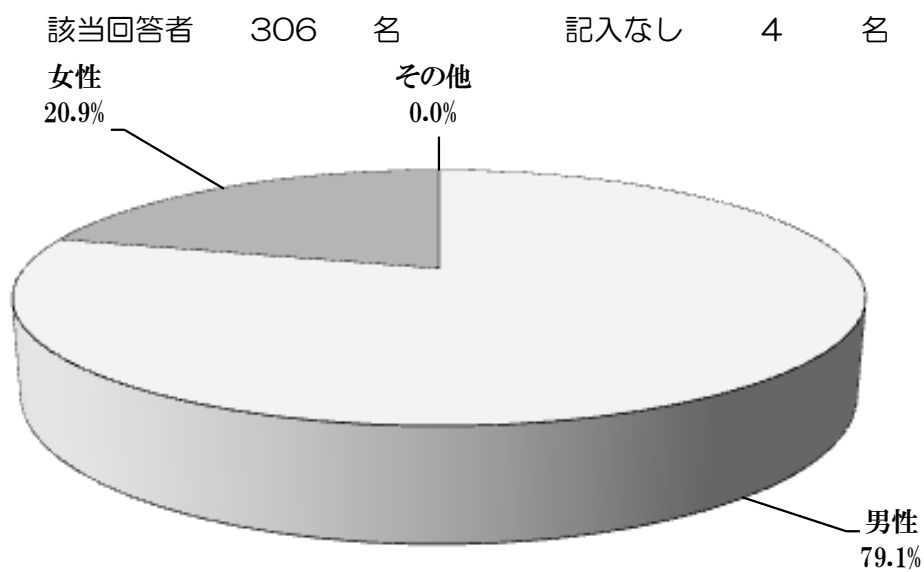


図2-3 ひきこもり本人の性別

ひきこもり本人の性別については、男性が79.1%、女性が20.9%でした。調査開始以降、一貫して男性が多いことは、ひきこもりの一つの特徴であると言えます。

（５）ひきこもり本人の年齢

全体では平均 33.24 歳であり，最年少が 11 歳，最年長が 54 でした。男性に関しては，平均年齢 33.3 歳であり，最年少が 11 歳，最年長が 54 歳でした。女性に関しては，平均年齢 33.06 歳，最年少が 18 歳，最年長が 45 歳でした。昨年度は全体で 33.07 歳，男性で 33.2 歳，女性で 32.6 歳でした。本年の調査においては，年齢の上昇はほぼ認められていません。

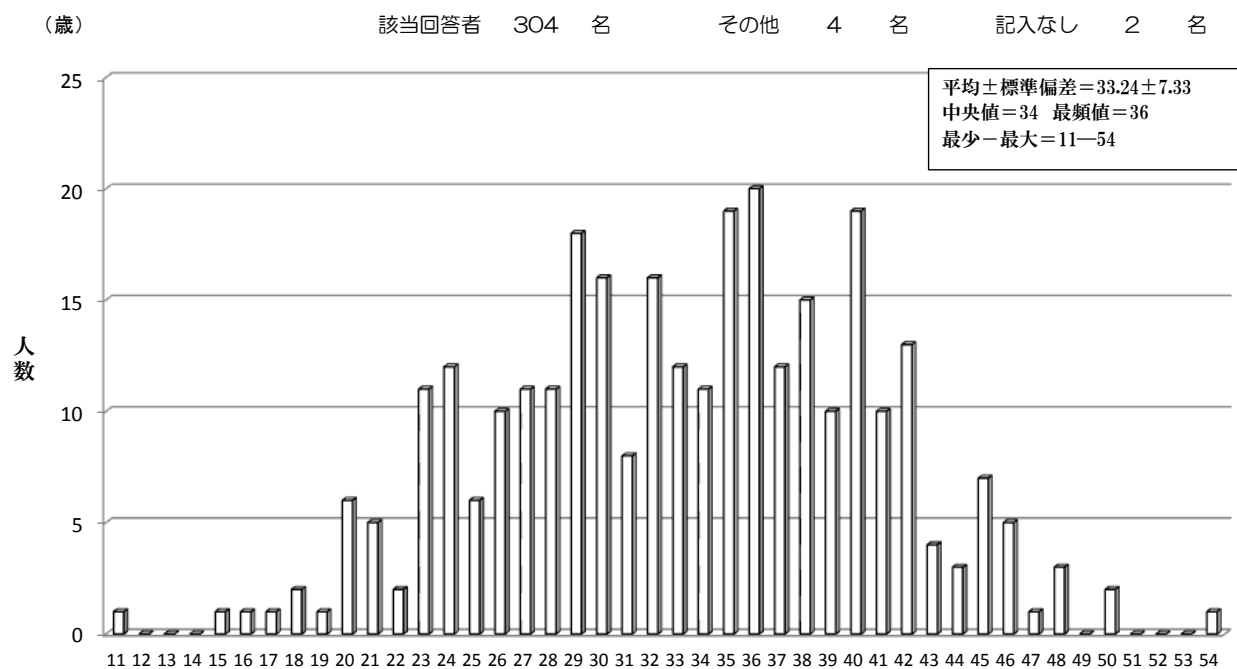


図2-4 ひきこもり本人の年齢

（６）兄弟姉妹について

図２－５には兄弟姉妹の有無，図２－６には兄弟姉妹の人数，図２－７には兄弟姉妹の続柄を示しています。図２－５の通り，多くの家族回答者がひきこもり本人には兄弟姉妹がいると回答しています。また，図２－６の通り，兄弟姉妹の人数は１人が６割以上に及んでいます。さらに，図２－７に示された通り，兄弟姉妹には兄や姉といった年上の人よりも，弟や妹といった年下がやや少ないことが示されました。

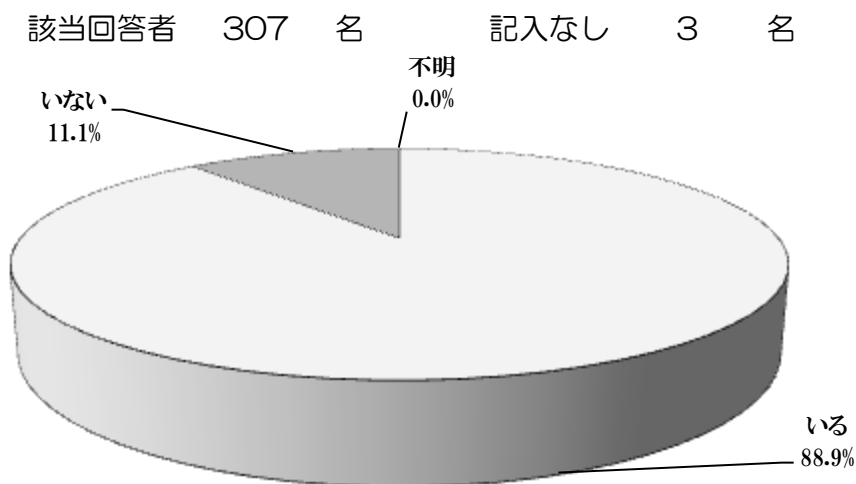


図2－5 兄弟姉妹の有無

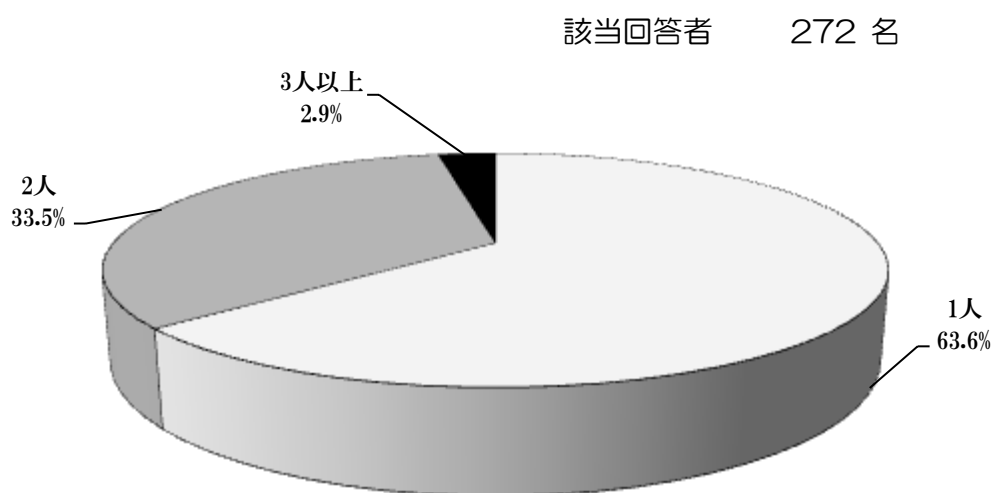


図2－6 兄弟姉妹の人数

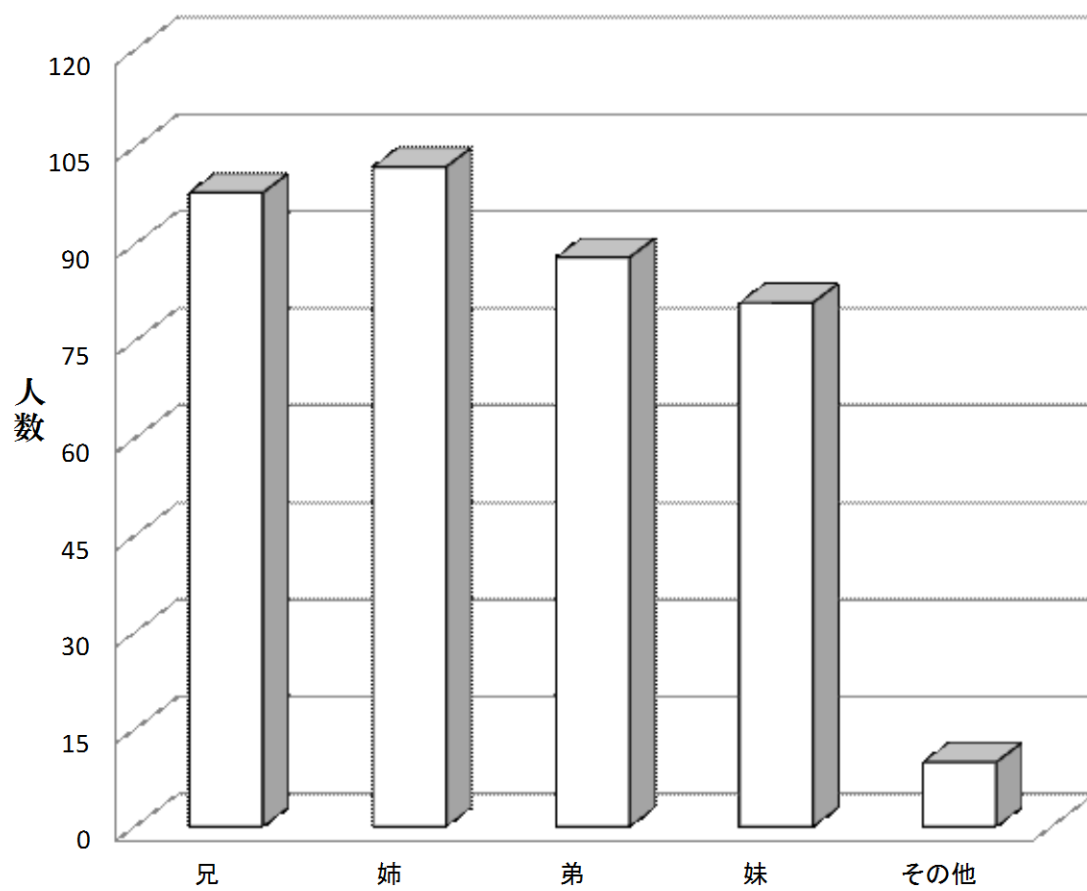


図2-7 兄弟姉妹の続柄

（７）家族回答者との同別居

図２－８から２－１０に示すように、同別居に関しては、同居している割合が兄弟姉妹と家族回答者の場合は33.2%、兄弟姉妹とご本人の場合は31.1%である一方で、ひきこもり本人と家族回答者の場合は86.6%です。つまり、多くの家庭ではひきこもり本人と家族回答者が同居しており、兄弟姉妹は別に暮らしていると考えられます。ひきこもり本人と家族回答者の同別居については、昨年度の調査では同居している割合が84.7%、一昨年度が83.3%でした。概して同居している割合は高いと言えます。

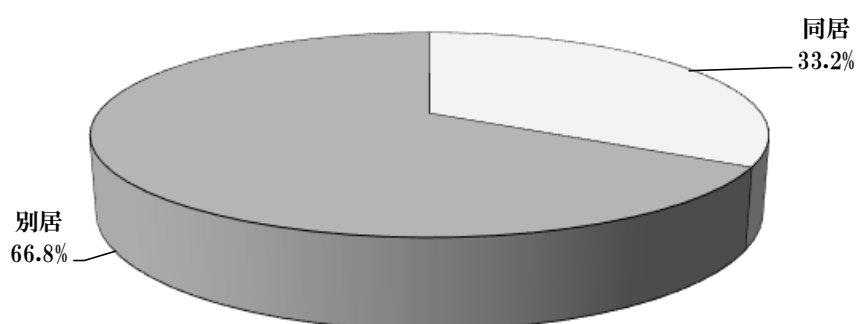


図2－8 兄弟姉妹と家族回答者の同・別居

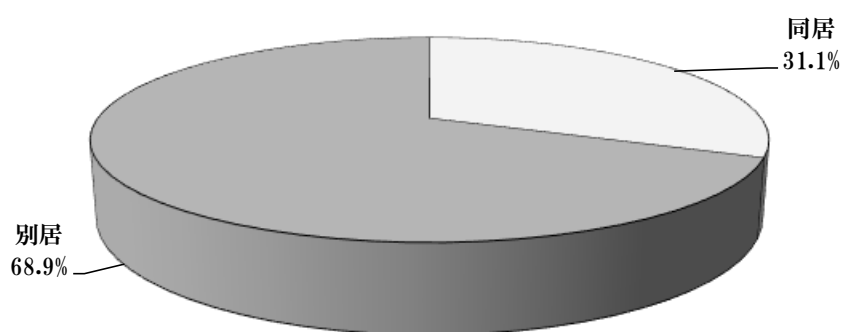


図2－9 兄弟姉妹とご本人の同・別居

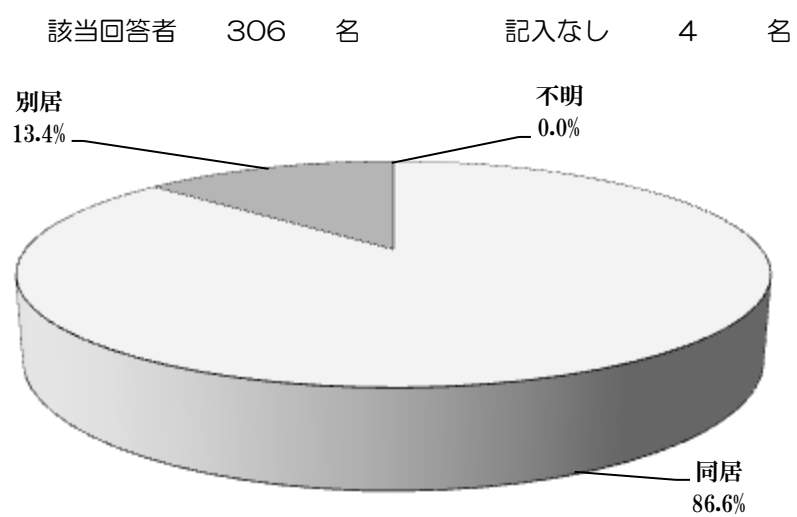


図2-10 ひきこもり本人と家族回答者の同・別居

（８）ひきこもりの初発年齢

ひきこもりが始まった時期については、図２－１２に示すとおり、平均年齢は 20.44 歳、最年少が 10 歳、最年長が 46 歳でした。

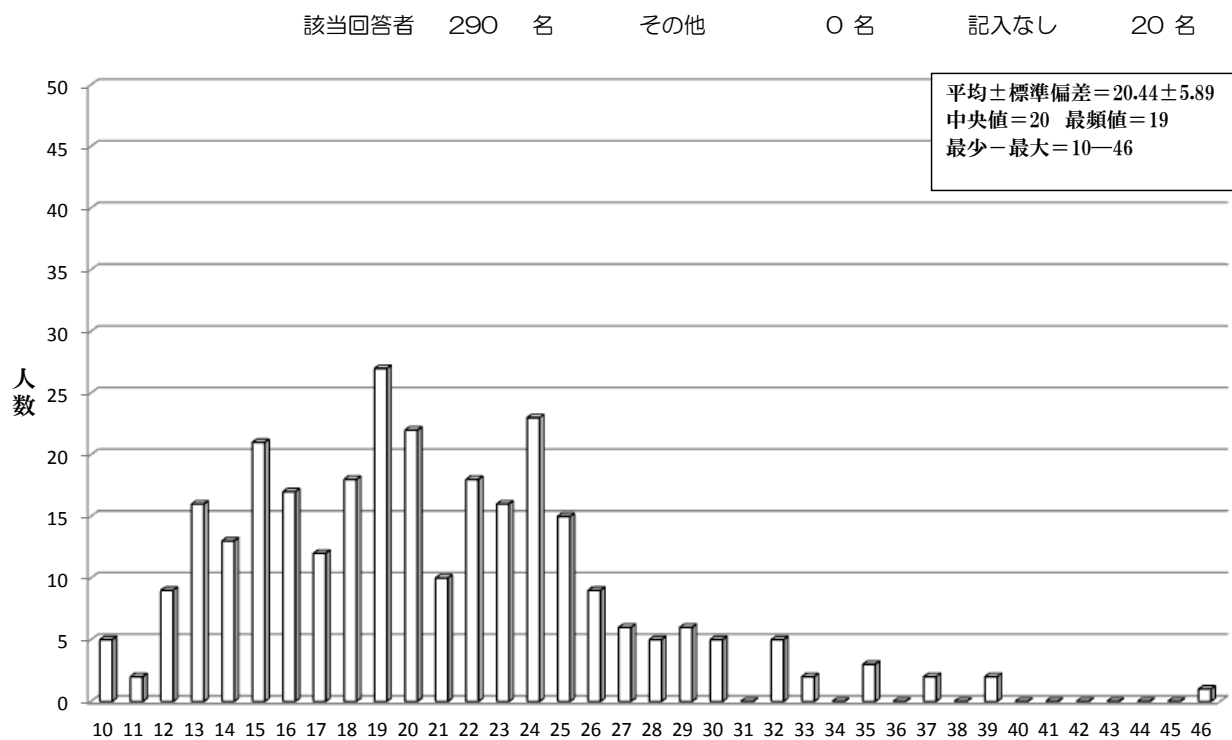
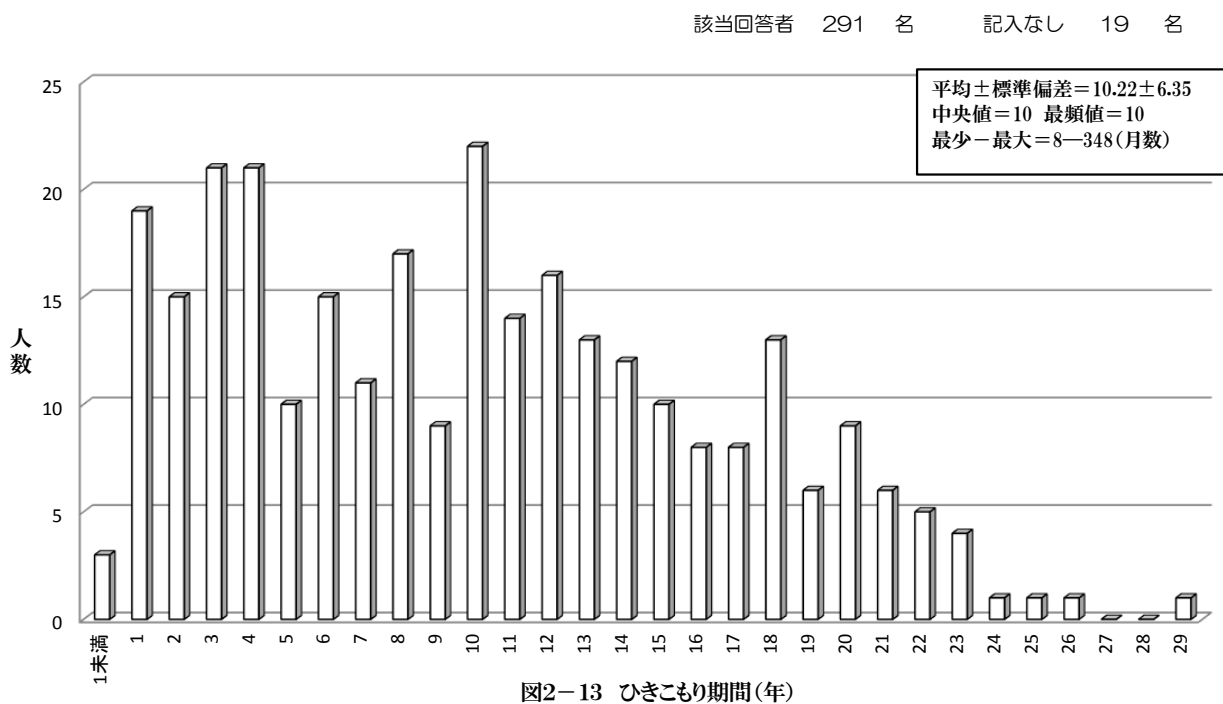


図2-12 ひきこもり初発年齢

(9) ひきこもり期間

ひきこもり期間は、図2-13に示すとおり、平均10.22年、最少が8ヶ月、最大は348ヶ月でした。本年度の本人調査の平均ひきこもり期間は7.08年でしたが、親の会に参加している方の抱えるひきこもり当事者は、さらに長期にわたりひきこもり状態にあることが分かります。当会には、長期化したひきこもり事例で悩む方が多く参加されていると言えます。



(10) 支部への所属

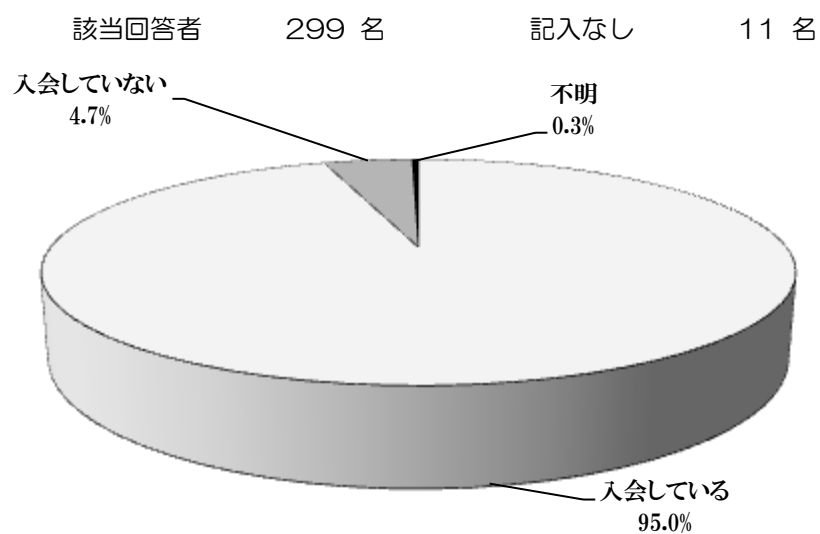


図2-14 支部への所属

図2-14に示すとおり、家族回答者のほとんどは支部に入会していることが分かります。入会していない人は4.7%に留まっています。

（１１）ひきこもりの程度

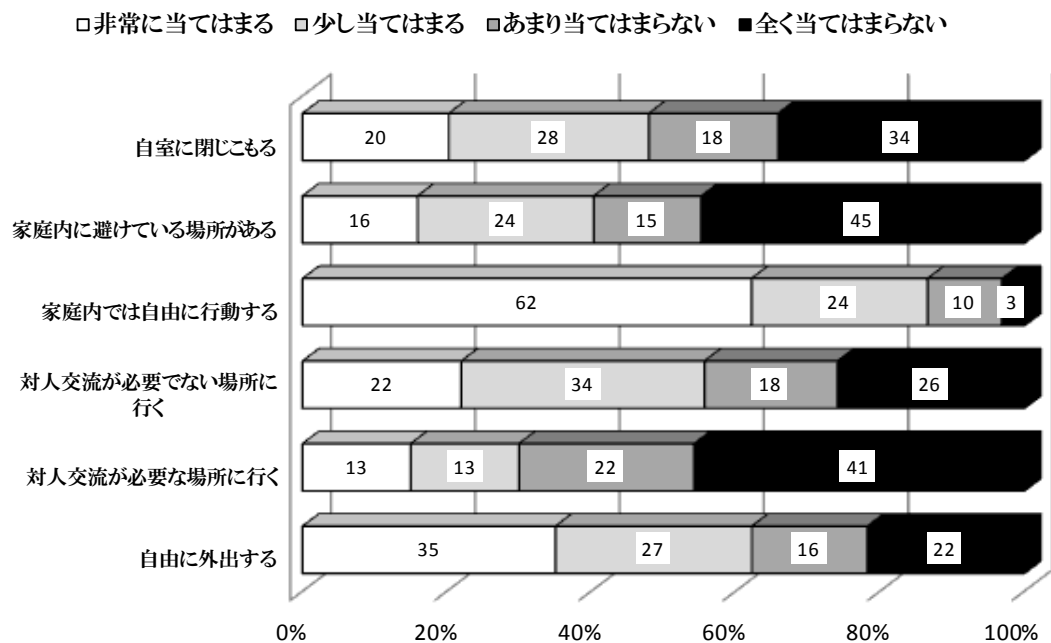


図2－15 ひきこもりの程度

図2－15から、ひきこもりの程度については、家庭内では自由に行動し、外出を自由にする方、対人交流が必要ない場所へ行く方が多いと言えます。しかし、自室に閉じこもる傾向にある方が半数に上り、本人調査の回答者よりも深刻なひきこもり状態にあると言えます。

（１２）支援・医療機関の利用

図２－１６から、ご本人の支援・医療機関の利用は、継続的に利用している人が 21.3%、過去に利用したことのある人が 30.8%となっています。利用したことの無い人が 47.9%となっており、家族回答者では、ご本人の多くが支援・医療機関を利用していないことが分かります。

また、図２－１７から、ご本人が支援・医療機関を利用したことがある人のうち、もっとも多いのは１箇所の利用でしたが、２箇所以上の利用と回答した人が半数以上に及ぶことが分かりました。

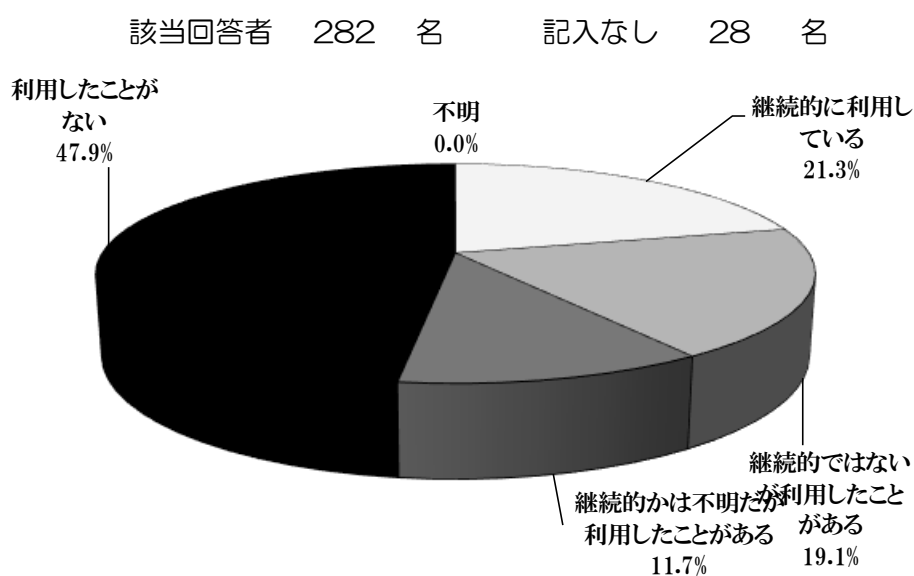
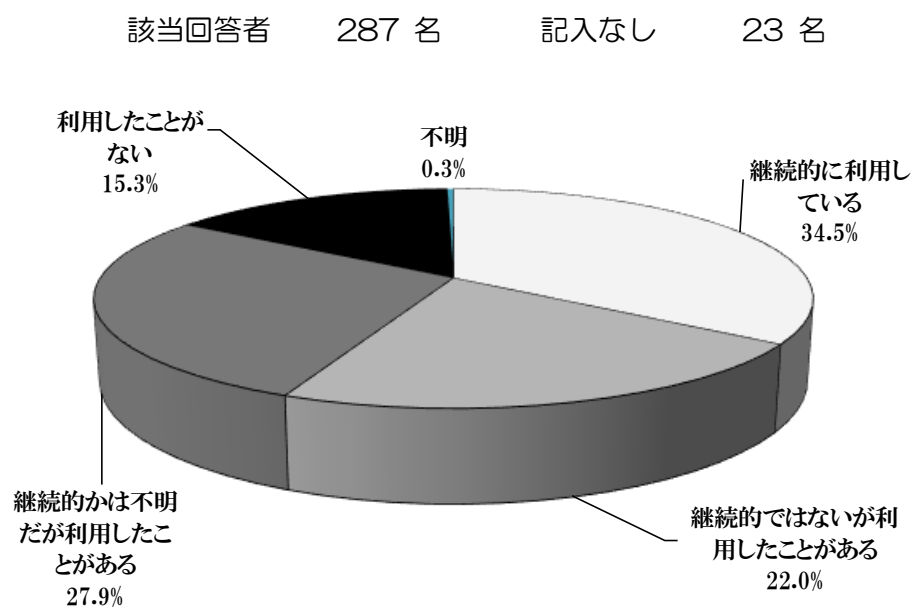
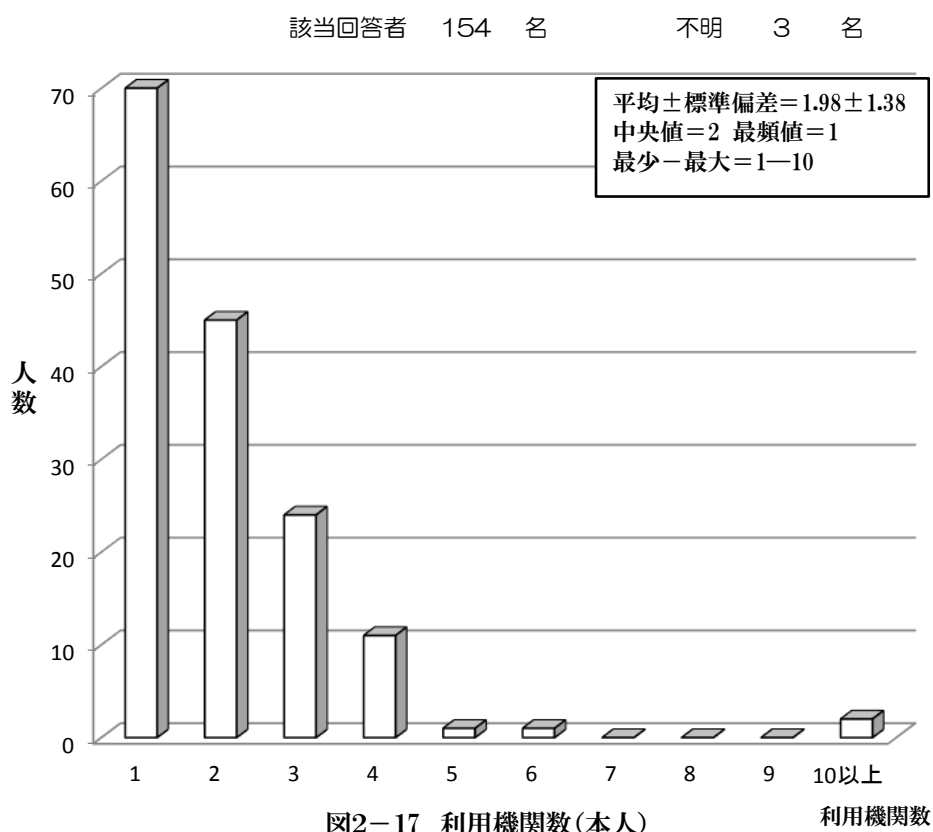
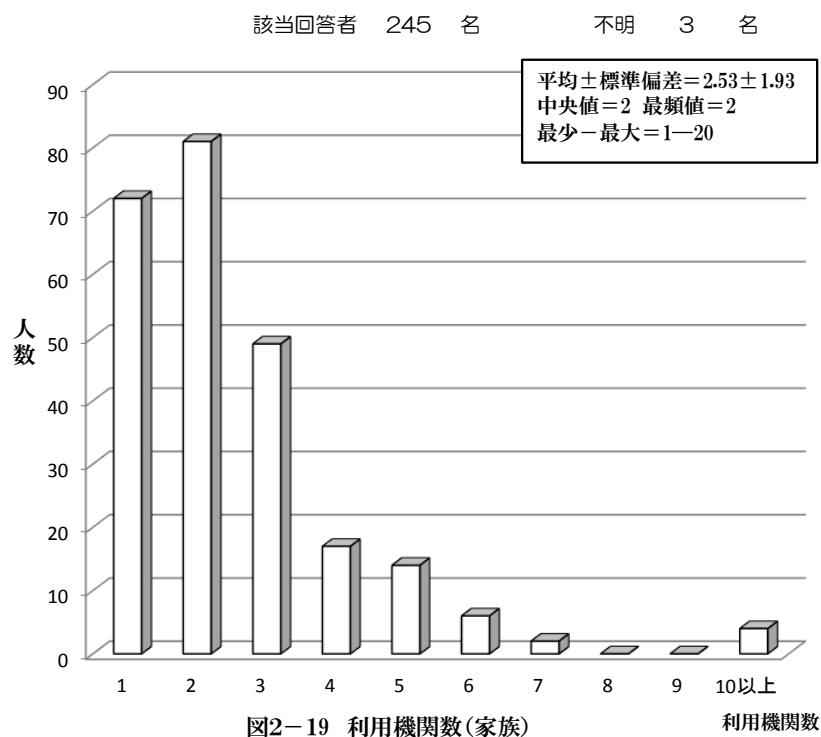


図2－16 ひきこもり本人の支援・医療機関の利用



その一方で、図2-18から、家族回答者の支援・医療機関の利用は、継続的に利用している人が34.5%、過去に利用したことのある人が49.9%となっています。利用したことのない人が15.3%となっており、家族回答者の多くが支援・医療機関を利用していることが分かります。



また、図2-19から、支援・医療機関を利用したことがあると回答した方のうち、家族回答者の約70%が2か所以上の機関を利用したことがあったと分かりました。

(13) 経済状況

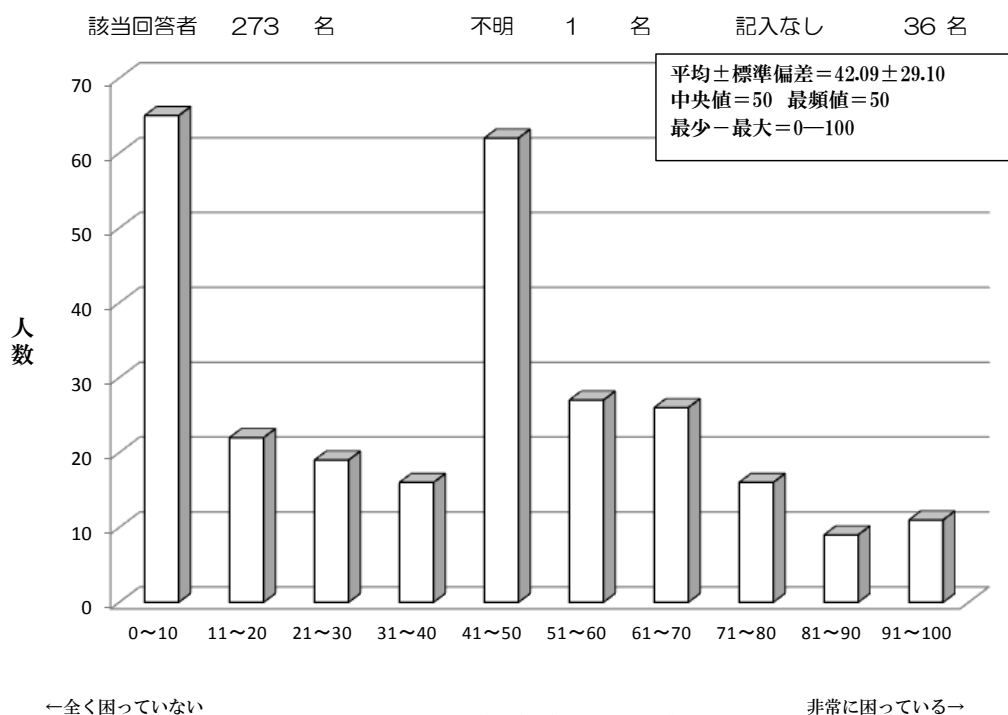


図2-20 家庭の経済状況の困難

図2-20から、家庭の経済状況の困難度は、0～100のうち、家族回答者では9.2%の方が80以上と回答していることが分かりました。その一方で、全く困っていないと回答した人も一定の割合でいることが分かります。

(14) 家計状況の幸福感

図2-21から、家計状況の幸福感は、家族回答では14%の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました。これらの方は、家計について幸福感が低いことが予想されます。その一方で、多くの人は5と回答しており、家計状況の幸福感に関してどちらともいえない状況にあることが分かります。

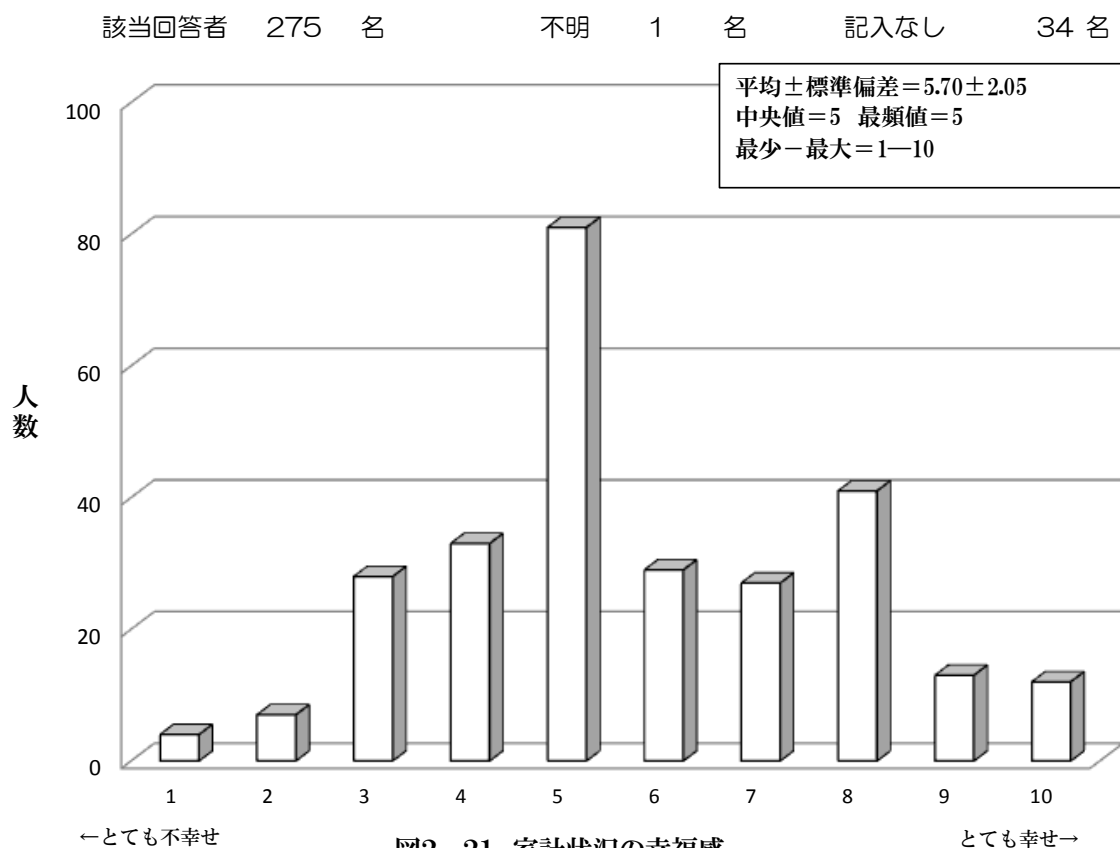
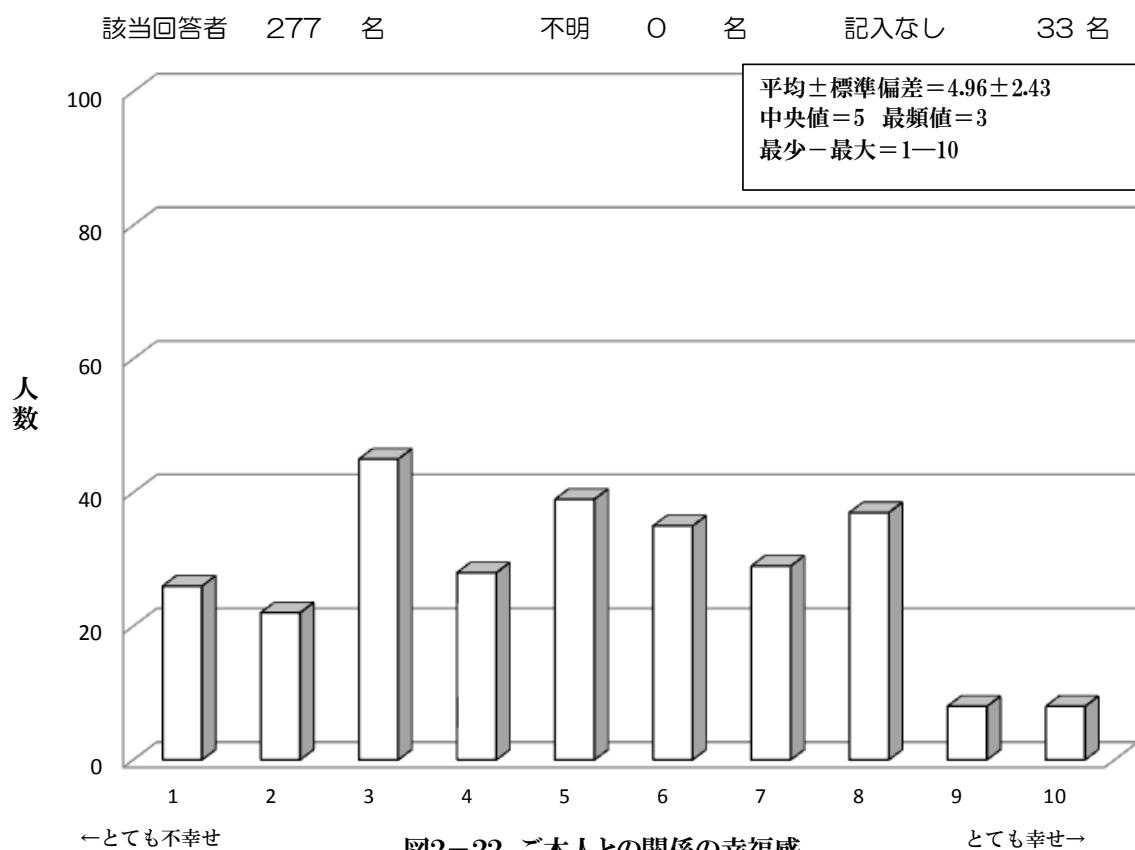


図2-21 家計状況の幸福感

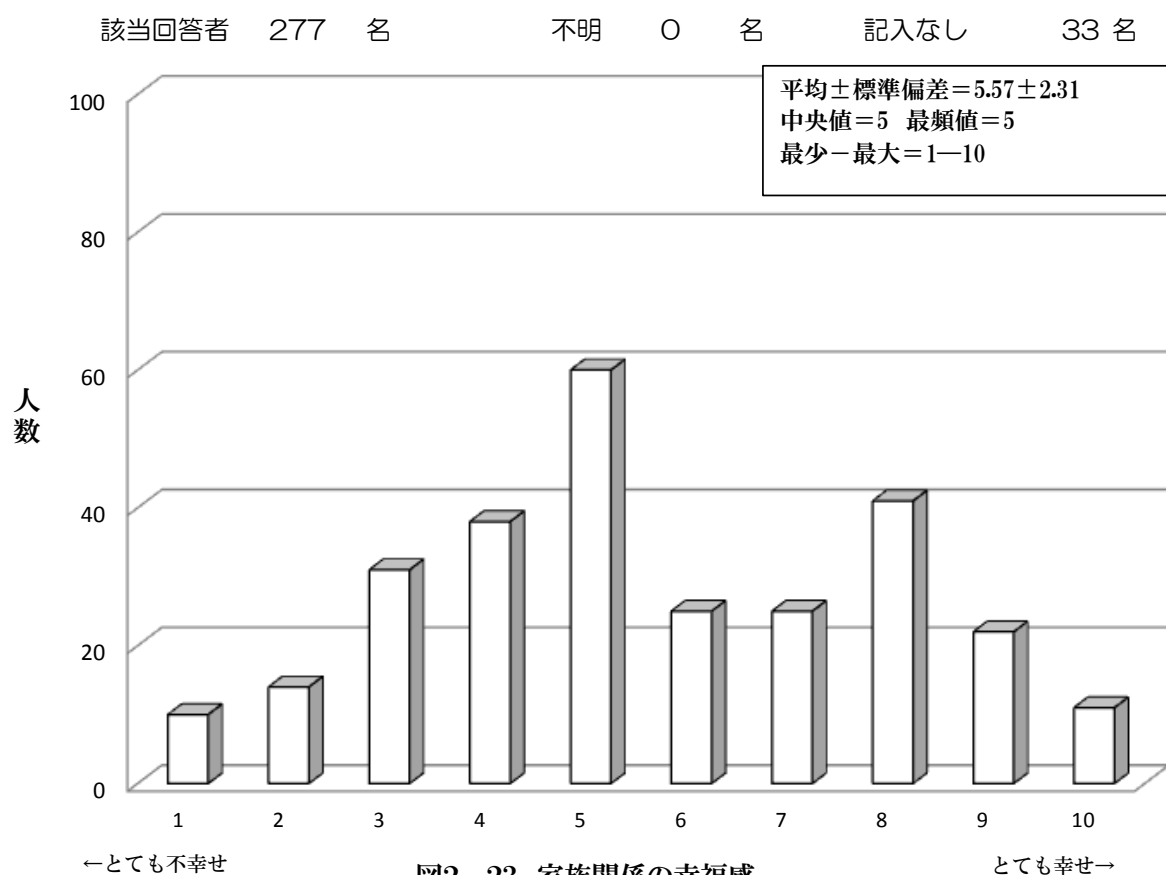
(15) ひきこもり本人との関係の幸福感



本人との関係の幸福感は、家族回答では34%の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました。これらの方は、ご本人との関係について幸福感が低いことが予想されます。また、とても幸せと回答している人は少ないことが示されました。

(16) 家族関係の幸福感

家族関係の幸福感は、家族回答では20%の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました。これらの方は、家族関係について幸福感が低いことが予想されます。その一方で、もっとも多いのは5と回答した人であり、家族関係の幸福感についてどちらでもないと感じている人が多いことが分かります。



（１７）全体的幸福感

全体的幸福感は、家族回答では19%の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました。これらの方は、全体的な幸福感が低いことが予想されます。その一方で、もっとも多いのは5と回答した人であり、全体的幸福感についてどちらでもないと感じている人が多いことが分かります。

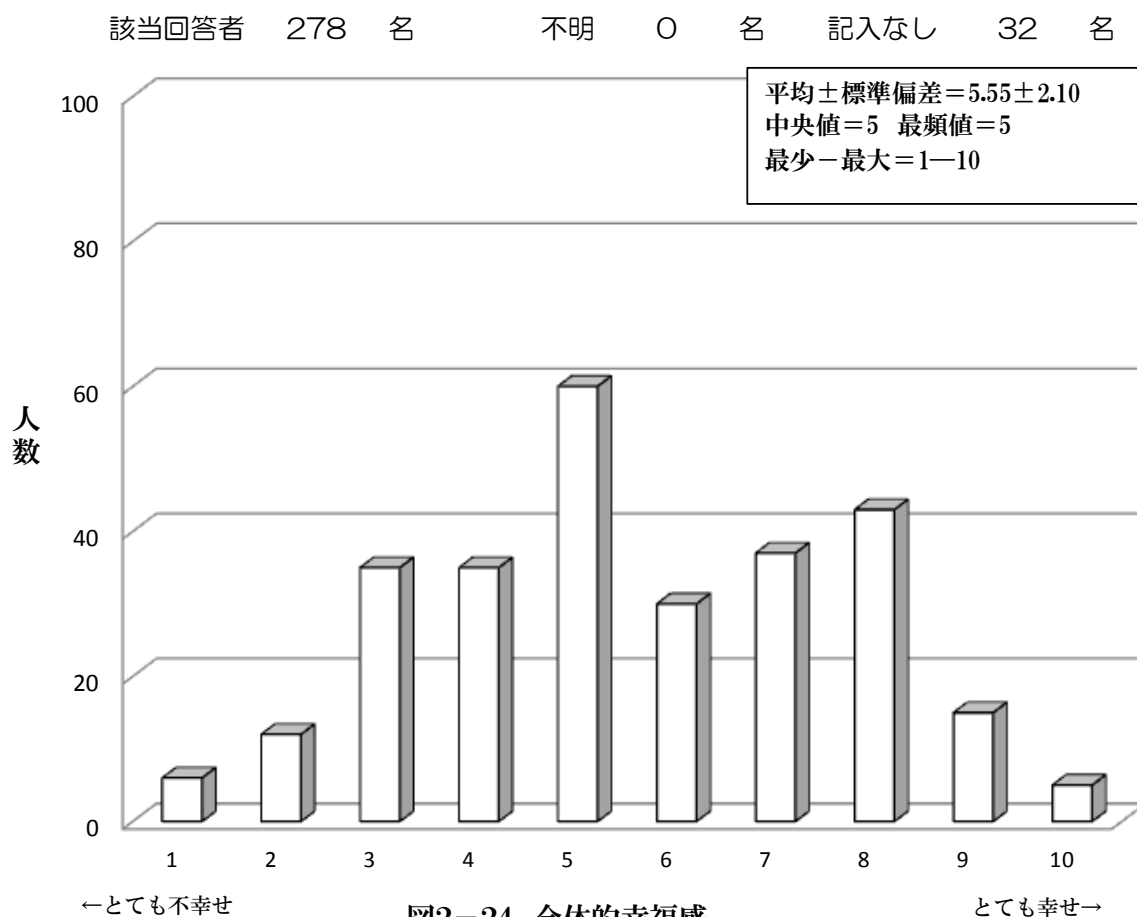


図2-24 全体的幸福感

(18) 世帯主

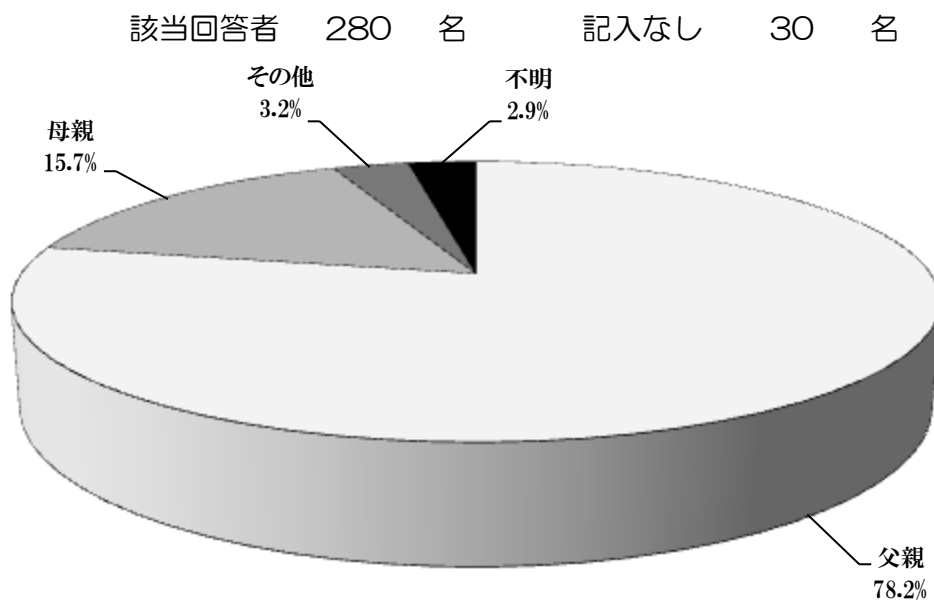


図2-25 世帯主

図2-25から、家族回答者の家庭の世帯主は、8割弱が父親であることが示されました。「その他」には、兄弟、祖父、祖母などでした。

（１９）世帯収入

図２－２６から、年間の世帯の平均年収は４４４万円であることが分かります。厚生労働省による平成２５年度版「国民生活基礎調査の概況」では、平成２４年の１世帯当たり平均所得金額は、約５３７万円とされており、家族回答者の家庭の世帯収入が低いことが示されています。「不明」には、年金生活と回答した人が含まれています。

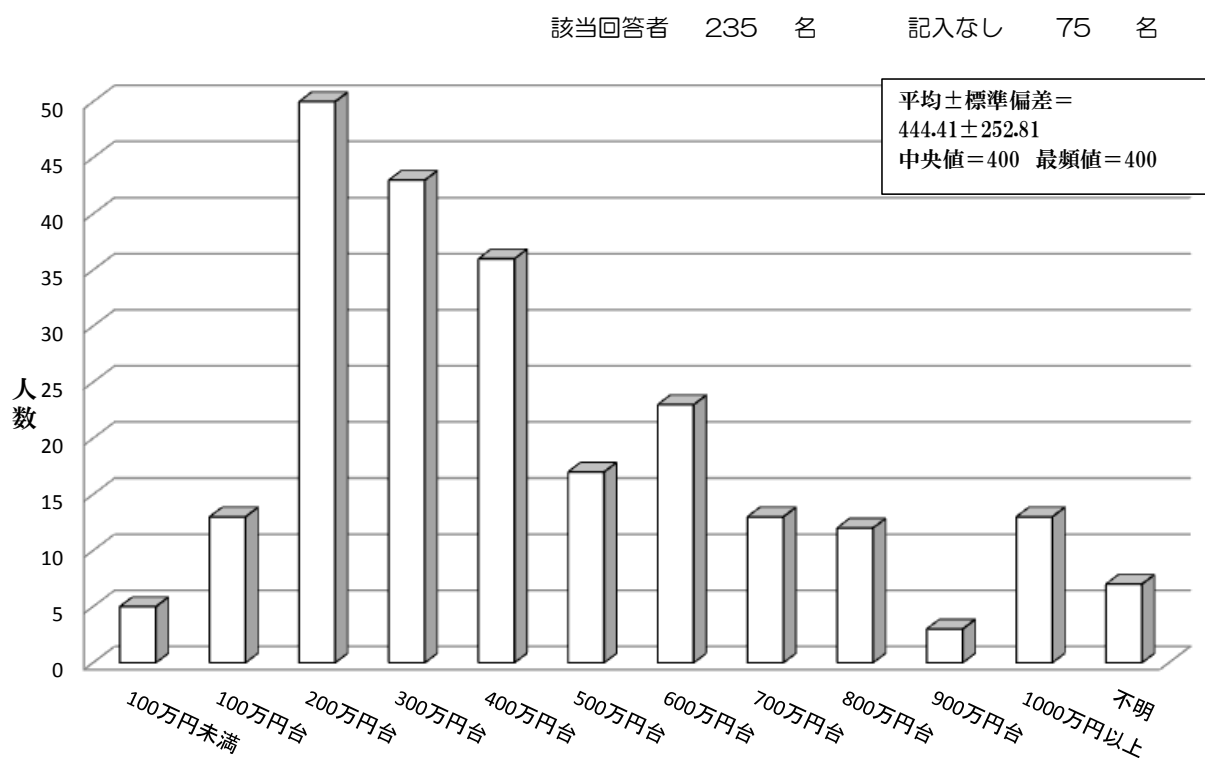


図2－26 世帯収入（年）

（２０）ひきこもり本人にかかる費用

図２－２７から、月間のご本人にかかる費用の平均額は、約 58,000 円であることが分かります。また、３万円台から５万円台と回答した人が多いことが示されました。

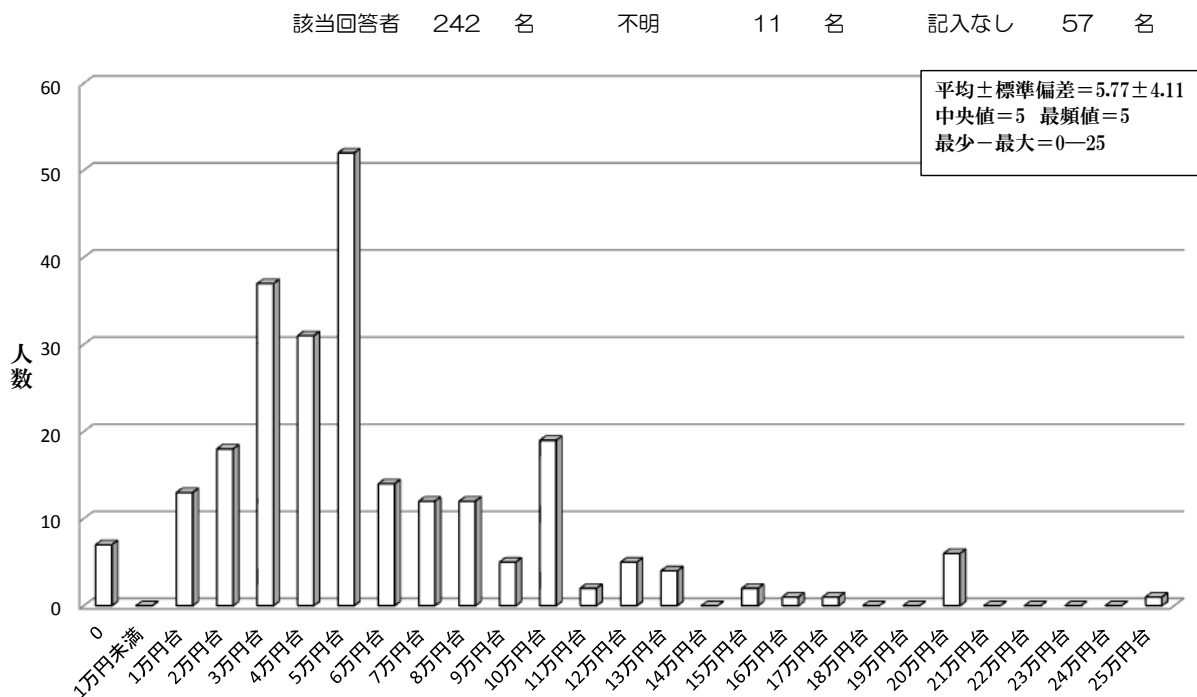
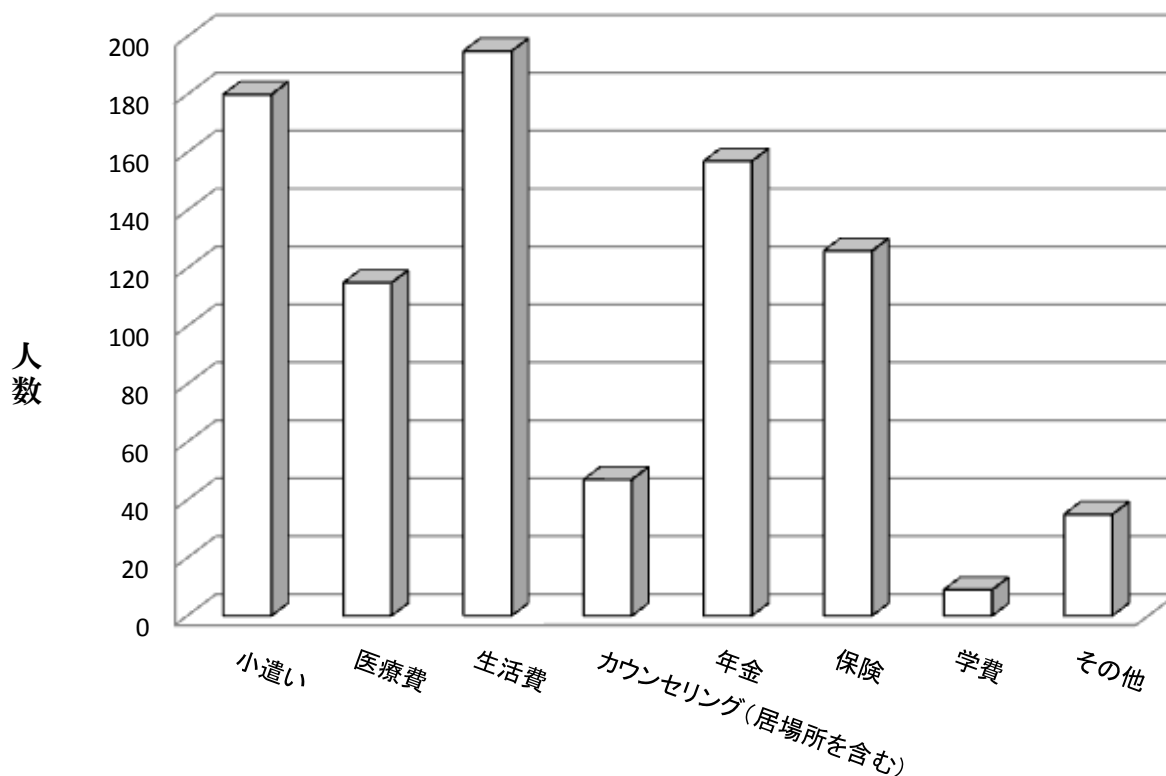


図2-27 ご本人にかかる費用(月)

（２１）ひきこもり本人にかかる費用の内訳

図２－２８から、ご本人にかかる費用の内訳は、生活費、小遣い、年金の順で多いことが分かります。「その他」には、交通費や携帯電話料金、家賃などが含まれていました。



←全く困っていない

図2－28 ご本人にかかる費用の内訳

非常に困っている→

(22) ひきこもり経験者から支援を受けた経験

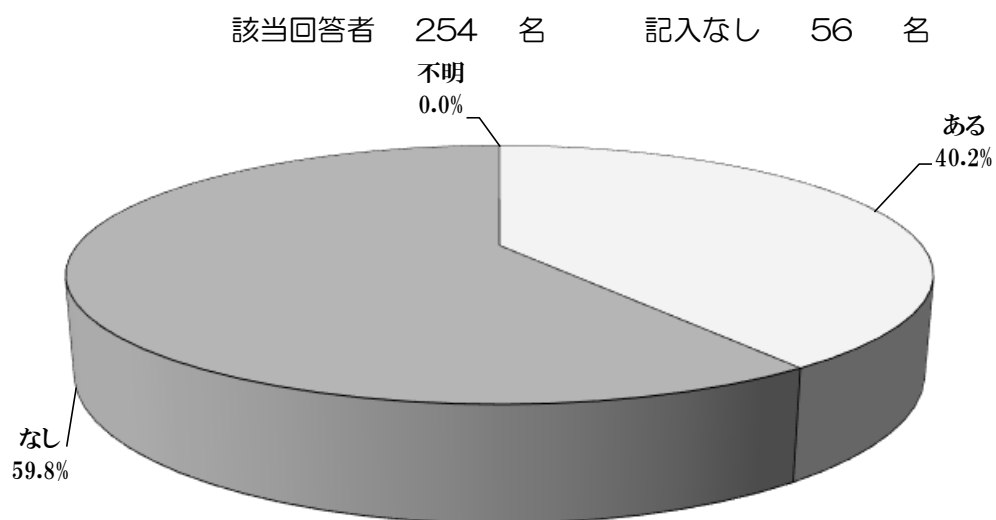


図2-29 ひきこもり経験者から支援を受けた経験

家族回答者の40.2%は、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがあると回答しました。昨年度の調査では、46.5%でしたので、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがある人の割合が昨年度より約6%低いことが分かります。

(23) ひきこもり経験者から受けたことのある支援

受けたことのある支援内容については学習会・講座・体験発表がもっとも多く、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがある家族回答者のうち、約36%は学習会・講座・体験発表を受けたことがあると回答しました。

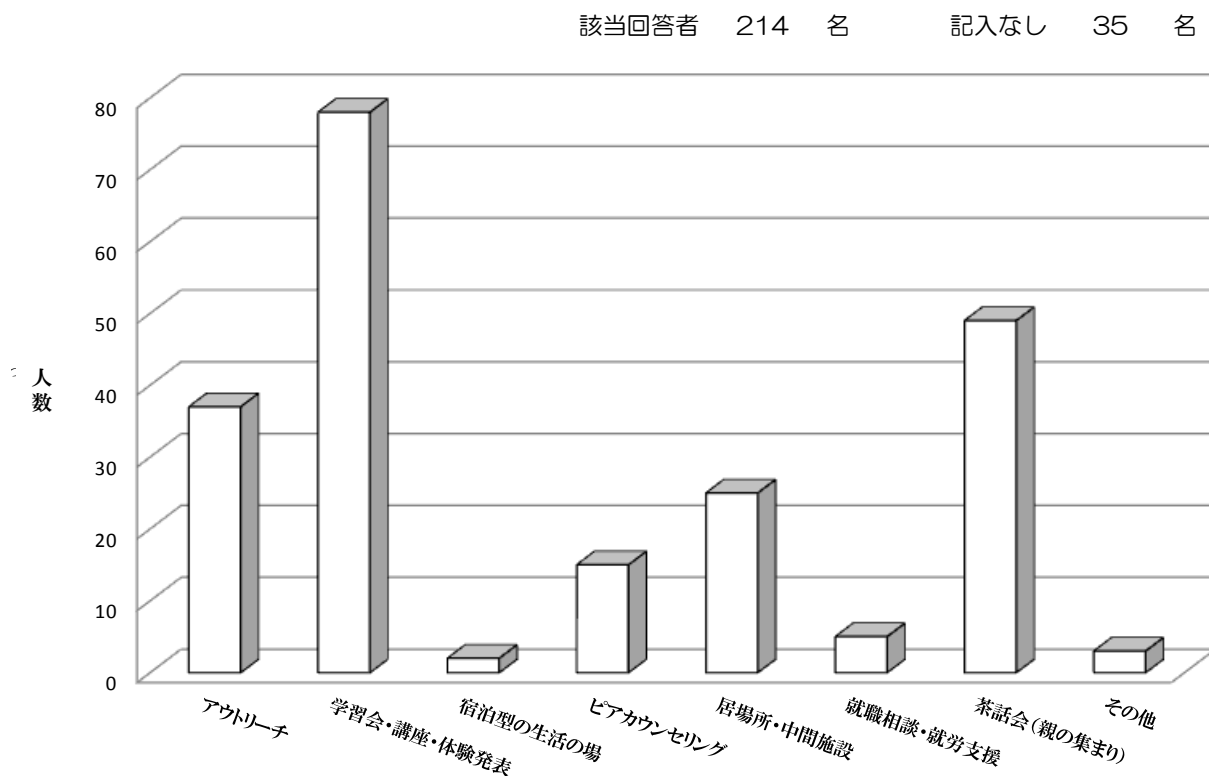


図2-30 ひきこもり経験者から受けたことのある支援

(24) ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験

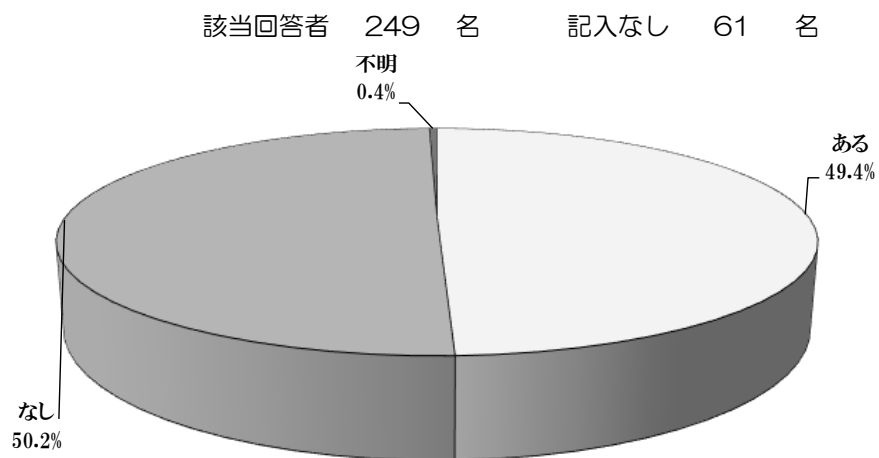


図2-31 ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験

家族回答者の49.4%は、ひきこもり経験者の家族からの支援を受けたことがあると回答しました。昨年度の調査では、60.0%でしたので、ひきこもり経験者の家族からの支援を受けたことがある人の割合が昨年度より約10%低いことが分かります。

（２５）ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援

受けたことのある支援内容については学習会・講座・体験発表がもっとも多く、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがある家族回答者のうち、約 37%は学習会・講座・体験発表を受けたことがあると回答しました。また、茶話会（親の集まり）を受けたことがあると回答した人も約 33%と 2 番目に多いことが示されました。

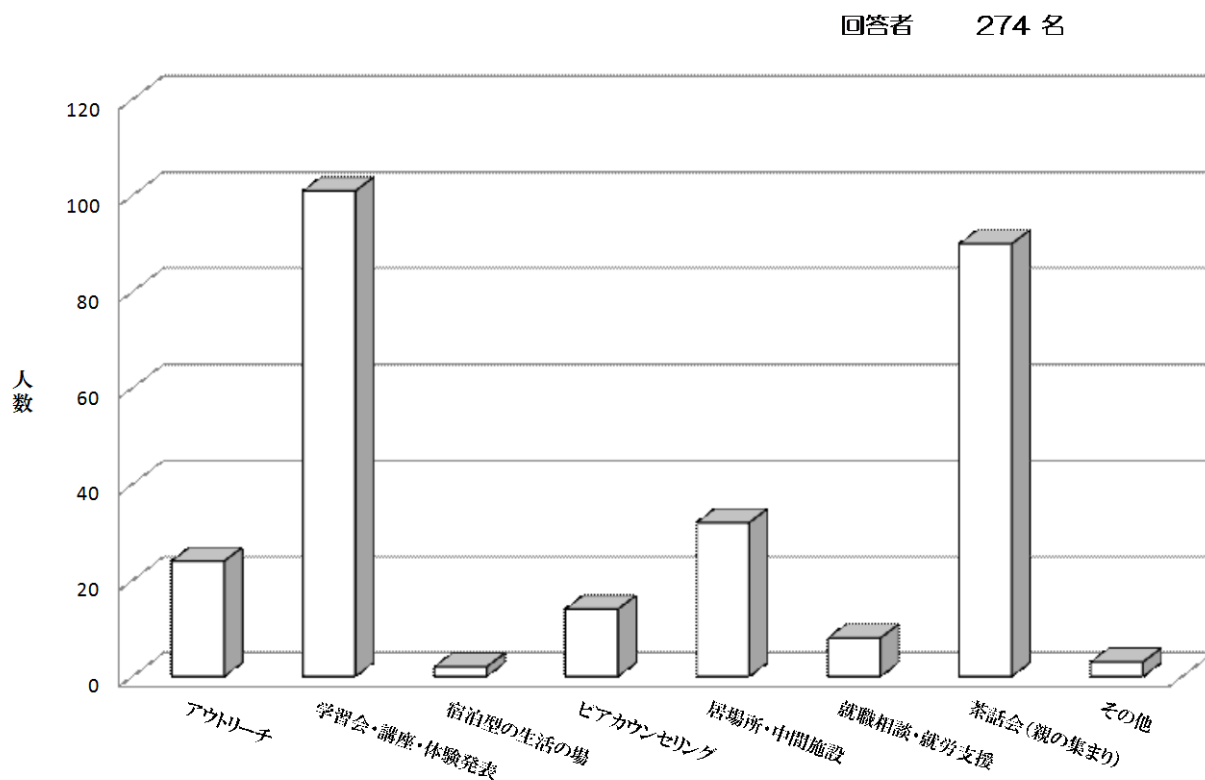


図2-32 ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援

第三部 兄弟姉妹調査

1. 目的

本調査においては、ひきこもりの実態およびピアサポーターに求める支援について調査を実施しました。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

NPO 法人全国引きこもり親の会（以下、「親の会」とする）の支部が平成 25 年 11 月～平成 26 年 1 月に開催した月例会や兄弟姉妹の集まりにおいて調査を実施しました。参加者のうち、調査協力の得られた 7 名の回答が分析に用いられました。

(2) 調査内容（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください）

①基礎情報 兄弟姉妹調査に回答した方（以下、兄弟姉妹回答者）及び、ひきこもり状態にある人（以下、ひきこもり本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・兄弟姉妹回答者が住んでいる都道府県
- ・兄弟姉妹回答者の続柄
- ・兄弟姉妹回答者の年齢
- ・ひきこもり本人の性別
- ・ひきこもり本人の年齢
- ・父親の年齢
- ・母親の年齢
- ・兄弟姉妹回答者とご両親の同・別居
- ・ひきこもり本人と兄弟姉妹回答者の同・別居
- ・ひきこもりの期間
- ・支部への所属
- ・ひきこもりの程度
- ・兄弟姉妹回答者の支援・相談機関利用状況
- ・ひきこもり本人の支援・相談機関利用状況
- ・経済の困難度
- ・ひきこもり本人との関係や家族関係の幸福感
- ・ひきこもり本人の家庭の世帯主
- ・兄弟姉妹回答者の家庭の世帯主
- ・世帯年収

②ひきこもりピアサポーターについて

- ・ひきこもり経験者から支援を受けた経験
- ・ひきこもり経験者から受けたことのある支援
- ・ひきこもり経験者の家族から支援を受けた支援
- ・ひきこもり経験者かの家族から受けたことのある支援

（３）調査手続き

調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方のみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰ってもらいました。

回答者には、月例会において調査用紙と返信用封筒を配布し、返信用封筒に入れて郵送にて回収をしました。

3. 結果

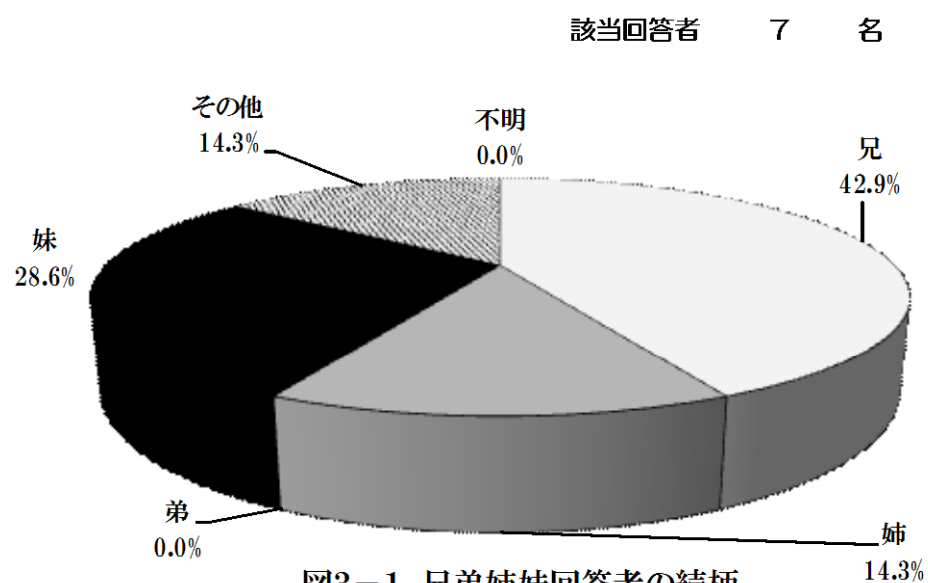
(1) 兄弟姉妹回答者が住んでいる場所

表3 兄弟姉妹回答者が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
北海道・東北地方	北海道	0	近畿地方	三重県	0
	青森県	0		滋賀県	0
	岩手県	0		京都府	0
	宮城県	0		大阪府	0
	秋田県	0		兵庫県	0
	山形県	0		奈良県	0
関東地方	福島県	0	中国地方	和歌山県	0
	茨城県	0		鳥取県	0
	栃木県	0		島根県	0
	群馬県	0		岡山県	0
	埼玉県	0		広島県	2
	千葉県	0		山口県	0
中部地方	東京都	0	四国地方	香川県	1
	神奈川県	0		愛媛県	1
	山梨県	0		徳島県	0
	長野県	0		高知県	1
	新潟県	0	九州地方	福岡県	0
	富山県	0		佐賀県	0
	石川県	1		長崎県	0
	福井県	0		熊本県	0
	静岡県	1		大分県	0
	愛知県	0		宮崎県	0
	岐阜県	0		鹿児島県	0
				沖縄県	0
			不明		0
			記入なし		0
			合計		7

表3に示したとおり、兄弟姉妹回答者が住んでいる場所は6都道府県に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方、関東地方、近畿地方、九州地方が0名、中部地方、中国地方が2名、四国地方が3名となっています。

(2) ひきこもり本人と家族回答者の続柄



ひきこもり本人と兄弟姉妹回答者の続柄は、兄が3名、妹が2名、姉とその他が1名、弟と不明が0名でした。

(3) 兄弟姉妹回答者の年齢

家族回答者の年齢を図3-2に示します。兄弟姉妹回答者の平均年齢は39.14歳であり、最年少が27歳、最年長が61歳でした。本人回答者の平均年齢は34.16歳でしたので、ご本人よりもやや高い平均年齢が示されました。

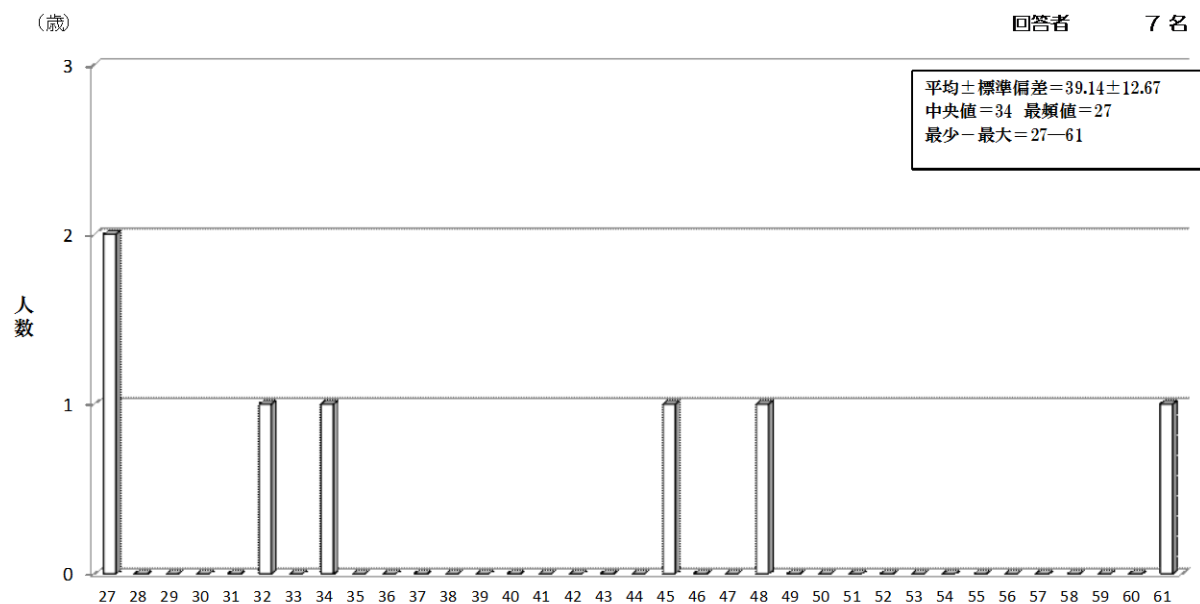
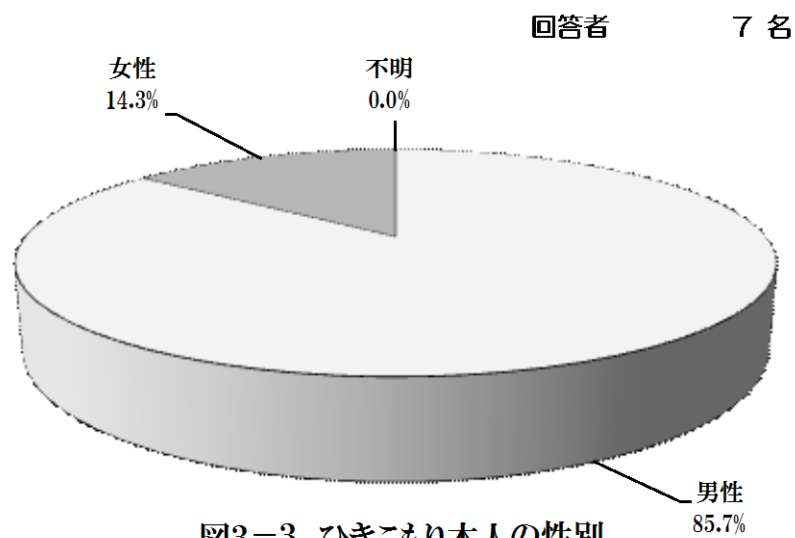


図3-2 兄弟姉妹回答者の年齢

(4) ひきこもり本人の性別



ひきこもり本人の性別については、男性が6名、女性が1名でした。一貫して男性が多いことは本人回答者、家族回答者とも一貫しています。

(5) ひきこもり本人の年齢

図3-4には、ご本人の年齢が示されています。全体では平均 36.71 歳であり、最年少が 30 歳、最年長が 55 歳でした。

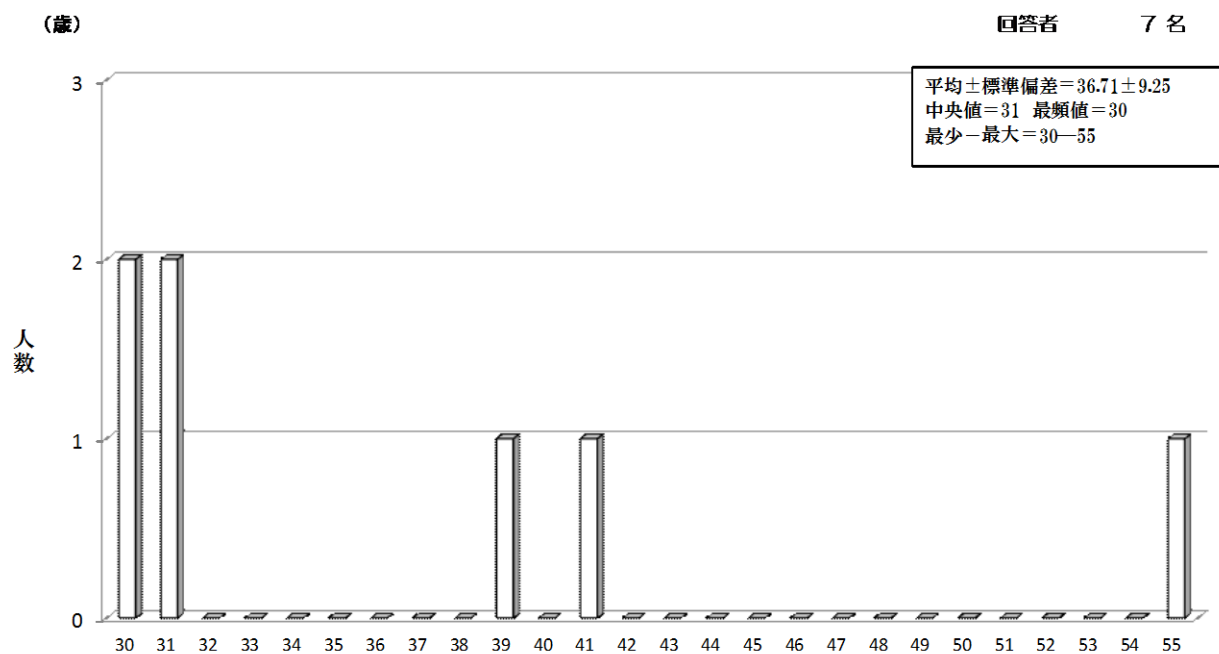


図3-4 ひきこもり本人の年齢

（６）父親の年齢について

図３－５には父親の平均年齢が示されています。父親の平均年齢は、62.5歳でした。家族回答者では、父親の平均年齢は67.76歳でしたので、家族回答者よりも、やや低い結果となっています。

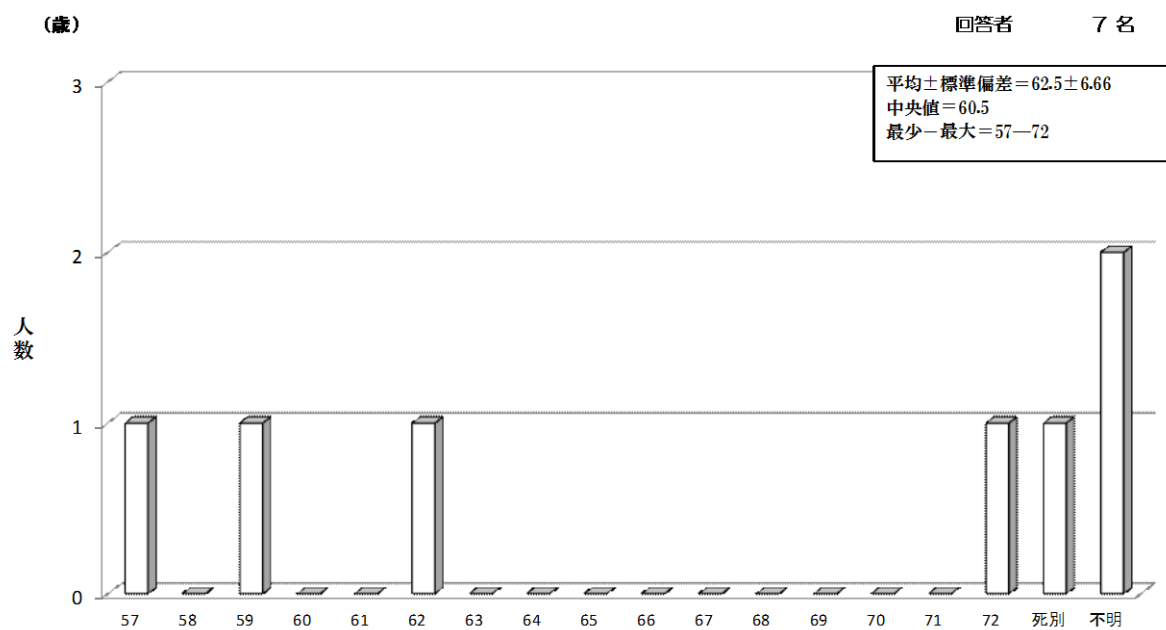
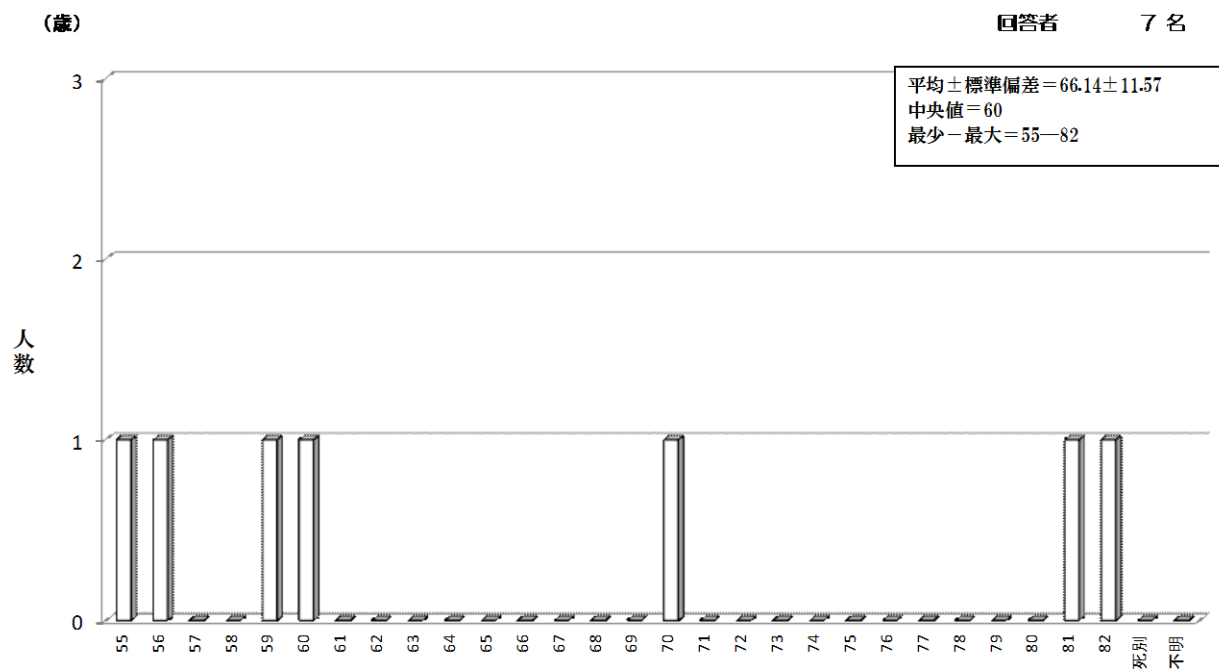


図3-5 父親の年齢

(7) 母親の平均年齢について

図3-6には母親の平均年齢が示されています。母親の平均年齢は、66.14歳でした。家族回答者では、母親の平均年齢は61.96歳でしたので、家族回答者よりも、やや高い結果となっています。



(8) 兄弟姉妹回答者との同別居

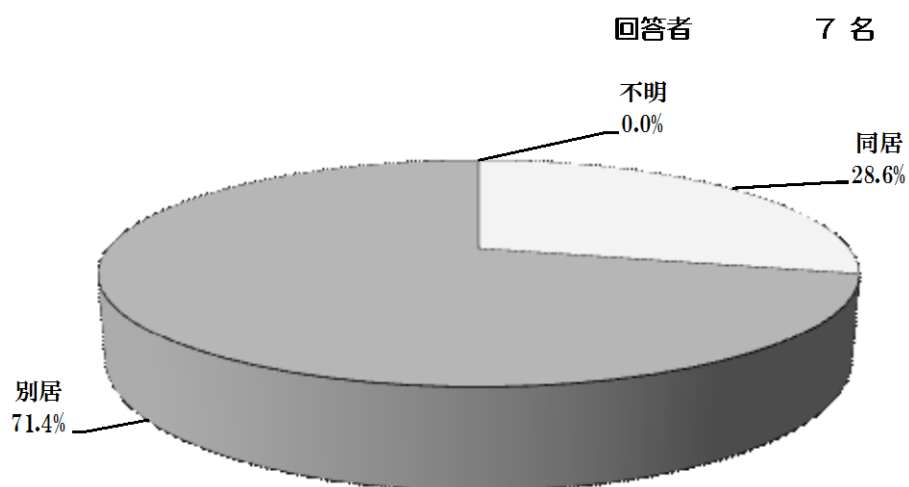


図3-7 兄弟姉妹回答者のご両親の同・別居

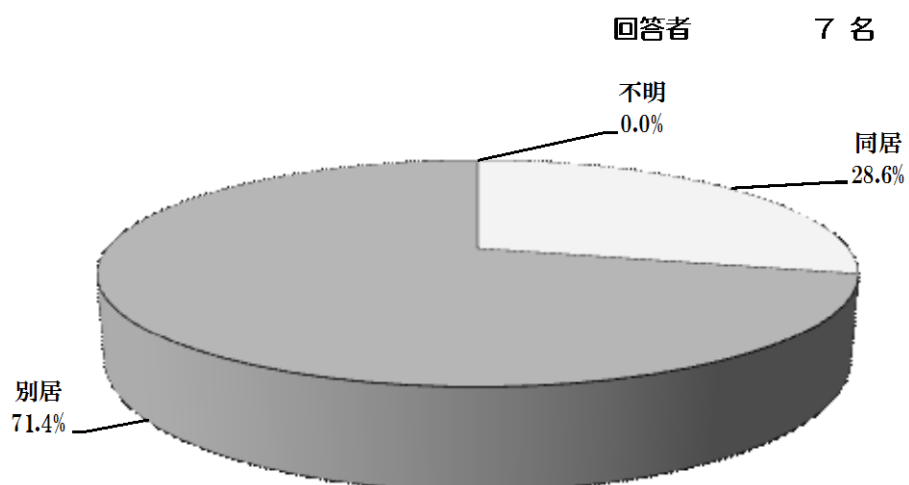


図3-8 ひきこもり本人と兄弟姉妹回答者の同・別居

図3-7、3-8に示すように、兄弟姉妹回答者のご両親の同別居に関しては、同居している割合が兄弟姉妹回答者のご両親の場合、ご本人と兄弟姉妹回答者の場合ともに2名でした。

(9) ひきこもりの初発年齢

ひきこもりが始まった時期については、図3-9に示すとおり、平均年齢は18.86歳、最年少が10歳、最年長が29歳でした。

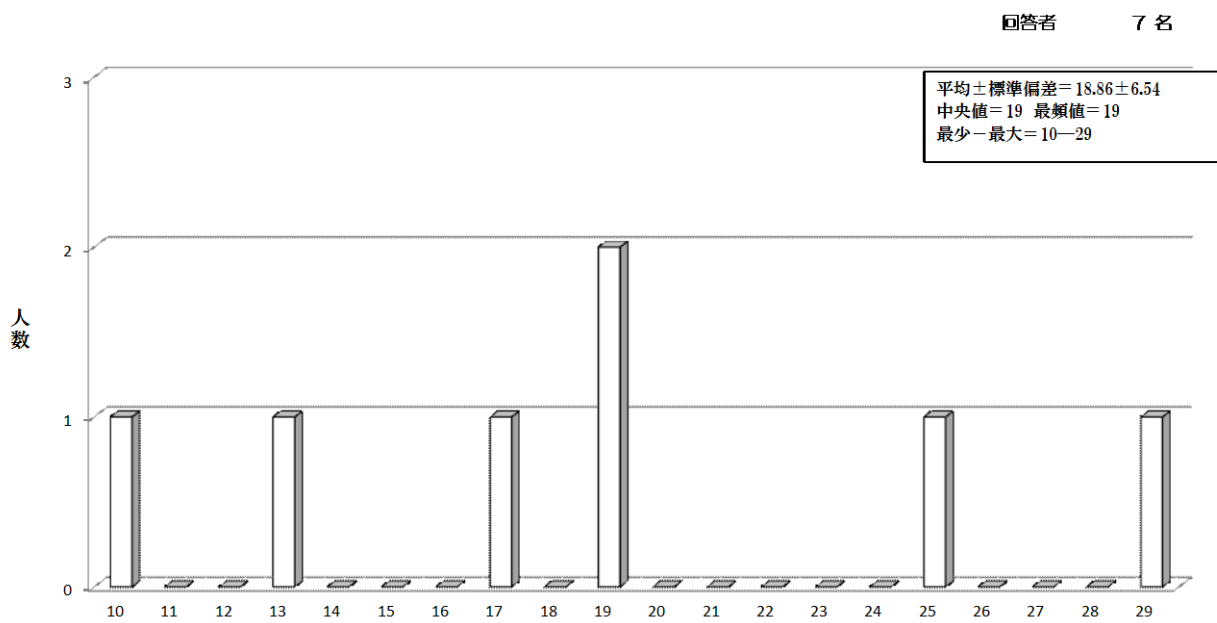


図3-9 ひきこもり初発年齢

(10) ひきこもり期間

ひきこもり期間は、図3-10に示すとおり、平均18.01年、最少が73ヶ月、最大は456ヶ月でした。本年度の本人調査の平均ひきこもり期間は7.08年、家族調査の平均ひきこもり期間は平均10.22年でしたが、兄弟姉妹の調査では、さらに長期にわたりひきこもり状態にあることが分かります。当会に参加している兄弟姉妹の方には、長期化したひきこもり事例で悩む方が多く参加されていると言えます。ただし、今回は非常に限られた人数の回答ですので結果の解釈は慎重に行う必要があります。

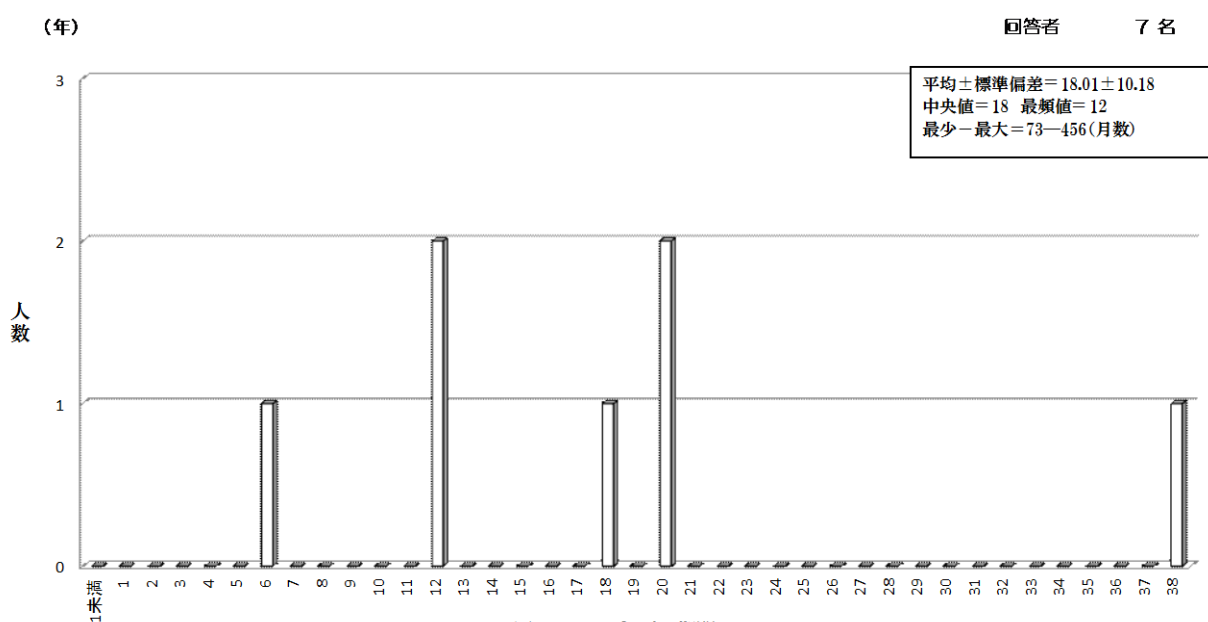


図3-10 ひきこもり期間

(11) 支部への所属

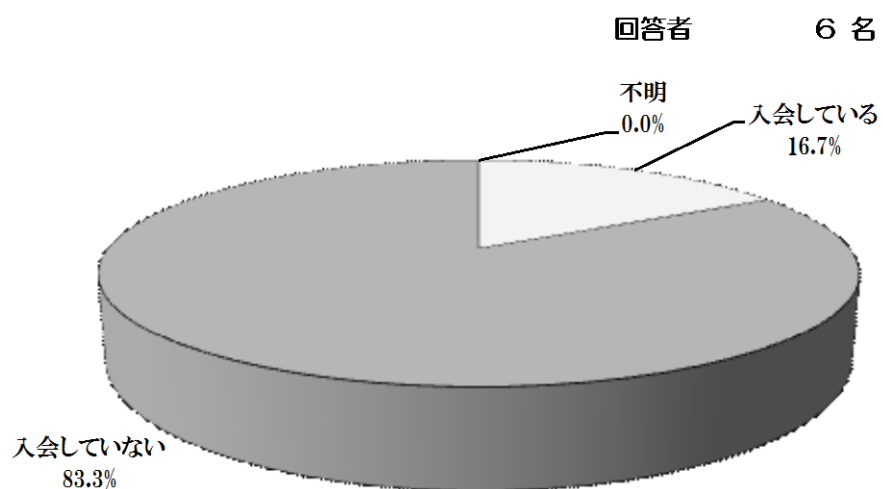


図3-11 支部への所属

図3-11に示すとおり、兄弟姉妹回答者の6名中5名は、支部へ入会していないことがわかります。この結果は、回答者のほとんどが入会していた家族調査の結果と大きく異なります。

(12) ひきこもりの程度

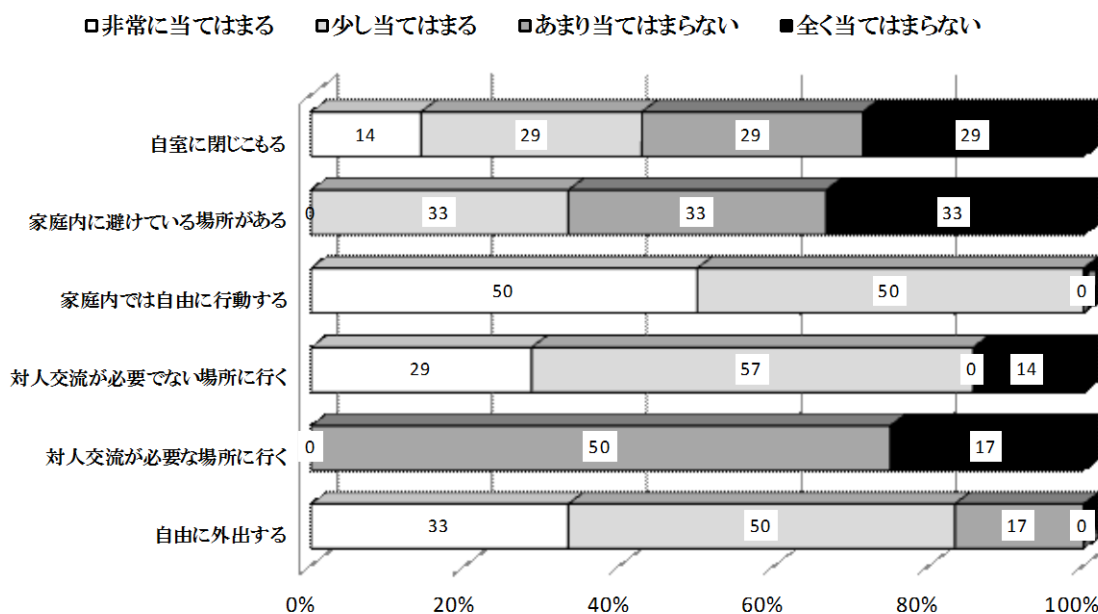


図3-12 ひきこもりの程度

図3-12から、ひきこもりの程度については、家庭内では自由に行動し、外出を自由にする方、対人交流が必要ない場所へ行く方が多いと言えます。しかし、「自室に閉じこもる」について「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と回答した方が7名中3名に上り、家族調査の回答者と同様、深刻なひきこもり状態にあると言えます。

(13) 支援・医療機関の利用

図3-13から、兄弟姉妹回答者の支援・医療機関の利用は、継続的に利用している人が16.7%であり、多くの兄弟姉妹回答者は、支援・医療機関を利用していないことが分かります。

また、図3-14から、ご本人の支援・医療機関の利用は、継続的かは不明だが利用したことがある人が6名中3名であり、利用したことの無い人も同様に3名でした。

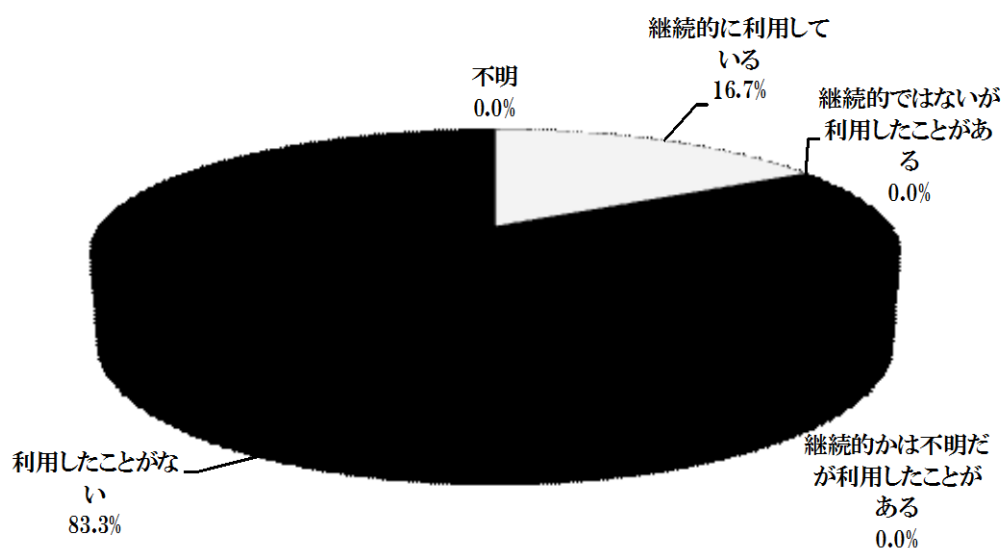


図3-13 兄弟姉妹回答者の支援・医療機関の利用

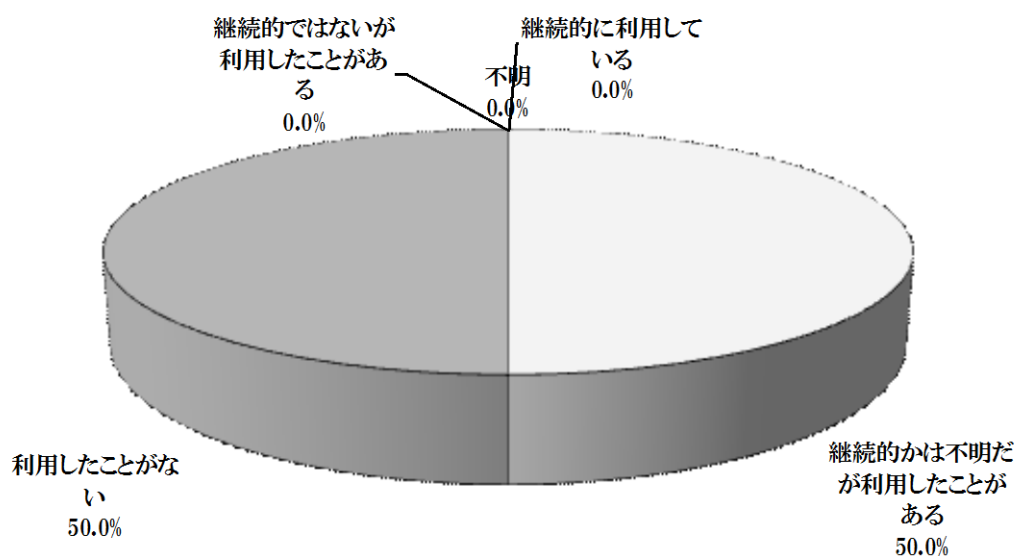


図3-14 ひきこもり本人の支援・医療機関の利用

(14) 經濟狀況

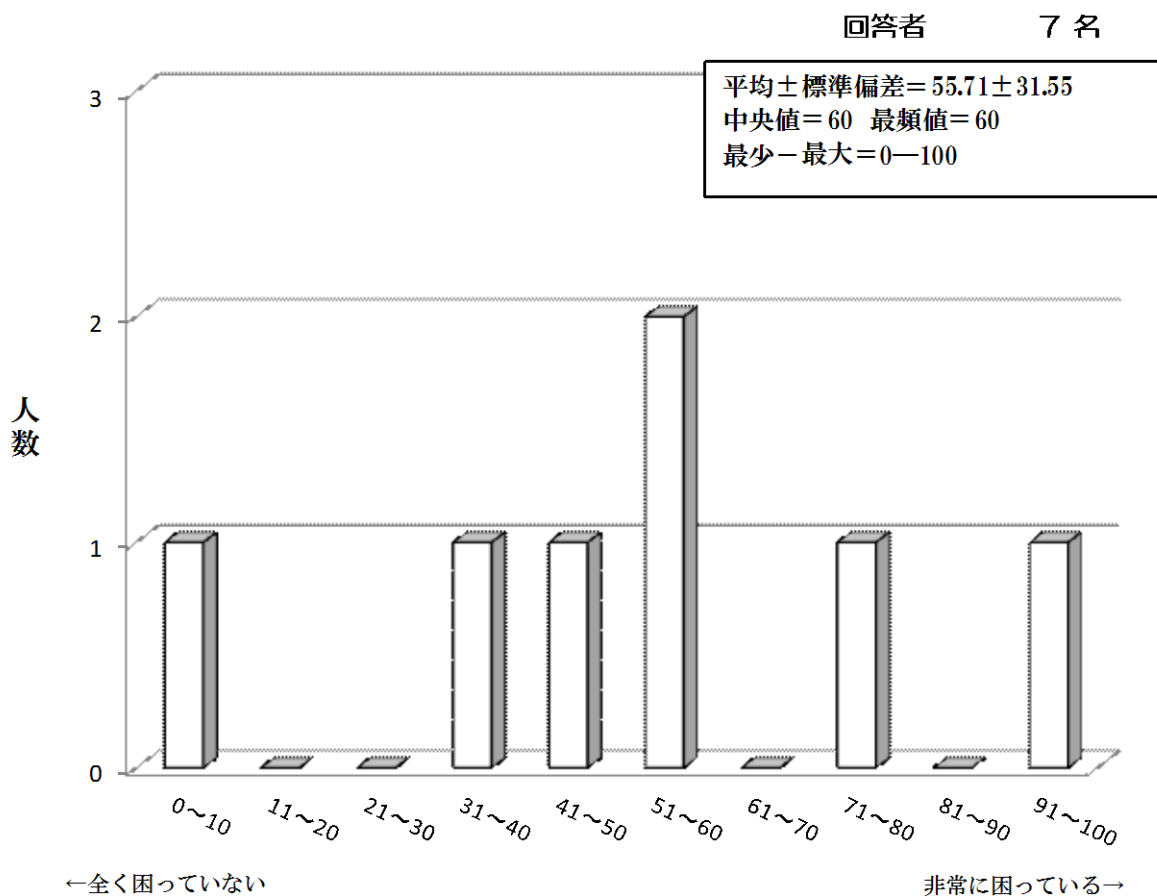
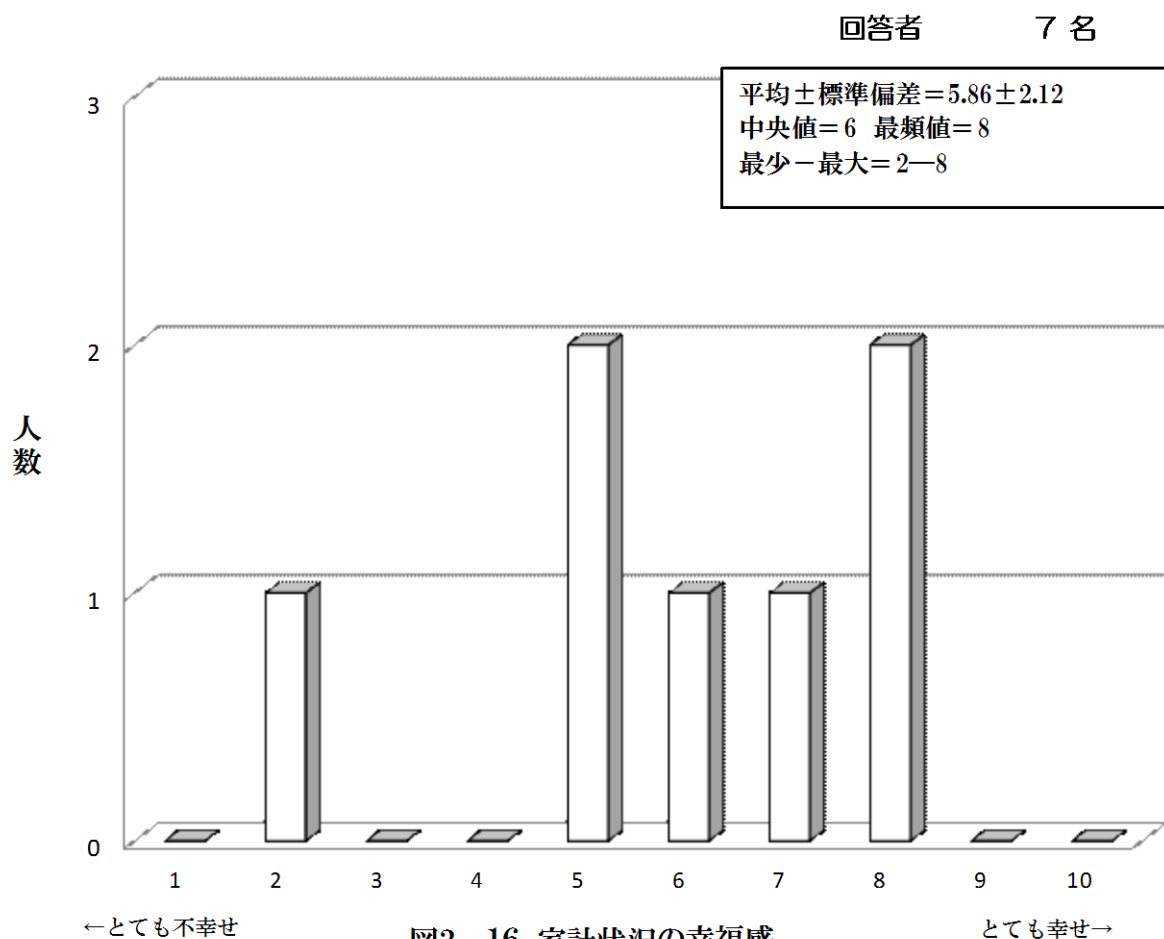


図3-15 家庭の経済状況の困難

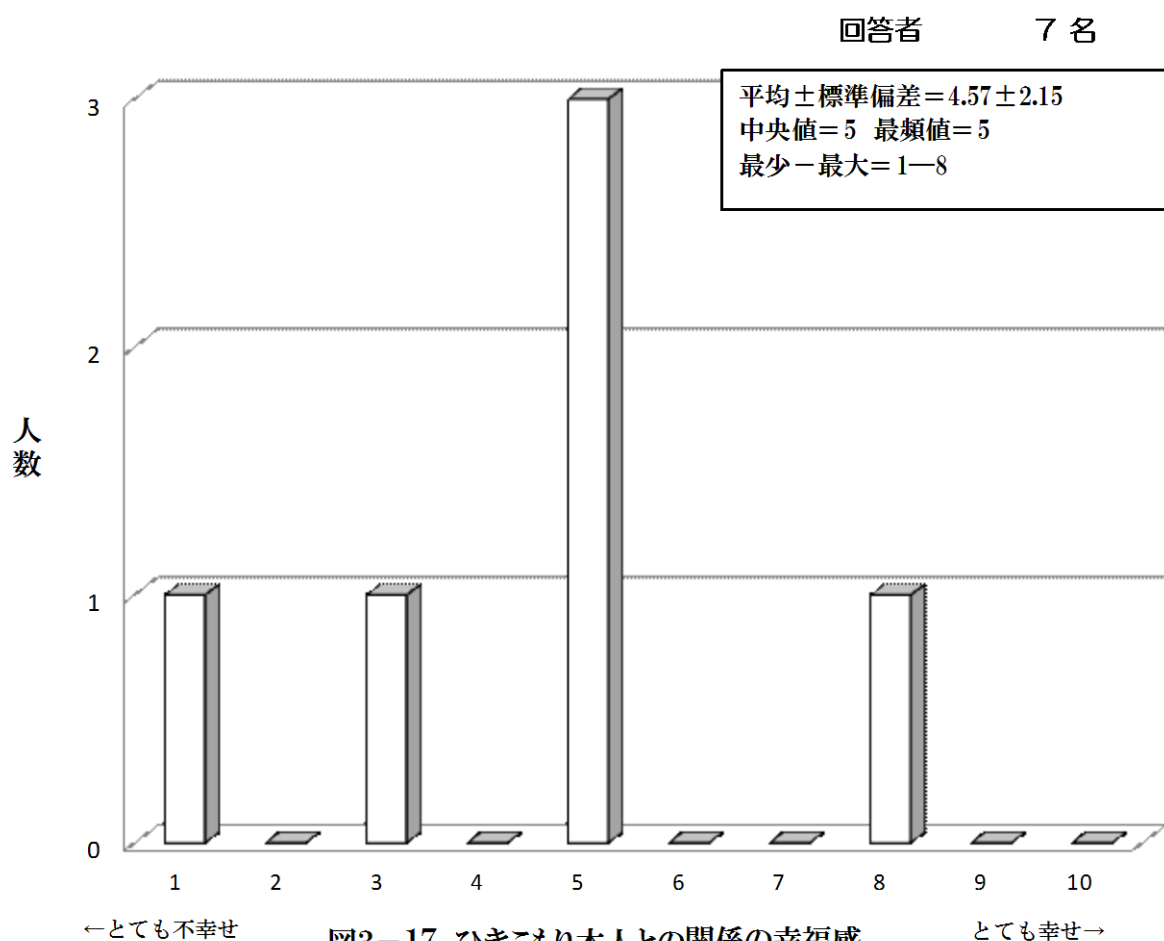
図3-15から、家庭の経済状況の困難度は、0～100のうち、兄弟姉妹回答者では7名中2名の方が80以上と回答していることが分かりました。その一方で、全く困っていないと回答した人もいることが分かります。

(15) 家計状況の幸福感

図3-16から、家計状況の幸福感は、兄弟姉妹回答では7名中1名の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました。この方は、家計について幸福感が低いことが予想されます。その一方で、それ以外の人は5以上と回答していることが分かります。



(16) ひきこもり本人との関係の幸福感



ご本人との関係の幸福感は、兄弟姉妹回答では7名中2名の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました。これらの方は、ご本人との関係について幸福感が低いことが予想されます。その一方で、もっとも多いのは5と回答した人であり、ご本人との関係の幸福感についてどちらでもないと感じている人が多いことが分かります。

(17) 両親との関係の幸福感

ご両親との関係の幸福感は、兄弟姉妹回答では10段階で3以下と回答している方は7人中0名でした。もっとも多いのは5と回答した人であり、ご両親との関係の幸福感についてどちらでもないと感じている人が多いことが分かります。

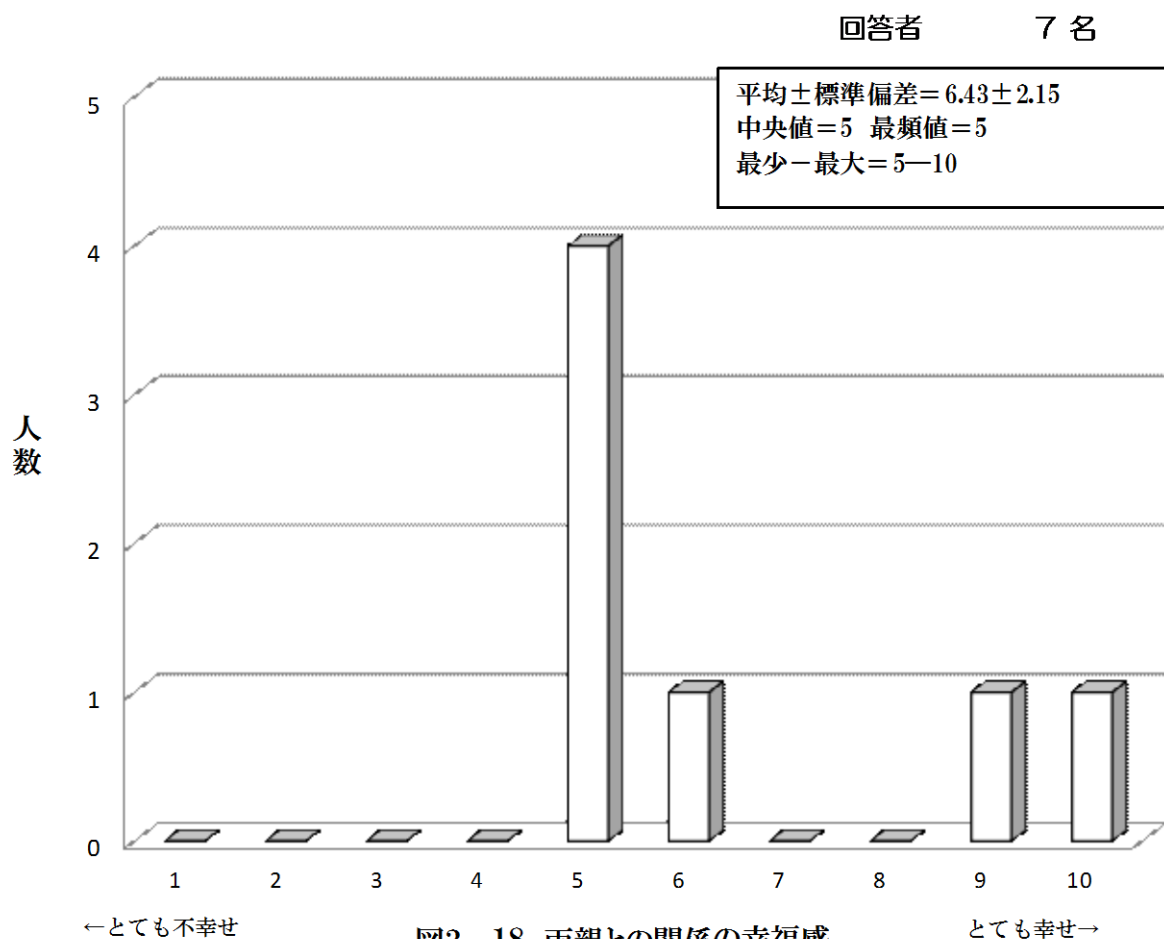


図3-18 両親との関係の幸福感

(18) 全体的幸福感

全体的幸福感は、兄弟姉妹回答では10段階で3以下と回答している方は7人中0名でした。もっとも多いのは5と回答した人であり、全体的幸福感についてどちらでもないと感じている人が多いことが分かります。その一方で、ほとんどの方は5以上と回答していることが分かります。

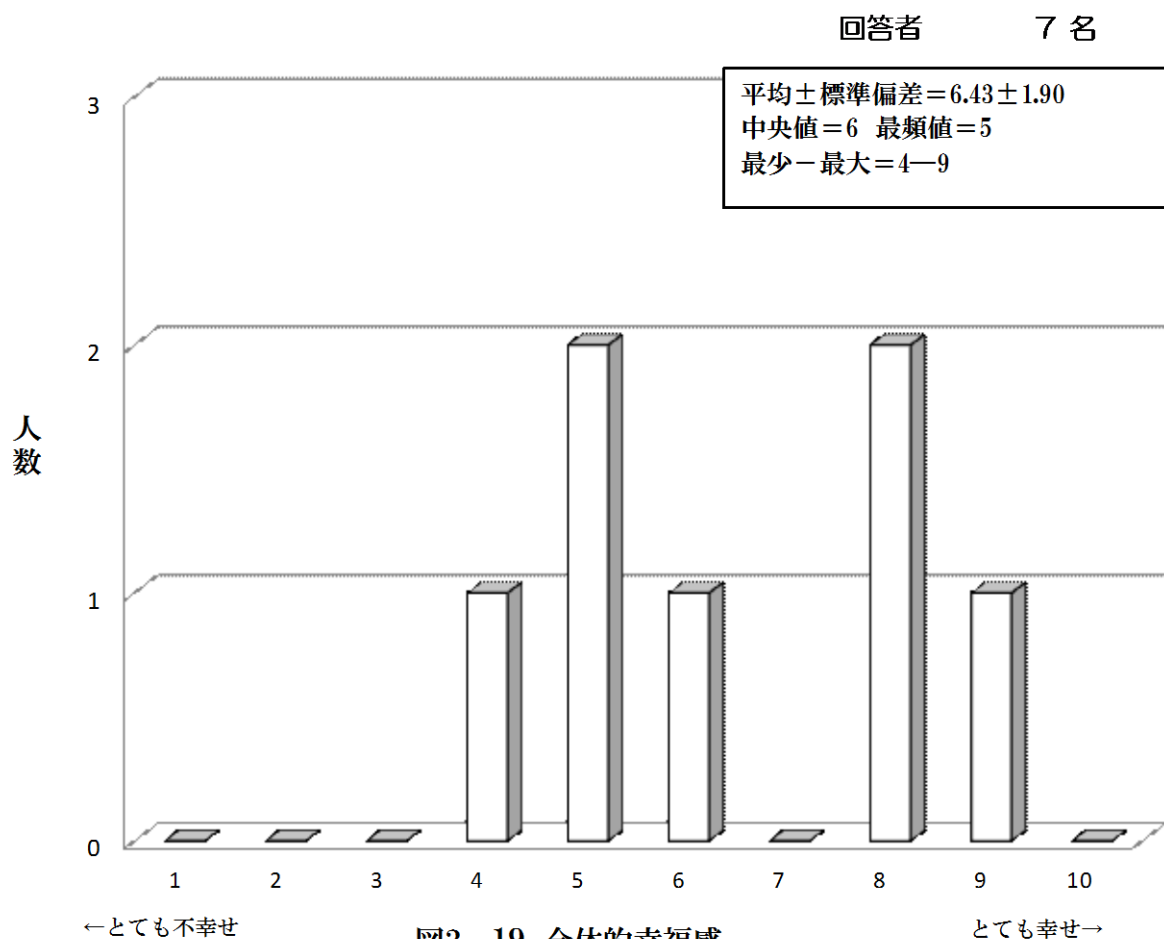


図3-19 全体的幸福感

(19) ひきこもり本人の家庭の世帯主

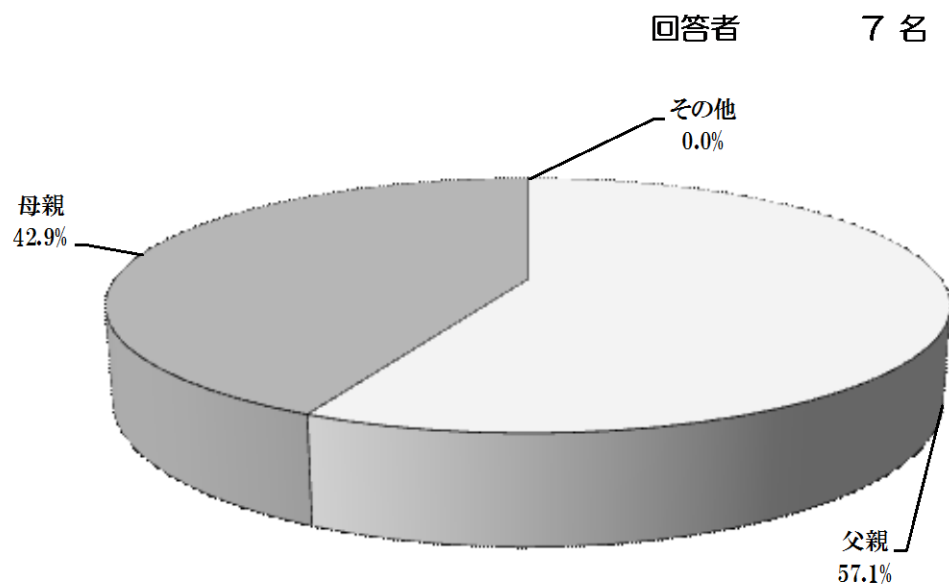


図3-20 ひきこもり本人の家庭の世帯主

図3-20から、ご本人の家庭の世帯主は、7名中4名が父親であることが示されました。また、7名中3名が母親であることが分かります。

（20）兄弟姉妹回答者の家庭の世帯主

図3－21から、兄弟姉妹回答者の家庭の世帯主は、7名中3名が父親であることが示されました。また、7名中2名の兄弟姉妹回答者が世帯主でした。

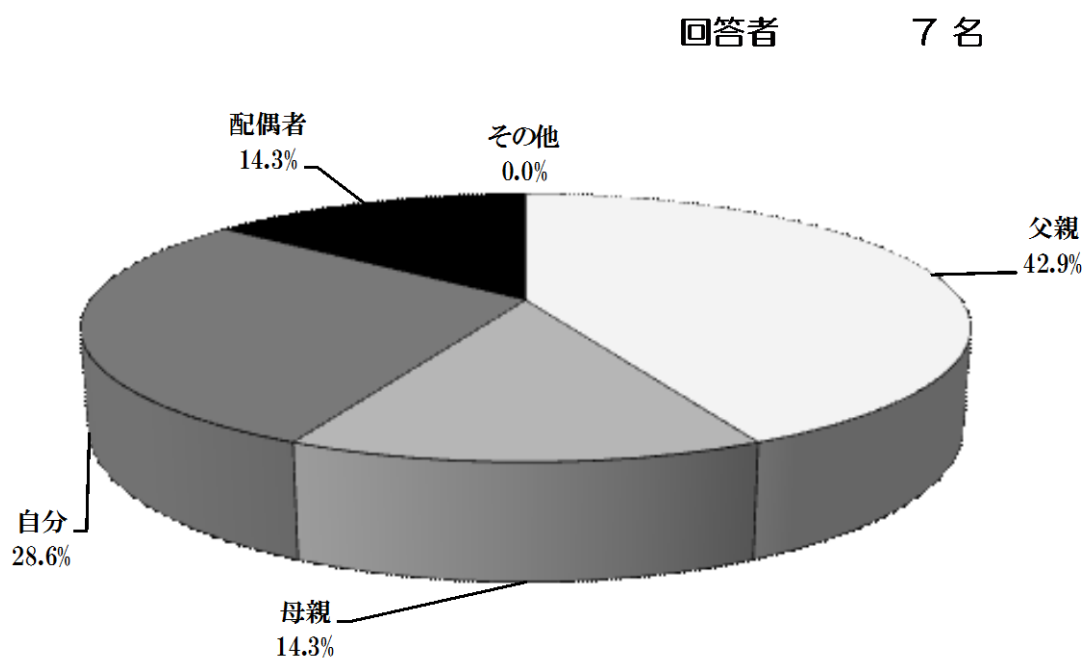
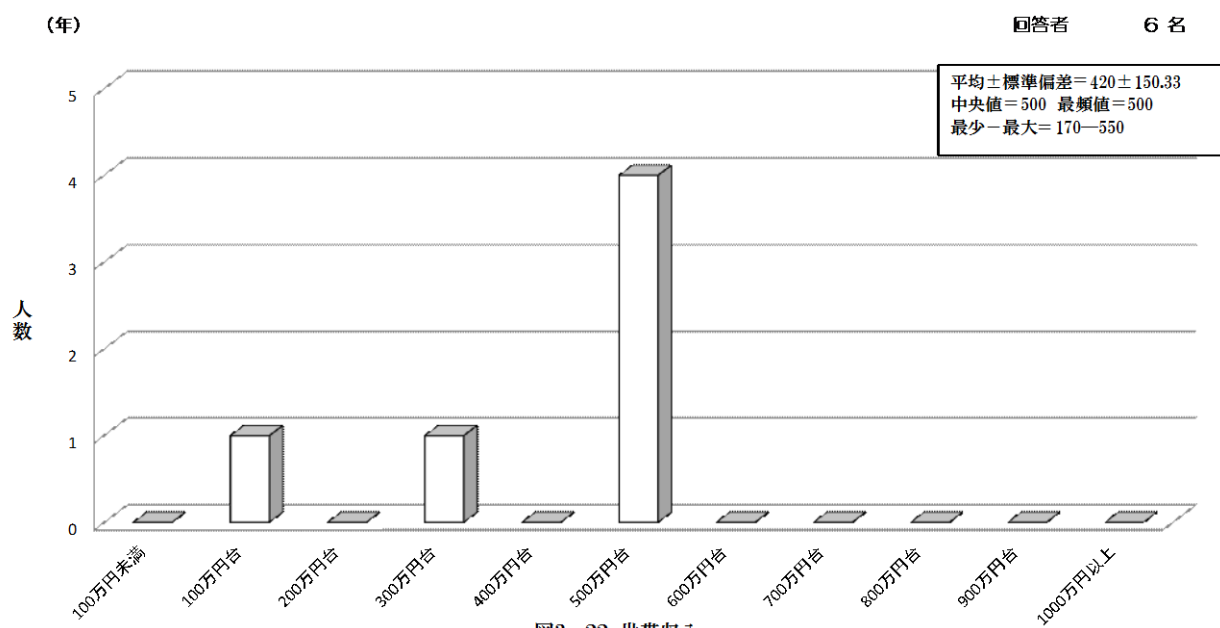


図3－21 兄弟姉妹回答者の家庭の世帯主

（２１）世帯収入

図３－２２から、年間の世帯の平均年収は４２０万円であることが分かります。家族回答者の家庭だけでなく、兄弟姉妹回答者の家庭についても世帯収入が低いことが示されています。



(22) ひきこもり経験者から支援を受けた経験

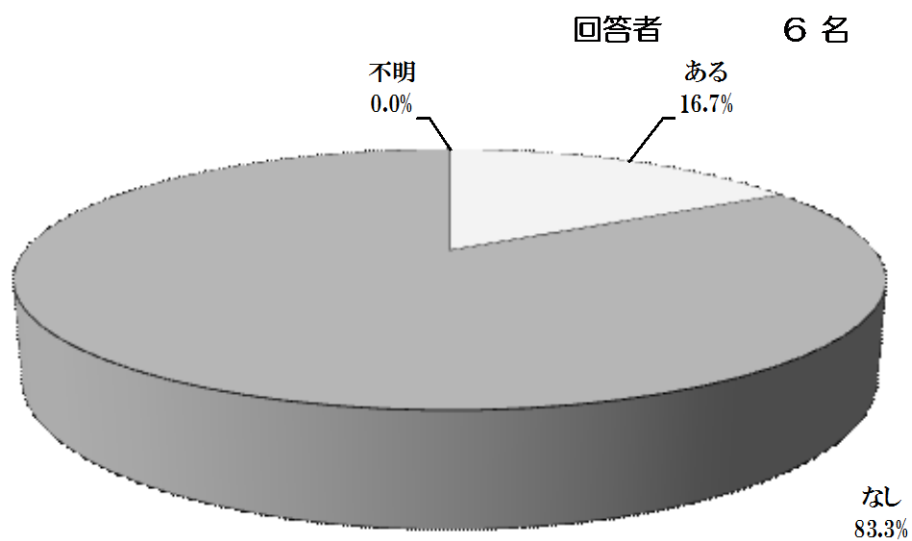


図3-23 ひきこもり経験者から支援を受けた経験

兄弟姉妹回答者のうち、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがあると回答した方は6名中1名でした。家族調査では、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがある方は、40.2%でしたので、兄弟姉妹回答者は家族回答者よりもひきこもり経験者からの支援を受けたことがある方が少ないことが分かります。

(23) ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験

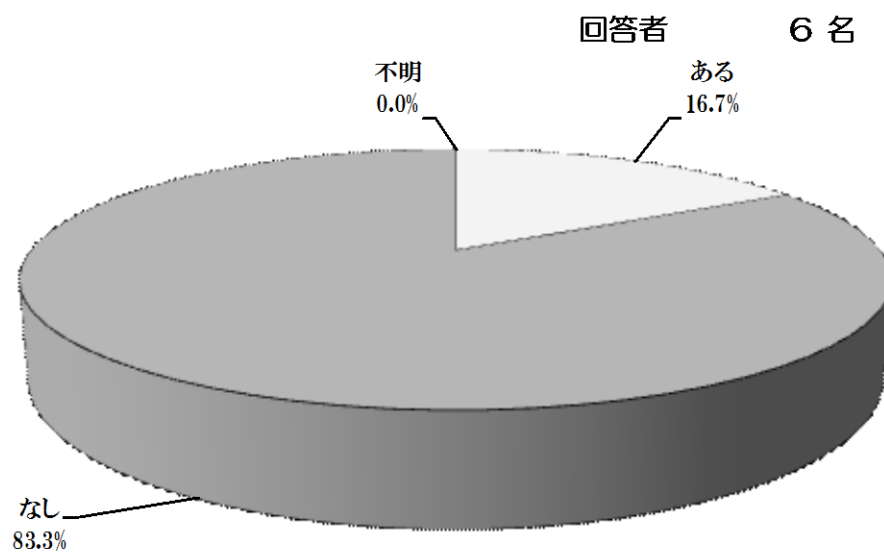


図3-24 ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験

兄弟姉妹回答者のうち、ひきこもり経験者の家族からの支援を受けたことがあると回答した方は6名中1名でした。家族調査では、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがある方は、49.4%でしたので、兄弟姉妹回答者は家族回答者よりもひきこもり経験者からの支援を受けたことがある方が少ないことが分かります。

第四部 全体のまとめ

1. ひきこもり本人の年齢の推移

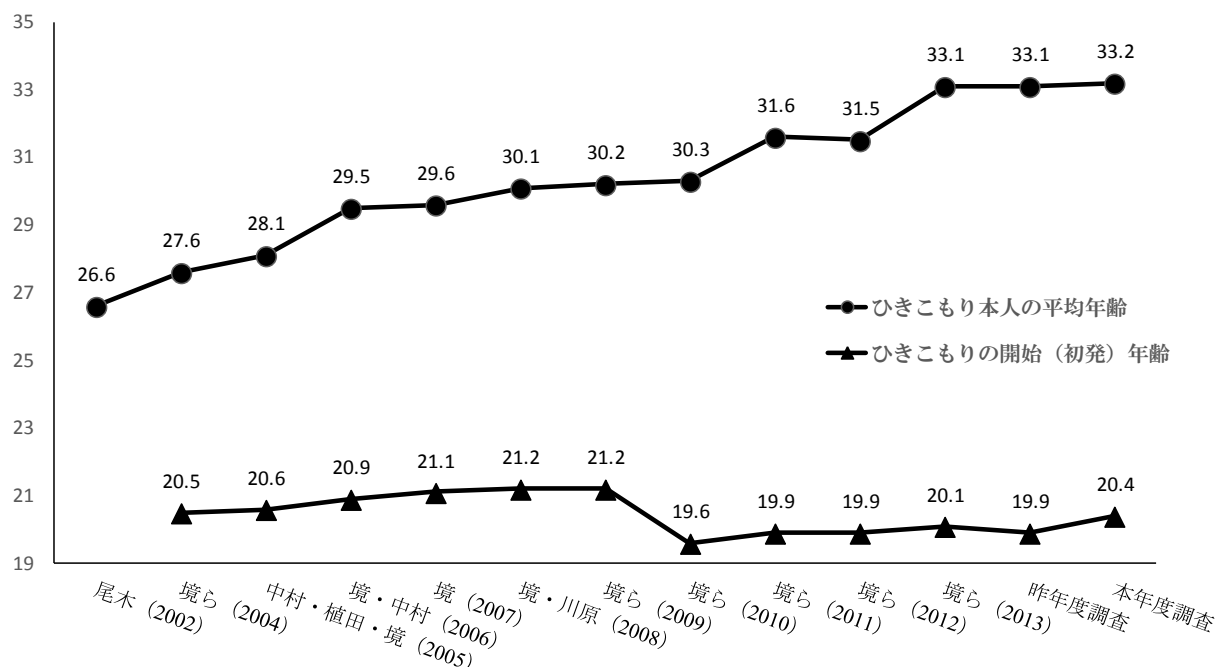


図4－1 ひきこもり本人の年齢の推移

当会の調査を開始した2002年以降のひきこもり本人の年齢の推移を図4－1に示します（境ら，2004，2006，2007，2008，2009，2010，2011，2012，2013；中村ら，2005；特定非営利活動法人全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会），2014）。ひきこもり本人の平均年齢は，本年度33.2歳となり，昨年度からの年齢の上昇はほとんど見られませんでした。2012年においてもひきこもり本人の平均年齢が横ばいになっていましたが，その翌年2013年に一気に2歳平均年齢が上がっています。こうしたことから，来年度にひきこもり本人の平均年齢が大きく上昇する可能性もあります。更なる高年齢化を見据えた支援が必要と考えられます。

ひきこもり本人の年齢に関する実態調査では，調査対象とした15～34歳のうち，30～34歳がもっとも多いことが示され（東京都青少年・治安対策本部，2008），民生委員・児童委員に対する全年齢を対象としたアンケート調査では，30代がもっとも多い（山形県子育て推進部 若者支援・男女共同参画課，2013），40代がもっとも多い（島根県健康福祉部，2014）ことが示されており，当会の本調査と同様，ひきこもり本人の年齢は30代以降が多いことは一貫した結果となっています。

ひきこもりの開始（初発）年齢についても，従来とほぼ同様の年齢でした。ひきこもりの開始年齢に関しては，中学校入学から20代のひきこもり好発期における予防的対応の重要性を一貫して示唆しているものと考えられます。

2. ご家族の年齢の推移

2006 年以降の当会の調査における、ご家族の平均年齢の推移を図 4－2 に示します。ご家族の平均年齢は、全体的には上昇を示しており、2006 年の調査報告書のご家族の平均年齢と比べると、今回は約 3.5 歳高いことが示されています。ご家族の平均年齢の上昇は、ご本人の平均年齢の上昇とも一致しており、ご本人、ご家族ともに高齢化が進んでいることがわかります。ご家族の高齢化および本年度調査での 63.6 歳という結果は、現時点で定年を迎えるご家族が多いだけでなく、今後さらに定年を迎えるご家族が増加する可能性を示しています。このことを考慮すると、ご本人やご家族の生活困窮化を防ぐための対策を促進することが喫緊の課題であると考えられます。

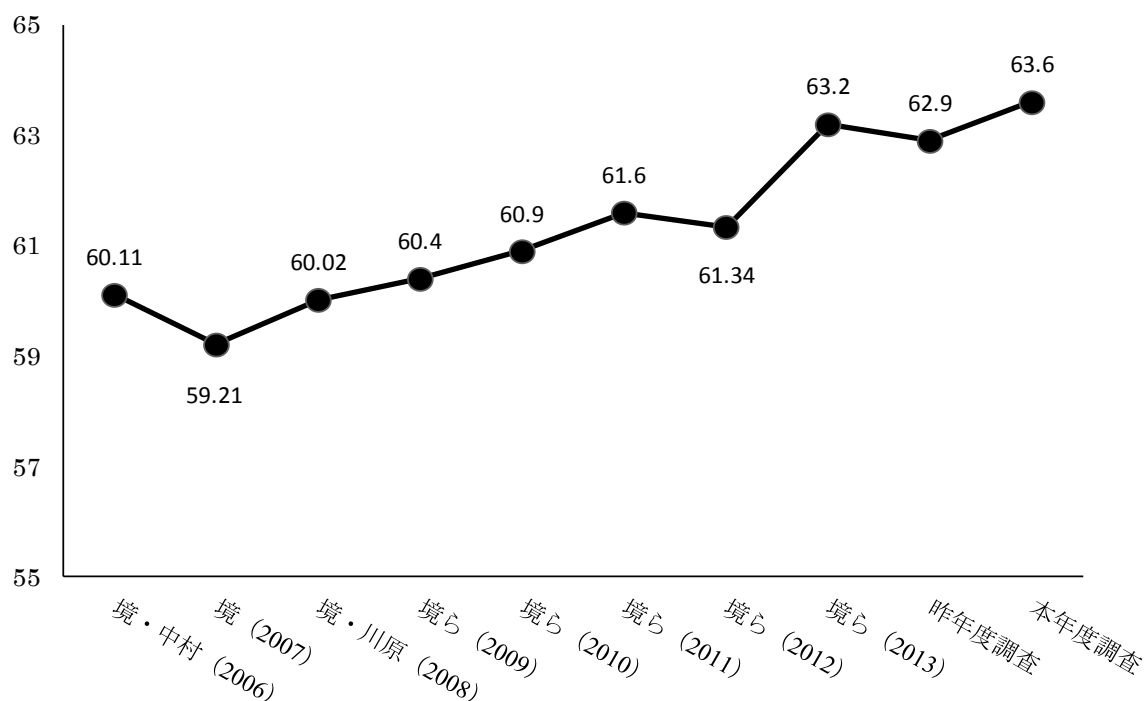


図 4－2 ご家族の平均年齢の推移

3. ひきこもり期間の推移

家族調査において、ご本人のひきこもり期間を示すことができる2005年以降のひきこもり期間の推移を図4-3に示します。ひきこもり期間は、2005年以降、少しずつ上昇を示していましたが、本年度調査では、昨年度調査よりもひきこもり期間がやや短い結果を示しました。ただし、この結果は一時的なものである可能性があるため、ご本人の年齢と同様、引き続き、来年度以降のひきこもり期間の推移を調べていく必要があります。

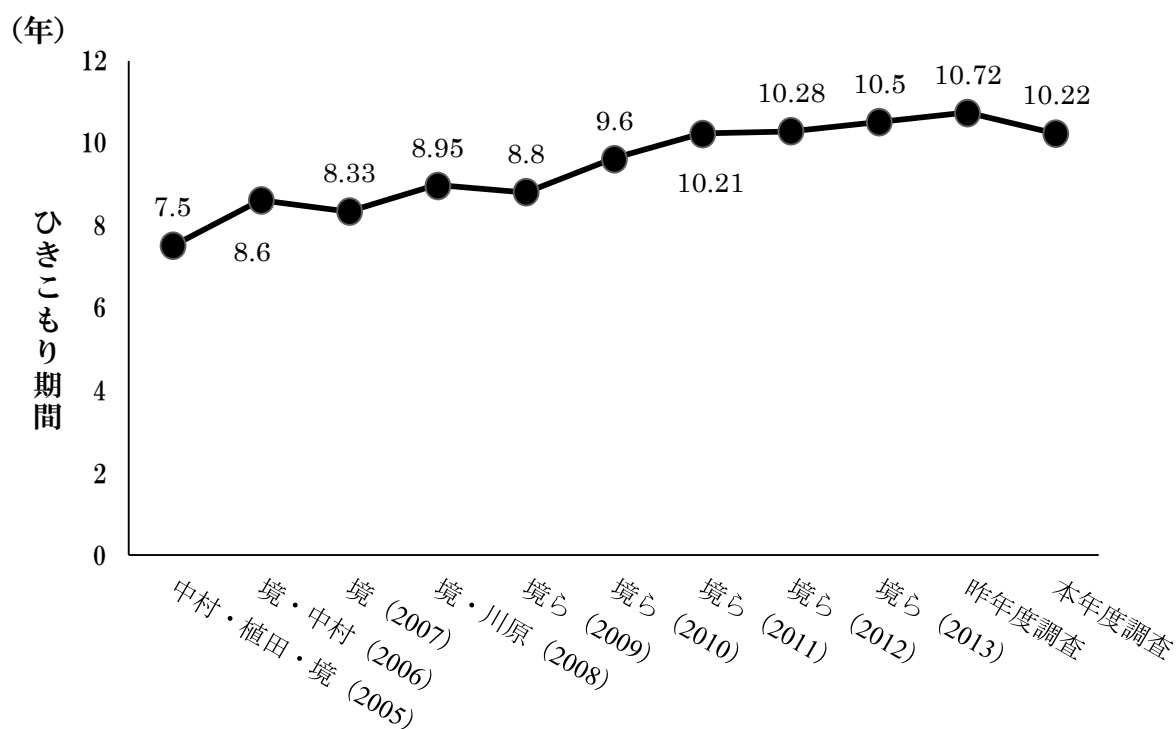


図4-3 ひきこもり期間の推移

4. ひきこもり経験者から支援を受けた経験

図4－4は、ひきこもり経験者から支援を受けた経験を示しています。本人回答者、家族回答者、兄弟姉妹回答者のうち、もっとも受けた経験がある割合が高いのは、本人回答者であり、6割を超えていました。

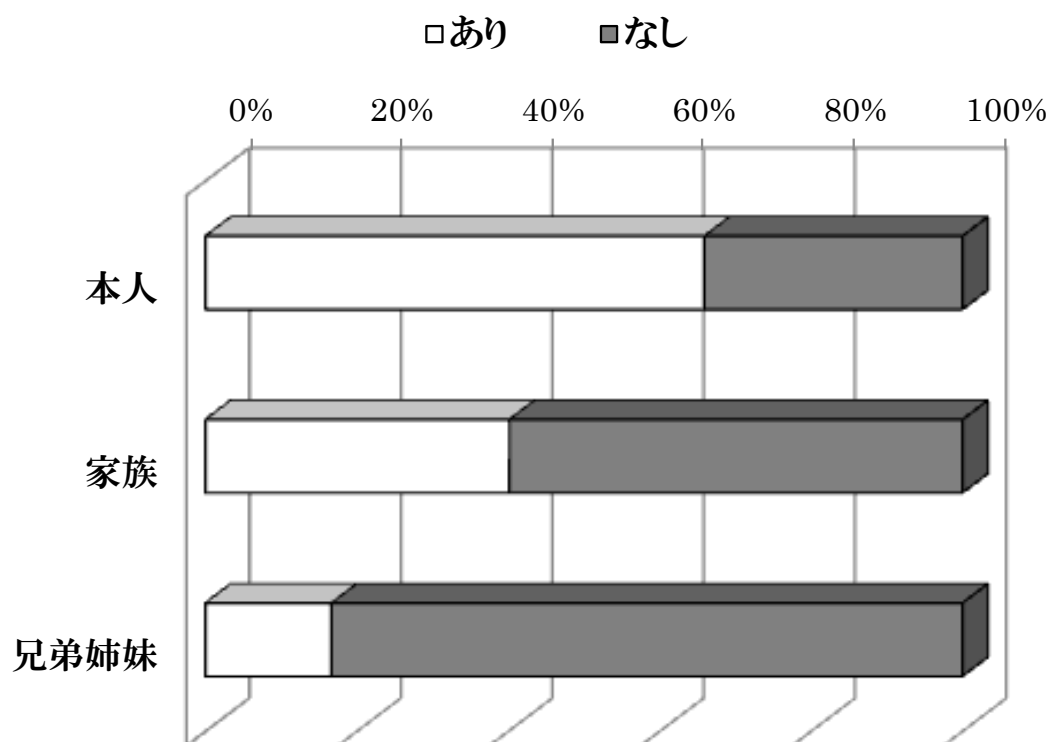


図4－4 ひきこもり経験者から支援を受けた経験

5. ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験

図4－5は、ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験を示しています。本人回答者、家族回答者、兄弟姉妹回答者のうち、もっとも受けた経験がある割合が高いのは、家族回答者であり、5割近い方が受けた経験があると回答しました。

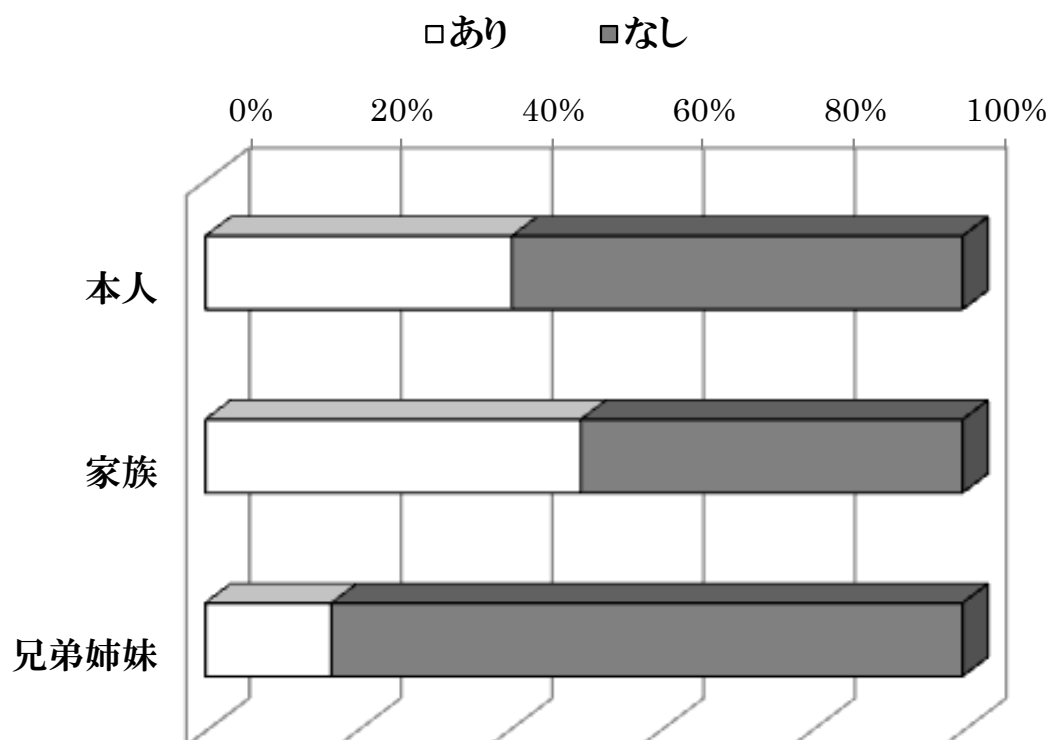


図4－5 ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験

おわりに

ひきこもりピアサポーターの養成を始めて、親の会は大きく変化したように感じています。その最も大きな変化は、ひきこもりの当事者が親の会の中で重要な役割を果たすようになってきたという点です。NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会において、親自身の高齢化は従来から指摘されてきましたが、高齢のために親の会に来ることのできない親が出始めていると言っても過言ではありません。

ひきこもりピアサポーターの大きな意義は、ひきこもり当事者にしかできない役割を見出したことにあるかもしれません。このかけがえのない、ピアという役割を大切に育てていくことがこれからの課題です。本調査からの明らかなように、ひきこもり経験者はひきこもり経験者から、家族は家族から支援を受けている経験が多いことから、同じ経験をしたピアであるということの意味は、唯一無二の強みであると言えます。

その一方で、ひきこもり経験者は、人と接することが苦手であったがゆえに、ひきこもりを経験したという事実も見過ごすことはできません。ひきこもり支援におけるピアという役割は、人と接することに困難を経験した人が、今まさに人と接することができない人と接していこうとしているという難しさを含んでいます。この難しさを克服するのは、まさにピアサポーター養成の最大の課題であると言えます。

ピアサポーターは、ひきこもり経験者にしか得ることのできない社会の中の役割であるとともに、ひきこもり経験者であるからこそ得ることが難しい役割でもあります。容易には達成できないことではありますが、ひきこもり経験者がピアサポーターになれる養成システムを構築していくことが、全国に支部を持つ NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会がやり遂げなければいけない使命であると言えます。

本事業の成果を踏まえ、NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会で蓄積してノウハウを普及するとともに、使命を果たすべく全国の支部の叡智を結集してピアサポーターの養成に取り組んでいきます。

平成 27 年 3 月 吉日

調査事業委員長 境 泉 洋
(徳島大学大学院 SAS 研究部准教授)

調査事業委員 野 中 俊 介

引用・参考文献

- 中村光, 植田健太, 境泉洋, 嶋田洋徳, 金沢吉展, 坂野雄二, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会). (2004). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書① - NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態 -.
- 境泉洋, 平川沙織, 原田素美礼, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会). (2012). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑨ - NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態 -.
- 境泉洋, 堀川寛, 野中俊介, 松本美菜子, 平川沙織, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会). (2011). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑧ - NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態 -.
- 境泉洋, 川原一紗, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会). (2008). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑤ - NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態 -.
- 境泉洋, 川原一紗, 木下龍三, 久保祥子, 若松清江, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会). (2009). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑥ - NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態 -.
- 境泉洋, 中垣内正和, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会). (2007). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書④ - NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態 -.
- 境泉洋, 中村光, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会). (2006). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書③ - NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態 -.
- 境泉洋, 野中俊介, 大野あき子, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会). (2010). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑦ - NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態 -.
- 境泉洋, 斎藤まさ子, 本間恵美子, 真壁あさみ, 内藤守, 小西完爾, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会). (2013). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑩ - NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態 -.

境泉洋, 植田健太, 中村光, 嶋田洋徳, 坂野雄二, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会) . (2004). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書① -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態-.

島根県健康福祉部. (2014). ひきこもり等に関する実態調査報告書.

特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会) . (2014). ひきこもりピアサポーター養成・派遣に関するアンケート調査報告書.

東京都青少年・治安対策本部. (2008). 実態調査からみるひきこもる若者のこころ—平成19年度若年者自立支援調査研究報告書—.

山形県子育て推進部 若者支援・男女共同参画課. (2013). 困難を有する若者に関するアンケート調査報告書.

資 料

資料 1 調査用紙（本人用）

ご本人用

アンケートの説明

本調査は、厚生労働省の平成 26 年度社会福祉推進事業「全国各地の親の会における、ひきこもりピアサポーター養成研修派遣に関する調査研究事業」の助成を得て実施しています。

本調査は、ひきこもりピアサポーターによる支援の実態を明らかにする ことを目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の結果は当会のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力下さいますよう、お願い申し上げます。調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報保護には最大限配慮致します。

全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）

調査の回答に際してご注意いただきたい点

この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのではありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。

この用紙は、切り離してお持ち帰りください。
次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何かございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

調査実施担当者連絡先

〒170-0002 豊島区巣鴨3-4-4

NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）事務局

Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290

E-mail : info@khj-h.com

ホームページ : <http://www.khj-h.com/>

ひきこもり状態・・・この調査では、社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形で外出をしてもよい）のことを言います。

A. 以下の質問について、該当するところに○をつけてください。

1. あなたは現在、ひきこもり状態ですか？ → a. はい b. いいえ
2. あなたは過去に、ひきこもり状態を経験されたことがありますか？
→ a. はい b. いいえ

1. 2. の質問に両方とも「b. いいえ」と答えた方は、ここでアンケートは終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

B. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、下線部に記入してください。

1. あなたが住んでいる都道府県をお答え下さい。： _____ 都・道・府・県
2. あなたの年齢をお答え下さい：（ _____ 歳）
3. あなたの性別をお答え下さい： a. 男性 b. 女性
4. 以下の質問は、あなたの 最近2週間 の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全く 当ては まらない	あ ま り な い は ま	少 し 当 て は ま る	非 常 に 当 て は ま
1. 自由に外出する	0	1	2	3
2. 対人交流が必要な場所に行く	0	1	2	3
3. 対人交流が必要でない場所に行く	0	1	2	3
4. 家庭内では自由に行動する	0	1	2	3
5. 家庭内で避けている場所がある	0	1	2	3
6. 自室に閉じこもる	0	1	2	3

5. あなたとあなたの親は：

- a. 同居 b. 別居（別居してから _____ 年 _____ カ月）

6. 下の例を参考に、あなたのひきこもり期間をお答えください。

（例）19才から1年6か月間と、24才から5年3か月間ひきこもった場合

1回目：（ 19 ）才から、（ 1 ）年（ 6 ）か月間
2回目：（ 24 ）才から、（ 5 ）年（ 3 ）か月間

1回目：（ ）才から、（ ）年（ ）か月間
2回目：（ ）才から、（ ）年（ ）か月間
3回目：（ ）才から、（ ）年（ ）か月間

7. あなたの家庭は、経済状況にはどのくらい困っていますか？ 0を全く困っていない、100を非常に困っているとして、0～100の数字でお答えください。（例：60）

→ （ ）

8. 以下の質問では、生活の中での現在の幸福感を検討することを意図しています。それぞれを回答するときに、あなた自身に次のような質問をしてください。

この領域では、私の生活はどのくらい幸せだろうか？

それぞれの領域について、もっとも当てはまる数字（1-10）を丸（○）で囲んでください。あなたが今日どのように感じているかを正確に示してください。

注意：できるだけ 今日 のあなたの感情のみに集中してください。他の領域の影響を受けないようにしてください。なお、経験している/いないに関わらず 今の状態の幸福感を回答してください。

	とても不幸せ					とても幸せ				
例) 飲酒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
a. 家計状況	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
b. 父親との関係	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
c. 母親との関係	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
d. 対人関係	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
e. 全体的幸福感	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

C. ピアサポーターによる支援について、下記の質問にお答えください。

1. ひきこもり経験者 から下記の支援を受けたことがありますか？ 当てはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

A. ある → 具体的に

B. ない

- | | |
|---------------|----------------|
| a. アウトリーチ（訪問） | b. 学習会・講座・体験発表 |
| c. 宿泊型の生活の場 | d. ピアカウンセリング |
| e. 居場所・中間施設 | f. 就職相談・就労支援 |
| g. 茶話会（親の集まり） | h. その他（ ） |

2. ひきこもり経験者の家族 から下記の支援を受けたことがありますか？ ある場合は、受けたことがあるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

A. ある → 具体的に

B. ない

- | | |
|---------------|----------------|
| a. アウトリーチ（訪問） | b. 学習会・講座・体験発表 |
| c. 宿泊型の生活の場 | d. ピアカウンセリング |
| e. 居場所・中間施設 | f. 就職相談・就労支援 |
| g. 茶話会（親の集まり） | h. その他（ ） |

●本調査についてお気づきの点がありましたら、自由にお書きください。

質問は以上です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき誠にありがとうございました。

資料 2 調査用紙（家族用）

ご家族用

アンケートの説明

本調査は、厚生労働省の平成 26 年度社会福祉推進事業「全国各地の親の会における、ひきこもりピアサポーター養成研修派遣に関する調査研究事業」の助成を得て実施しています。

本調査は、ひきこもりピアサポーターによる支援の実態を明らかにする ことを目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の結果は当会のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力下さいますよう、お願い申し上げます。調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報保護には最大限配慮致します。

全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）

調査の回答に際してご注意いただきたい点

- ① 本調査では、このアンケートに答えていただいている方（ご家族など）を「あなた」、ひきこもり状態にある（あった）方を「ご本人」と標記しています。
- ② この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのはありませんので、他の方とは相談せず、お一人でご回答ください。
- ③ ひきこもり状態を経験された方一人につき、一部の質問紙に、お一人でご回答ください。

この用紙は、切り離してお持ち帰りください。

次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何かございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

調査実施担当者連絡先

〒170-0002 豊島区巣鴨3-4-4

NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）事務局

Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290

E-mail : info@khj-h.com

ホームページ : <http://www.khj-h.com/>

ひきこもり状態・・・この調査では、社会的参加（義務教育を含む就学，非常勤職を含む就労，家庭外での交遊など）を回避し，概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）のことを言います。

A. 以下の質問について，該当するところに○をつけてください。

2. ご本人は現在，ひきこもり状態ですか？ → a. はい b. いいえ
2. ご本人は過去に，ひきこもり状態を経験されたことがありますか？ → a. はい b. いいえ
3. ひきこもり状態にある人が，家族に2人以上いる方は次の問いにお答えください。
家族の中でひきこもり状態にある方の人数をお答えください。→ [] 人

2人以上いると回答された方は，ひきこもり状態を経験された方一人につき，一部の質問紙に，お一人でご回答くださいますようお願いいたします。

B. 以下の質問について，該当するところに○をつけるか，下線部に具体的に記入してください。

8. あなたが住んでいる都道府県をお答え下さい。： _____ 都・道・府・県
9. ご本人から見た，あなたの立場をお答え下さい。
a. 母親 b. 父親 c. その他（具体的に_____）
10. あなたの年齢をお答え下さい：（_____ 歳）
11. ご本人の性別をお答え下さい： a. 男性 b. 女性
12. ご本人の年齢をお答え下さい：（_____ 歳）
6. ご本人に兄弟姉妹はいますか？： a. いる b. いない

いる場合，下記に具体的にお書きください（例：あなたともご本人とも別居の兄 35 歳の場合）

続柄	年齢	あなたとの同別居	ご本人との同別居
例) 兄	35	同居 ・ 別居	同居 ・ 別居
		同居 ・ 別居	同居 ・ 別居
		同居 ・ 別居	同居 ・ 別居
		同居 ・ 別居	同居 ・ 別居

7. あなたとご本人の同別居をお答え下さい：

- a. 同居 b. 別居（別居してから_____年_____カ月）

8. 下の例を参考に、ご本人のひきこもり期間をお答えください。

（例）19才から1年6か月間と、24才から5年3か月間ひきこもった場合

1回目：（ 19 ）才から、（ 1 ）年（ 6 ）か月間
2回目：（ 24 ）才から、（ 5 ）年（ 3 ）か月間

1回目：（ ）才から、（ ）年（ ）か月間
2回目：（ ）才から、（ ）年（ ）か月間
3回目：（ ）才から、（ ）年（ ）か月間

9. あなたが入会しているKHJ親の会支部会についてお答えください。

※複数ある場合は、活動している支部名をお書きください。

- a. 会の名前（_____） b. 入会していない

10. 以下の質問は、ご本人の最近2週間（別居の場合、知りうるかぎり最近）の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全く 当ては まらない	あ ま り 当 て は ま り ない	少 し 当 て は ま る	非 常 に 当 て は ま る
1. 自由に外出する	0	1	2	3
2. 対人交流が必要な場所に行く	0	1	2	3
3. 対人交流が必要でない場所に行く	0	1	2	3
4. 家庭内では自由に行動する	0	1	2	3
5. 家庭内で避けている場所がある	0	1	2	3
6. 自室に閉じこもる	0	1	2	3

11. あなたは、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？

- a. はい → （①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない）

b. いいえ



利用したことがある機関は何か所ですか？（_____）か所

12. ご本人は、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？

- a. はい → （①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない）

b. いいえ



利用したことがある機関は何か所ですか？（_____）か所

13. あなたの家庭は、経済状況にはどのくらい困っていますか？ 0を全く困っていない、100を非常に困っているとして、0～100の数字でお答えください。（例：60）

→ ()

14. 以下の質問では、生活の中での現在の幸福感を検討することを意図しています。それぞれを回答するときに、あなた自身に次のような質問をしてください。

この領域では、私の生活はどのくらい幸せだろうか？

それぞれの領域について、もっとも当てはまる数字（1-10）を丸（○）で囲んでください。あなたが今日どのように感じているかを正確に示してください。

注意：できるだけ 今日 のあなたの感情のみに集中してください。他の領域の影響を受けないようにしてください。なお、経験している/いないに関わらず 今の状態の幸福感を回答してください。

	とても不幸せ					とても幸せ				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
例) 飲酒					○					
a. 家計状況										
b. ご本人との関係										
c. 家族関係										
d. 全体的幸福感										

C. ピアサポーター支援と経済状況の関連を検討するため、下記の質問にお答えください。

1. ご本人から見て、あなたの家庭の世帯主をお答えください。

a. 父親 b. 母親 c. その他（具体的に_____）

2. あなたの家庭の昨年1年間の世帯収入をお答えください：（_____万円）

3. ご本人にかかる、月平均の費用をお答えください：（_____万円）

4. ご本人にかかる費用の内訳について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

a. 小遣い b. 医療費 c. 生活費 d. カウンセリング（居場所を含む）
e. 年金 f. 保険 g. 学費 h. その他（_____）

D. ピアサポーターによる支援について、下記の質問にお答えください。

3. ひきこもり経験者 から下記の支援を受けたことがありますか？ 当てはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

A. ある → 具体的に

B. ない

- 
- a. アウトリーチ（訪問） b. 学習会・講座・体験発表
c. 宿泊型の生活の場 d. ピアカウンセリング
e. 居場所・中間施設 f. 就職相談・就労支援
g. 茶話会（親の集まり） h. その他（ ）

4. ひきこもり経験者の家族 から下記の支援を受けたことがありますか？ ある場合は、
受けたことがあるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

A. ある → 具体的に

B. ない

- 
- a. アウトリーチ（訪問） b. 学習会・講座・体験発表
c. 宿泊型の生活の場 d. ピアカウンセリング
e. 居場所・中間施設 f. 就職相談・就労支援
g. 茶話会（親の集まり） h. その他（ ）

●本調査についてお気づきの点がありましたら、自由にお書きください。

質問は以上です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき誠にありがとうございました。

資料 3 調査用紙（兄弟姉妹用）

ご兄弟姉妹用

アンケートの説明

本調査は、厚生労働省の平成 26 年度社会福祉推進事業「全国各地の親の会における、ひきこもりピアサポーター養成研修派遣に関する調査研究事業」の助成を得て実施しています。

本調査は、ひきこもりピアサポーターによる支援の実態を明らかにすることを目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の結果は当会のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力下さいますよう、お願い申し上げます。調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報保護には最大限配慮致します。

全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）

調査の回答に際してご注意いただきたい点

- ④ 本調査では、このアンケートに答えていただいている方（ご兄弟姉妹）を「あなた」、ひきこもり状態にある（あった）方を「ご本人」と標記しています。
- ⑤ この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのはありませんので、他の方とは相談せず、お一人でご回答ください。
- ⑥ ひきこもり状態を経験された方一人につき、一部の質問紙に、お一人でご回答ください。

この用紙は、切り離してお持ち帰りください。

次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何かございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

調査実施担当者連絡先

〒170-0002 豊島区巣鴨3-4-4

NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）事務局

Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290

E-mail : info@khj-h.com

ホームページ : <http://www.khj-h.com/>

ひきこもり状態・・・この調査では、社会的参加（義務教育を含む就学，非常勤職を含む就労，家庭外での交遊など）を回避し，概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）のことを言います。

A. 以下の質問について，該当するところに○をつけてください。

3. ご本人は現在，ひきこもり状態ですか？ → a. はい b. いいえ
2. ご本人は過去に「ひきこもり状態」を経験されたことがありますか？
→ a. はい b. いいえ
3. ひきこもり状態にある人が，家族に2人以上いる方は次の問いにお答えください。
家族の中でひきこもり状態にある方の人数をお答えください。→ [] 人

2人以上いると回答された方は，ひきこもり状態を経験された方一人につき，一部の質問紙に，お一人でご回答くださいますようお願いいたします。

B. 以下の質問について，該当するところに○をつけるか，下線部に具体的に記入してください。

13. あなたが住んでいる都道府県をお答え下さい： _____ 都・道・府・県
14. ご本人から見た，あなたの立場をお答え下さい：
a. 兄 b. 姉 c. 弟 d. 妹 e. その他（具体的に_____）
15. あなたの年齢をお答え下さい：（_____歳）
16. ご本人の性別をお答え下さい： a. 男性 b. 女性
17. ご本人の年齢をお答え下さい：（_____歳）
18. ご両親の年齢をお答え下さい。あるいは、当てはまるものに○をつけて下さい：
父親：（_____歳） ・ 死別 ・ 不明
母親：（_____歳） ・ 死別 ・ 不明
19. あなたとご両親の同別居をお答えください：
a. 同居 b. 別居（別居してから_____年_____カ月）
20. あなたとご本人の同別居をお答え下さい：
a. 同居 b. 別居（別居してから_____年_____カ月）

21. 下の例を参考に、ご本人のひきこもり期間をお答えください。

（例）19才から1年6か月間と、24才から5年3か月間ひきこもった場合

1回目：（ 19 ）才から、（ 1 ）年（ 6 ）か月間

2回目：（ 24 ）才から、（ 5 ）年（ 3 ）か月間

1回目：（ ）才から、（ ）年（ ）か月間

2回目：（ ）才から、（ ）年（ ）か月間

3回目：（ ）才から、（ ）年（ ）か月間

22. あなたが入会しているKHJ親の会支部会についてお答えください。

※複数ある場合は、活動している支部名をお書きください。

a. 会の名前（ ） b. 入会していない

「a」と回答された方 → 親の会への参加理由を自由にお答えください。

例）親の不参加、同じ立場の人と話したい

23. 以下の質問は、ご本人の最近2週間（別居の場合、知りうるかぎり最近）の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全く 当ては まらない	あ ま り 当 て は ま り な い は	少 し 当 て は ま る	非 常 に 当 て は ま る
1. 自由に外出する	○	1	2	3
2. 対人交流が必要な場所に行く	○	1	2	3
3. 対人交流が必要でない場所に行く	○	1	2	3
4. 家庭内では自由に行動する	○	1	2	3
5. 家庭内で避けている場所がある	○	1	2	3
6. 自室に閉じこもる	○	1	2	3

12. あなたは、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？

c. はい → （①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない）

d. いいえ



利用したことがある機関は何か所ですか？（ ）か所

13. ご本人は、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？

a. はい → （①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない）

b. いいえ



利用したことがある機関は何か所ですか？（ ）か所

14. ご本人の家庭は、経済状況にはどのくらい困っていますか？ 0を全く困っていない、100を非常に困っているとして、0～100の数字でお答えください。（例：60）

→（ ）

13. 以下の質問では、生活の中での現在の幸福感を検討することを意図しています。それぞれを回答するときに、あなた自身に次のような質問をしてください。

この領域では、私の生活はどのくらい幸せだろうか？

それぞれの領域について、もっとも当てはまる数字（1-10）を丸（○）で囲んでください。あなたが今日どのように感じているかを正確に示してください。

注意：できるだけ 今日 のあなたの感情のみに集中してください。他の領域の影響を受けないようにしてください。なお、経験している/いないに関わらず 今の状態の幸福感を回答してください。

	とても不幸せ					とても幸せ				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
例) 飲酒					○					
a. (あなたの家庭の) 家計状況										
b. ご本人との関係										
c. ご両親との関係										
d. 全体的幸福感										

C. ピアサポーター支援と経済状況の関連を検討するため、下記の質問にお答えください。

1. ご本人から見た、ご本人の家庭の世帯主をお答えください。

a. 父親 b. 母親 c. その他（具体的に_____）

2. あなたから見た、あなたの家庭の世帯主をお答えください。

a. 父親 b. 母親 c. 自分 d. 配偶者 e. その他（具体的に_____）

3. あなたの家庭の昨年1年間の世帯収入を、お分かりになる範囲でお答えください：

(万円)

D. ピアサポーターによる支援について、下記の質問にお答えください。

5. ひきこもり経験者 から下記の支援を受けたことがありますか？ 当てはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

A. ある → 具体的に

B. ない

- a. アウトリーチ（訪問） b. 学習会・講座・体験発表
c. 宿泊型の生活の場 d. ピアカウンセリング
e. 居場所・中間施設 f. 就職相談・就労支援
g. 茶話会（親の集まり） h. その他（ ）

6. ひきこもり経験者の家族 から下記の支援を受けたことがありますか？ ある場合は、
受けたことがあるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

A. ある → 具体的に

B. ない

- a. アウトリーチ（訪問） b. 学習会・講座・体験発表
c. 宿泊型の生活の場 d. ピアカウンセリング
e. 居場所・中間施設 f. 就職相談・就労支援
g. 茶話会（親の集まり） h. その他（ ）

●本調査についてお気づきの点がありましたら、自由にお書きください。

--

質問は以上です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき誠にありがとうございました。